

平成18年度熊谷市埋蔵文化財調査報告書

拾六間後遺跡Ⅱ

一熊谷都市計画事業籠原中央第二土地区画整理事業地内遺跡発掘調査報告書一

2 0 0 7

埼玉県熊谷市教育委員会

平成18年度熊谷市埋蔵文化財調査報告書

じゅう ろっ けん うしろ い せき
拾 六 間 後 遺 跡 II

—熊谷都市計画事業籠原中央第二土地区画整理事業地内遺跡発掘調査報告書—

2 0 0 7

埼玉県熊谷市教育委員会

序

平成17年10月1日、熊谷市、大里町、妻沼町の一市二町が、さらに平成19年2月13日、江南町と合併して、新「熊谷市」が誕生いたしました。

新「熊谷市」は、南北約20km、東西約14kmにわたり、面積は159.88km²、人口は20万人を越えることとなり、県北最大の都市として生まれ変わりました。

新市は、関東平野を縦横に流れる荒川と利根川の2大河川が最も近接する流域に位置し、平坦な地形に肥沃な大地と豊かな自然が広がっております。

こうした自然環境のもと、新市内には先人たちによって多くの文化財が営々と築かれてきました。これらの文化財は、郷土の発展やその過程を物語る証しであるとともに、私たちの子孫の繁栄の指標ともなる先人の貴重な足跡であります。私たちは、こうした文化遺産を継承し、次世代へと伝え、さらに豊かな熊谷市形成のための礎としていかなければならないと考えております。

さて、熊谷市では市民が暮らしやすく、生活環境の豊かさを実感できる土地利用を図ることを目的に土地区画整理事業を進めております。J R高崎線籠原駅南口に広がる籠原中央第二土地区画整理事業もその一つであります。事業地内には事前の試掘調査により、奈良・平安時代から近世にかけての遺構が確認されました。遺跡の重要性を鑑みて、関係部局と保存に向けて協議を行ってまいりましたが、土地区画整理事業上やむを得ず計画等の変更ができない街路築造工事に関しては、記録保存の措置を講ずることとなりました。

本書は、昭和63年度及び平成元年度に発掘調査を行った拾六間後遺跡のうち、平成元年度調査分について報告するものであります。遺跡からは主に奈良・平安時代の集落跡が発見され、集落跡が小規模ながらもほぼ絶えることなく営まれていたことがわかりました。この成果は、近年深谷市で発見された古代の役所跡と推測される幡羅遺跡を中心とする当地域の様相を明らかにする上で大変貴重なものといえます。

本書は、新市として初めて刊行する埋蔵文化財発掘調査報告書となります。本書が埋蔵文化財保護、学術研究の基礎資料として、また埋蔵文化財の普及・啓発の資料として広くご活用いただければ幸いと存じます。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書刊行に至るまで、文化財保護法の趣旨を尊重され、ご理解ご協力を賜りました熊谷市都市整備部都市計画課、土地区画整理西部事務所、並びに地元関係者には厚くお礼申し上げます。

平成19年3月

熊谷市教育委員会
教育長 野原 晃

例 言

- 1 本書は、埼玉県熊谷市新堀新田字堂西306番地他に所在する拾六間後遺跡（埼玉県遺跡番号59-059）の発掘調査報告書である。
- 2 本調査は、熊谷都市計画事業籠原中央第二土地区画整理事業に伴う事前記録保存のための発掘調査であり、熊谷市教育委員会が実施した。
- 3 本事業の組織は、第Ⅰ章3のとおりである。
- 4 発掘調査期間は、平成元年11月6日から平成2年3月31日までである。
整理・報告書作成期間は、平成18年4月1日から平成19年3月31日までである。
- 5 発掘調査は、熊谷市教育委員会金子正之が行った。
- 6 本書の執筆の内Ⅱを松田哲が行った。他の執筆及び編集は、寺社下博が行った。
- 7 発掘調査における写真撮影は金子が、遺物の写真撮影は寺社下が行った。
- 8 出土品の整理及び図版の作成は、岩瀬悦子、木村のぶ子、嶋崎恵、平山由美、福島ひとみ、茂木永子の協力を得て、寺社下が行った。
- 9 本書にかかる資料は、熊谷市教育委員会が保管している。
- 10 本書の作成にあたり、下記の方々及び機関等からご教示、ご協力を賜った。記して感謝申し上げます。（敬称略、五十音順）

大里郡市町村文化財担当者会 埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課
埼玉県立埋蔵文化財センター (財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団




凡 例

本書における挿図指示は、次のとおりである。

- 1 遺構挿図の縮尺は、次のとおりであるが、それ以外のものは個別に示した。

調査区全測図…1/600 住居跡・集石土坑・土坑・ピット…1/60 1号集石土坑…1/40
溝跡平面図…1/200 溝跡断面図…1/60 8号溝跡…1/30

- 2 遺構挿図中のスクリーントーン等は、次のとおりである。

=地 山 =焼 土 =骨片・骨粉



- 3 遺構挿図中、断面に添えてある数値は標高を示している。


- 4 遺物挿図の縮尺は、原則として次のとおりであるが、それ以外のものは個別に示した。

土師器・轆轤土師器・須恵器・灰釉陶器・陶磁器・かわらけ・鉄製品…1/4 古銭…1/1
縄文土器…1/3 土錘…1/2 石器・石製品…1/8・1/6・1/4


- 5 遺物実測図の表現方法は、以下のとおりである。

土師器・陶磁器・かわらけ・土製品・石製品・縄文土器・鉄製品・石器断面：白抜き

須恵器断面：黒塗り 陶器施釉部分及び灰釉断面： 轆轤土師器断面：

須恵器底部調整 回転糸切り 

回転ヘラ削り 

回転ヘラナデ 

- 6 遺物拓影図のうち、向かって左に外面、右に内面を示した。

- 7 遺物観察表の表現方法は、以下のとおりである。

法量の単位はcm、gである。()が付されるものは推定値、現存値を表す。

胎土は、土器に含まれる鉱物等を以下の記号で、含有量の多い順に示した。

A…白色粒子 B…黒色粒子 C…赤色粒子 D…褐色粒子 E…赤褐色粒子

F…白色針状物質 G…長石 H…石英 I…白雲母 J…黒雲母 K…角閃石

L…片岩 M…砂粒 N…礫

- 8 写真図版の遺物縮尺は、すべて任意である。

- 9 土層及び土器の色調は、『新版標準土色帖第14版』（小山正忠・竹原秀雄編著、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色標監修、日本色研事業株式会社発行 1994）を参考にした。

目 次

口 絵
序
例 言
凡 例
目 次

I 発掘調査の概要	IV 遺構と遺物
1 調査に至る経過	1 住居跡
2 発掘調査・報告書作成の経過	2 溝 跡
3 発掘調査、整理・報告書刊行の組織	3 集石土坑
II 遺跡の立地と環境	4 土 坑
III 遺跡の概要	5 ピット
1 調査の方法	6 遺構外出土遺物
2 検出された遺構と遺物	V 調査のまとめ

挿図目次

第1図 埼玉県の地形図	第17図 溝跡（2）第2号・4号～6号・9号、 第10号・11号溝跡
第2図 周辺遺跡分布図	第18図 溝跡（3）第8号溝跡
第3図 調査地点位置図	第19図 溝跡出土遺物（第1号・2号・5号・8号）
第4図 調査区（B区）全測図	第20図 第1号集石土坑・遺物出土状況
第5図 第1号住居跡・遺物出土状況・出土遺物、 第31号土坑、P43	第21図 第1号集石土坑出土遺物
第6図 第2号住居跡・遺物出土状況・出土遺物、 第7号溝跡	第22図 第2号集石土坑・出土遺物
第7図 第3号住居跡・遺物出土状況	第23図 第1土坑・ピット群
第8図 第3号住居跡出土遺物	第24図 土坑（1）第1号～12号土坑
第9図 第4号住居跡・遺物出土状況・出土遺物	第25図 土坑（2）第13号～22号土坑
第10図 第5号住居跡・出土遺物	第26図 第2土坑群
第11図 第6号住居跡・遺物出土状況	第27図 土坑（3）第23号～28号土坑
第12図 第6号住居跡出土遺物	第28図 第3土坑群
第13図 第7号住居跡・遺物出土状況	第29図 土坑（4）第29号～30号・32号～35号土 坑
第14図 第7号住居跡出土遺物	第30図 土坑（5）第36号～47号土坑
第15図 第8号住居跡・出土遺物	第31図 第4土坑群
第16図 溝跡（1）第1号～3号・5号溝跡	第32図 土坑（6）第48号～58号土坑、P44～46

第33図	土坑（7）第59号～70号土坑	第41図	土坑出土遺物（2）第35号～79号土坑
第34図	第5土坑群	第42図	土坑出土遺物（3）第80号～107号土坑
第35図	土坑（8）第71号～82号土坑	第43図	土坑出土遺物（4）第107号～118号土坑
第36図	土坑（9）第83号～86号・89号～95号土坑	第44図	土坑出土遺物（5）古銭
第37図	土坑（10）第87号・88号・96号～107号土坑	第45図	ピット（1）P1～P24・P9出土遺物
第38図	土坑（11）第108号～117号土坑	第46図	ピット（2）P25～P41・P47～P50・P52～P66
第39図	土坑（12）第118号土坑	第47図	I・III区遺構外出土遺物
第40図	土坑出土遺物（1）第2号～32号土坑	第48図	II区遺構外出土遺物

挿表目次

第1表	周辺遺跡一覧表	第10表	第8号住居跡出土遺物観察表
第2表	周辺古墳群一覧表	第11表	溝跡出土遺物観察表
第3表	第1号住居跡出土遺物観察表	第12表	土坑一覧表
第4表	第2号住居跡出土遺物観察表	第13表	土坑出土遺物観察表
第5表	第3号住居跡出土遺物観察表	第14表	ピット一覧表
第6表	第4号住居跡出土遺物観察表	第15表	ピット出土遺物観察表
第7表	第5号住居跡出土遺物観察表	第16表	I区遺構外出土遺物観察表
第8表	第6号住居跡出土遺物観察表	第17表	II区遺構外出土遺物観察表
第9表	第7号住居跡出土遺物観察表	第18表	III区遺構外出土遺物観察表

図版目次

図版1	調査区（B区）全景（真上から）	第6号住居跡
遺構		第6号住居跡カマド 遺物出土状況
図版2	第1号住居跡・第31号土坑・P43	第7号住居跡
	第1号住居跡 遺物出土状況（1）	第7号住居跡 遺物出土状況
	第1号住居跡 遺物出土状況（2）	第7号住居跡 カマド
	第1号住居跡 遺物出土状況（3）	第7号住居跡 カマド遺物出土状況
	第2号住居跡	図版4
	第3号住居跡	第8号住居跡
	第3号住居跡カマド	第8号住居跡カマド
	第3号住居跡 遺物出土状況	第2・3・4・5号溝跡
図版3	第4号住居跡	第8号溝跡
	第4号住居跡カマド	第1号集石土坑 検出状況
		第1号集石土坑

第1号集石土坑 遺物出土狀況(1)
第1号集石土坑 骨出土狀況
図版5 第1号集石土坑 遺物出土狀況(2)
第2号集石土坑 検出狀況
第2号集石土坑
第13号土坑
第14号土坑
第14号土坑 遺物出土狀況
第15号土坑
第15号土坑 菌検出狀況
図版6 第15号土坑 遺物出土狀況(1)
第15号土坑 遺物出土狀況(2)
第2土坑群
第16号土坑 遺物出土狀況
第22号土坑
第23号土坑
第25号土坑
第27号土坑
図版7 第27号土坑 遺物出土狀況(1)
第27号土坑 遺物出土狀況(2)
第27号土坑 遺物出土狀況(3)
第28号土坑
第30号土坑
第3土坑群北部
第3土坑群南東部
第3土坑群南部・第1・3号溝跡
図版8 第35号土坑・第1号溝跡
第4土坑群北部
第4土坑群南部
第52号土坑
第63号土坑 遺物出土狀況
第5土坑群
第71号土坑
第72・73号土坑
図版9 第72号土坑 菌出土狀況
第94号土坑 遺物出土狀況
第96~103号土坑

第100号土坑 遺物出土狀況
第106~109号土坑
第107号土坑
第107号土坑 遺物出土狀況
第110号土坑 骨出土狀況
図版10 第110号土坑 遺物出土狀況(1)
第110号土坑 遺物出土狀況(2)
第111~113号土坑
第116号土坑
第116・117号土坑
第118号土坑
第118号土坑 遺物出土狀況
作業風景

遺物

灰釉陶器・須恵器・轆轤土師器一坏類

図版11 第1号住居跡 第5図1
第3号住居跡 第8図1
第7号住居跡 第14図1
第1号住居跡 第5図2
第85号土坑 第42図85-1
I区遺構外 第47図I-5
II区遺構外 第48図II-14
第3号住居跡 第8図8
第7号住居跡 第14図10
第32号土坑 第40図32-6

土師器一坏類

図版12 第8号住居跡 第15図3
第51号土坑 第41図51-1
第110号土坑 第42図110-1
第118号土坑 第42図118-3・4・5・15
I区遺構外 第47図I-6
II区遺構外 第48図II-1
III区遺構外 第47図III-10

土師器一坏類・かわらけ・器台・羽釜

図版13 第1号集石土坑 第40図1集-1
第63号土坑 第41図63-2・3

第80号土坑 第42图80—1
第107号土坑 第42图107—1·2
第14号土坑 第40图14—1
第1号住居跡 第5图8
第3号住居跡 第8图20

土師器甕類

图版14 第3号住居跡 第8图19
第7号住居跡 第14图13·14
第118号土坑 第42图118—21

齒

图版14 第15号土坑 参考品9

石製品 (砥石)

图版14 第1号住居跡 第5图10
Ⅱ区遺構外 第48图Ⅱ—7

土製品 (土錘)

图版14 第13号土坑 第40图13—2
第107号土坑 第43图107—8

石製品 (不明・五輪塔・板碑)

图版15 第1号集石土坑 第21图8
第16号土坑 第40图16—1
第94号土坑 第42图94—8

石製品 (石皿・上臼)

图版16 第1号集石土坑 第21图7
第1号集石土坑 第21图6
第35号土坑 第41图35—3

石製品 (下臼)

图版16 第94号土坑 第42图94—9
第100号土坑 第42图100—1·2

銅製品 (古錢)

图版17 第44图

第15号土坑 3—1·2、4—1·2、
5—1·2

第22号土坑 3

第27号土坑 4、5—1·2、6、7、
8—1·2、9

第79号土坑 3—1·2

第94号土坑 6、7

第110号土坑 3—1·2·3·4·5
·6、4

鉄製品

图版17 第1号住居跡 第5图9

第4号住居跡 第9图5

第5号住居跡 第10图2

第6号住居跡 第12图18·19

第35号土坑 参考品

鉄滓

图版18 第1号住居跡 2点

第2号住居跡 4点

第7号住居跡 5点

第1号溝跡 1点

第13号土坑 1点

第53号土坑 1点

縄文土器

图版18 第6号住居跡 第12图12~17

第5号溝跡 第19图5—6·7

Ⅲ区遺構外 第47图Ⅲ—1·2·3

縄文石器

图版18 第5号溝跡 第19图5—8

第23号土坑 第40图23—2

I区遺構外 第47图I—1

Ⅲ区遺構外 第47图Ⅲ—4·5

I 発掘調査の概要

1 調査に至る経過

熊谷市土地区画整理西部事務所長より、昭和62年9月29日付けで籠原中央第二区画整理事業地内における平成2年度施行予定区域の埋蔵文化財の所在及び試掘に関する依頼書が提出された。これを受け、熊谷市教育委員会では、昭和63年12月中旬に事業地内における遺跡の範囲確認調査を実施したところ、奈良・平安時代から近世にかけての集落跡が分布することが確認された。この結果を踏まえ、熊谷市教育委員会教育長より平成元年3月29日付けで熊谷市土地区画整理西部事務所長あてに次のように回答した。

区画整理事業地内には、埋蔵文化財包蔵地（堂西遺跡）が存在する。当該地は開発計画予定地から除外し、現状保存することが望ましい。やむを得ず現状変更する場合には、文化財保護法第57条の3の規定により事前に文化庁長官へ埋蔵文化財発掘通知を提出し、記録保存のための発掘調査を実施すること。なお、発掘調査を実施する場合には、事前に当教育委員会及び埼玉県教育委員会と協議すること。

その後、保存について協議を重ねたが工事計画の変更は不可能であると判断されたため、遺跡の詳細な確認調査を再度実施し、遺構の確認された箇所の記録保存の措置を講ずることとなった。文化財保護法第57条の3の規定に基づく埋蔵文化財発掘の通知は、熊谷市長より平成元年9月22日付け熊土西発第277号で文化庁長官あてに提出された。文化財保護法第98条の2第1項の規定に基づく発掘調査に関わる熊谷市教育委員会からの通知は、平成元年11月1日付け熊教社発第795号で提出された。そして、文化庁からの指示通知は、平成2年5月21日付け元委保記第5-5647号であった。

2 発掘調査・報告書作成の経過

(1) 発掘調査

発掘調査は、平成元年11月6日から平成2年3月31日まで行われた。調査面積は4,000㎡である。

まず、11月上旬から重機による表土除去及び作業員による遺構確認作業を行った。そして、12月上旬から翌年3月中旬にかけて遺構の発掘及び土層断面図の作成、遺物の取り上げ、写真撮影などの作業を順次行っていった。12月下旬からは遺構平面図を作成し、3月下旬には調査区の航空写真撮影を行い、現場におけるすべての作業を終了した。

(2) 整理・報告書作成

整理・報告書作成作業は、平成18年4月から平成19年3月まで実施した。第1四半期は、遺物の洗浄・注記・接合・復元作業等を行い、併行して遺構の図面整理を行った。第2四半期は、遺物の実測・トレース、遺構のトレースを開始し、第3四半期には遺構・遺物の版組を作成した。第4四半期に入ると、遺物の写真撮影を行い、終了したものから順次写真図版の割付け・編集作業、原稿執筆を行った。そして、印刷業者選定の後、報告書の印刷に入り、校正を行い、3月末日に報告書を刊行した。

3 発掘調査、整理・報告書刊行の組織

主体者 熊谷市教育委員会

(1) 発掘調査

平成元年度

教育長	関根 幸夫
教育次長	島田 和男
社会教育課長	高田 普通
社会教育課長補佐	岡田 伸洋
社会教育課文化財保護係長	金子 正之
主事	権田 宣行
主事	吉野 健

(2) 整理・報告書作成事業

平成18年度

教育長	野原 晃
教育次長	増田 和己
社会教育課長	長島 泰久
社会教育課担当副参事	今井 宏
社会教育課副課長	出縄 康行
社会教育課副課長	新井 端
社会教育課文化財保護係主幹兼係長	金子 正之
主査	寺社下 博
主査	吉野 健
主任	松田 哲
主事	松村 聡

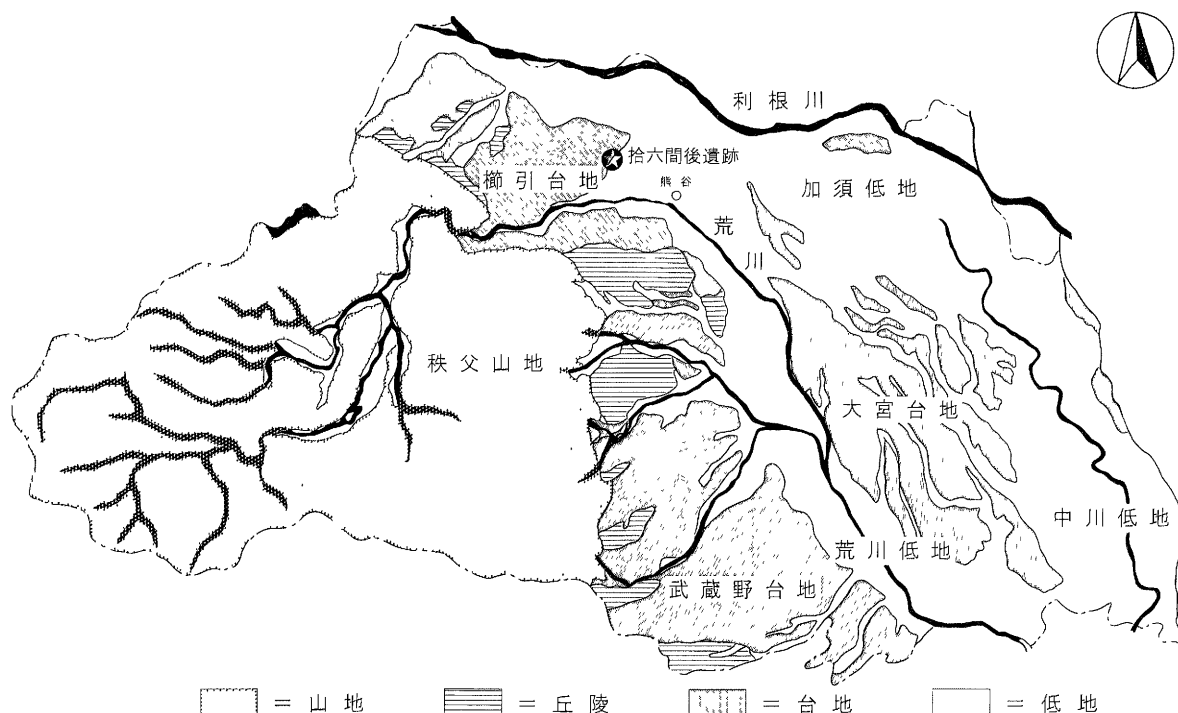
Ⅱ 遺跡の立地と環境

熊谷市は埼玉県北部に位置する県北最大の市である。平成17年10月1日には、北側に位置する妻沼町、南東に位置する大里町と、さらに平成19年2月13日には南西に位置する江南町とも合併し、新「熊谷市」として発足したところである。熊谷市は北側で群馬県との境を利根川が、南側では旧熊谷市と旧大里町・旧江南町との境を荒川がそれぞれ西から南東方向に向って流れており、両河川が最も近接する地域である。地形的には、市の西側に櫛引台地、荒川を挟んで南側には江南台地、北側及び東側には妻沼低地が広がっているが、市の大半は妻沼低地上にある（第1図）。

櫛引台地は、洪積世に形成された荒川扇状地の左岸一帯の総称で、寄居町の波久礼付近を扇頂として東は熊谷市西部の三ヶ尻付近まで、北東方向へはJ R高崎線籠原駅から北へ約2 kmの距離にある西別府付近にまで延びている。標高は約36～54 mで、妻沼低地に向って緩やかに下っていく。また、三ヶ尻や西別府地区では、台地裾にかつて湧水地が多数あったという。

櫛引台地の東側には、沖積世に荒川の乱流により新たに形成された新荒川扇状地が広がっている。新荒川扇状地は、熊谷市の南西に位置する旧川本町（現在、深谷市）の菅沼付近を扇頂として妻沼低地へと広がっており、自然堤防や後背湿地が発達している。また、三ヶ尻地区の荒川に面した櫛引台地南東端には、丘陵地である観音山（標高81 m、第3紀層の残丘）があり、台地上からの比高差は約25 m、沖積地からの比高差は約35 mを測る。

今回報告する拾六間後遺跡は、標高約40 mの櫛引台地東端縁辺部に立地している。熊谷市西部の新田地区に所在し、すぐ西側には深谷市が隣接する。遺跡はJ R高崎線籠原駅南口から約1.2 kmの距離にあるが、この辺り一帯は関東造盆地運動による地盤の沈降及び河川の氾濫等の影響を受け、ローム層までは厚い表土層に覆われており、現地表面から関東ローム層までは深い所で約1.5 mを測る。そのため、遺跡の保存状態は比較的良好であった。



次に拾六間後遺跡周辺の歴史的環境について概観する。

旧石器時代は、本遺跡の北約1 kmに所在する籠原裏遺跡（16）から出土した黒耀石の尖頭器が唯一の事例である。その他には、荒川右岸の江南台地上に立地する江南町西原遺跡（116）以外にみられない。

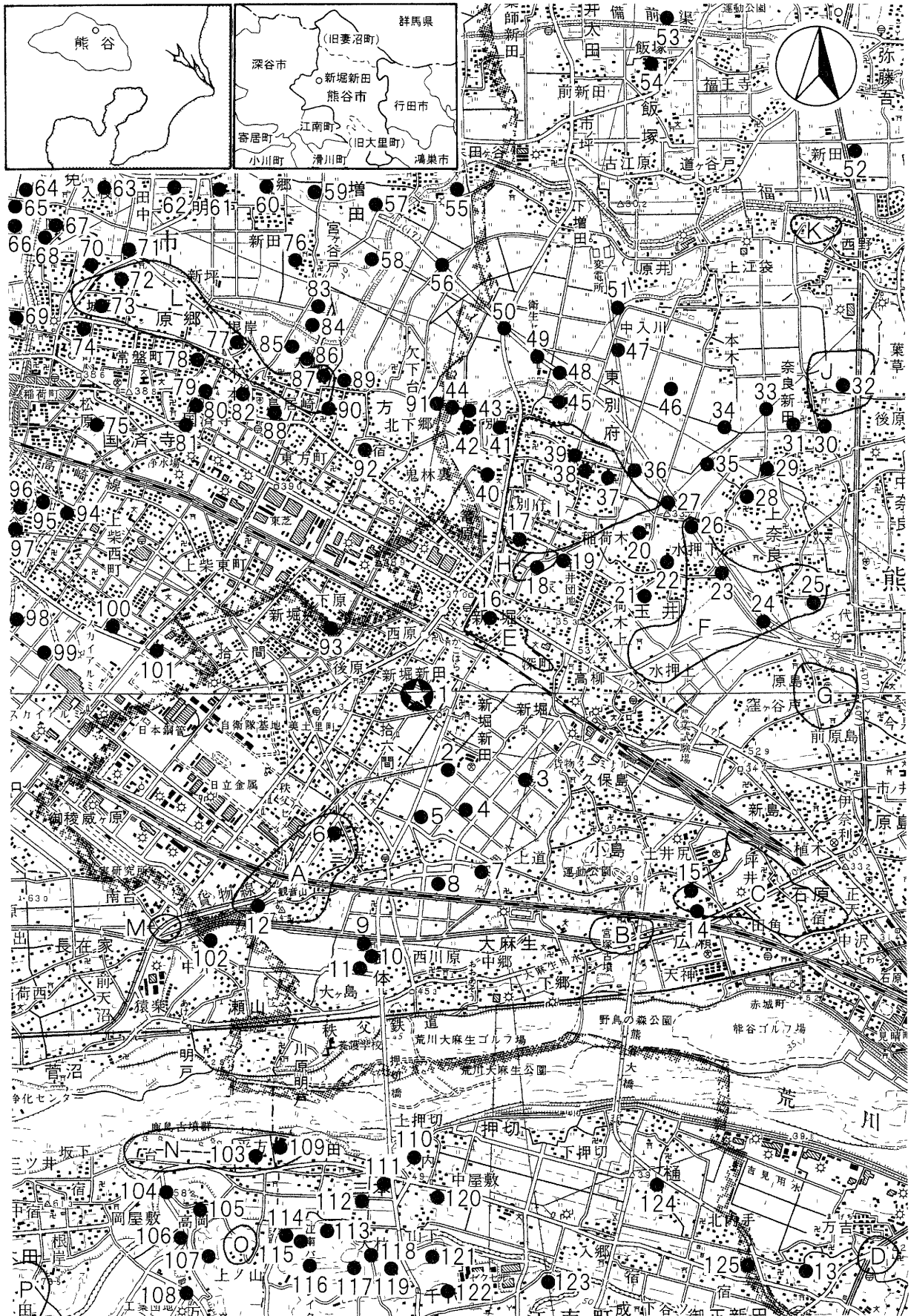
縄文時代は早期段階まで溯る。荒川右岸では多数遺跡がみられるが、本遺跡周辺では櫛引台地北端に位置する深谷市東方城跡（89）において早期の尖頭器が検出されているのみである。前期になると遺跡数も次第に増えはじめる。台地上では三ヶ尻遺跡（6）、低地上では寺東遺跡（36）などで集落跡が確認されている。中期は遺跡数が非常に多くなり、特に中期後半、加曾利E式期のものが多い。前期同様、台地及び低地上からも集落跡が確認されているが、特に櫛引台地北東端及び台地下の妻沼低地自然堤防上に集中する。隣接する深谷市でも集落跡が多数確認されているが、自然堤防上にあるものが多い。後期になると遺跡数は減少するが、中期同様、櫛引台地北東端及び台地下の自然堤防上に立地する。深谷市内においても台地縁辺部及び台地下の自然堤防上から遺跡が確認されている。晩期はさらに遺跡数が減少する。地図中には示せなかったが、市内では近年、市東部の低地上に立地する諏訪木遺跡で集落跡が確認されたが、その他にはみられない。深谷市では低地上にいくつかの遺跡が認められる。上敷免遺跡（63）では、晩期でも終末の浮線文土器片が多数検出されている。遺構からの検出ではなかったが、次代へのつながりがみとれる資料である。

弥生時代については、東日本初期弥生土器を語る上で非常に重要な資料が出土している。遺跡は、縄文時代中期以降集落が営まれている櫛引台地北東端部及び台地下の自然堤防上に集中している。

特筆すべき事項としては、自然堤防上に位置する横間栗遺跡（49）から前期末～中期前半の再葬墓が13基確認されたことが挙げられる。再葬墓一括資料は、1999年3月に埼玉県指定になっている。横間栗遺跡の南東に位置する関下遺跡（48）では、弥生時代中期中頃の竪穴住居跡が確認され、南側に隣接する石田遺跡（45）からも同時期の遺構と遺物が検出されており、集落跡が広がっているのかもしれない。また地図中には示せなかったが、市東部では東日本でも最古段階の環壕集落である池上遺跡やその墓域とされる行田市小敷田遺跡などがある。深谷市では自然堤防上にいくつか遺跡がみられ、上敷免遺跡では横間栗遺跡と同時期の再葬墓が確認されている。また包含層からではあるが、県内では初の遠賀川式土器の壺の胴部片も出土している。

中期後半以降は、市東部では北島遺跡、前中西遺跡などがみられるが、西部では確認例が少なく、深谷市では明戸東遺跡（59）など後期の遺跡が自然堤防上においていくつか点在するだけである。

古墳時代になると、自然堤防上への進出がより活発化する。前期は本遺跡周辺では確認例がやや少ないが、一本木前遺跡（34）では、90数軒という膨大な数の住居跡の他に、4基の方形周溝墓等も確認されている。特筆すべき事項としては、2号方形周溝墓の主体部からヒスイ製の勾玉や緑色凝灰岩製の管玉、人歯等が検出されたことが挙げられる。なお、住居跡群と周溝墓群には若干の時期差が存在し、集落跡が古く、周溝墓群が新しいことが判明している。深谷市では、東川端遺跡（58）をはじめとして自然堤防上の集落跡、方形周溝墓等が確認されている。中期は、本遺跡周辺では5世紀末の古墳として市の指定史跡になっている横塚山古墳（J：奈良古墳群）があるのみである。B種横刷毛の埴輪を持つ帆立貝式前方後円墳であるが、後円部は一部欠損している。市北東部では、北島遺跡、常光院東遺跡、中条古墳群周辺などで確認例がみられる。後期になると遺跡数が爆発的に増加する。集落跡は大規模になり、自然堤防上にも多数営まれるようになる。そして、これらの集落跡は奈良・平安時代へと継続して



第2図 周辺遺跡分布図

第1表 周辺遺跡一覧表

No.	遺跡名	時代	No.	遺跡名	時代
熊谷市			63	土敷免遺跡	縄文中、弥生中・後、古墳後、奈良・平安
1	拾六間後遺跡	古墳後、奈良・平安、中・近世	64	No.142遺跡	古墳後、奈良・平安
2	樋ノ上遺跡	縄文前・中、古墳後、奈良・平安、中・近世	65	皿沼西遺跡	古墳前、平安
3	東遺跡	平安、中世	66	No.145遺跡	古墳後、奈良・平安
4	黒沢館跡	中世	67	皿沼城跡	中世
5	若松遺跡	中・近世	68	No.180遺跡	弥生中、古墳後、奈良・平安
6	三ヶ尻遺跡	縄文前～後、弥生中、古墳後、奈良・平安、中世	69	深谷城跡	古墳前、平安、中・近世
7	庚申塚遺跡	近世	70	城西遺跡	奈良・平安
8	松原遺跡	中・近世	71	八日市遺跡	縄文晩、古墳後、奈良・平安、中・近世
9	社裏北遺跡	中世	72	伝幡羅館跡	中世
10	社裏遺跡	中世	73	No.194遺跡	古墳後
11	社裏南遺跡	中世	74	No.195遺跡	古墳後
12	森遺跡	古墳後	75	No.250遺跡	奈良・平安
13	万吉西浦遺跡	縄文中、古墳、平安、近世	76	宮ヶ谷戸遺跡	縄文中、弥生中・後、古墳後、奈良・平安、中・近世
14	不二ノ腰遺跡	奈良・平安	77	根岸遺跡	縄文中・後、古墳後、奈良・平安、中・近世
15	高根遺跡	縄文前、古墳後、平安、中・近世	78	常磐町東遺跡	縄文前・中、古墳後
16	籠原裏遺跡	旧石器、縄文前・中、古墳後、平安、中・近世	79	No.199遺跡	縄文中、古墳後、奈良・平安
17	別府三丁目遺跡	奈良・平安	80	No.198遺跡	平安
18	在家遺跡	古墳後、奈良・平安	81	斤鼻和城跡	中世
19	五反畑遺跡	中世	82	No.200遺跡	古墳後
20	玉井陣屋跡	平安末～中世	83	No.249遺跡	奈良・平安
21	稲荷木上遺跡	古墳後	84	No.189遺跡	奈良・平安
22	水押下遺跡	古墳後	85	No.190遺跡	古墳後、奈良・平安
23	下河原中遺跡	奈良・平安	86	城下遺跡	縄文中・後、古墳後、平安、中・近世
24	下河原上遺跡	近世	87	杉町遺跡	縄文中、古墳後、奈良・平安
25	本代遺跡	古墳後、近世	88	No.202遺跡	縄文中、古墳後、奈良・平安
26	新ヶ谷戸遺跡	古墳後、奈良・平安	89	東方城跡	縄文早・後、中世
27	稲荷東遺跡	古墳後、奈良・平安	90	No.203遺跡	奈良・平安、中世
28	奈良氏館跡	平安末～中世	91	幡羅遺跡	古墳後、奈良・平安
29	土用ヶ谷戸遺跡	古墳後、奈良・平安	92	No.204遺跡	縄文中・後、古墳後、奈良・平安
30	東通遺跡	古墳後	93	No.205遺跡	古墳前
31	西通遺跡	古墳後	94	No.88遺跡	古墳後、奈良・平安
32	横塚遺跡	古墳前、平安	95	No.87遺跡	縄文後
33	中耕地遺跡	縄文中、古墳前・後、奈良・平安	96	桜ヶ丘組石遺跡	縄文後
34	一本木前遺跡	古墳前・後、奈良・平安、中世、近世	97	No.208遺跡	縄文中、古墳前・後、平安
35	天神下遺跡	古墳前・後、奈良・平安	98	No.93遺跡	縄文中・後、古墳後、奈良・平安
36	寺東遺跡	縄文前～後	99	No.94遺跡	縄文中・後
37	別府氏館跡	平安末～中世	100	No.207遺跡	縄文中
38	別府城跡	平安、中世	101	No.206遺跡	縄文中
39	埋鳥遺跡	縄文中、奈良・平安	102	大門遺跡	奈良・平安
40	大竹遺跡	古墳後、奈良・平安	103	鹿島平方裏遺跡	古墳後、奈良・平安
41	西別府館跡	平安末～中世	104	山之越遺跡	縄文後
42	西別府廢寺	古墳後、奈良・平安、中・近世	105	舟山遺跡	縄文早～後、中世
43	西方遺跡	奈良・平安、中・近世	106	竹ノ花遺跡	縄文早・前、奈良・平安
44	西別府祭祀遺跡	古墳後、奈良・平安、中・近世	107	荷藪ヶ谷戸遺跡	縄文後
45	石田遺跡	縄文中・後、弥生中、古墳前	108	諦光寺廢寺	奈良・平安
46	別府条里遺跡	奈良・平安	旧 江 南 町		
47	深町遺跡	縄文中・後、古墳前・後、奈良・平安	109	新田裏遺跡	古墳後、奈良・平安
48	関下遺跡	縄文中、弥生中、古墳後	110	堀ノ内遺跡	古墳後、奈良・平安、中・近世
49	横間栗遺跡	縄文後、弥生前・中、古墳前・中、奈良・平安、近世	111	新屋敷遺跡	古墳後、奈良・平安、中・近世
50	根絡遺跡	縄文中、古墳前・後、奈良・平安	112	大林遺跡	古墳後、奈良・平安
51	入川遺跡	縄文後、古墳前・後	113	富士山遺跡	縄文早～後、弥生後、古墳前、奈良
52	弥藤吾新田遺跡	古墳前・中	114	姥ヶ沢遺跡	縄文早～後、弥生後、古墳前・後
53	飯塚北遺跡	弥生中、古墳後、奈良・平安	115	姥ヶ沢埴輪窯跡	古墳後
54	飯塚遺跡	弥生中、古墳後、奈良・平安	116	西原遺跡	旧石器、縄文前～後、奈良・平安
深谷市			117	北方遺跡	縄文早
55	前遺跡	古墳前、奈良・平安、中世	118	権現坂埴輪窯跡	古墳後
56	清水上遺跡	縄文晩、弥生中、古墳前・後、奈良・平安	119	権現坂遺跡	縄文前・中、古墳中・後
57	原遺跡	縄文後・晩、古墳後	120	中屋敷遺跡	古墳後、奈良・平安、中・近世
58	東川端遺跡	古墳前・後、奈良・平安	121	宮下遺跡	縄文早、古墳後、奈良・平安、中・近世
59	明戸東遺跡	縄文中・後、弥生後、古墳後、奈良・平安	122	東原遺跡	縄文早～中、中世
60	新田裏遺跡	古墳中、弥生後、奈良・平安、中世	123	上前原遺跡	縄文早～後
61	新屋敷東遺跡	縄文中、古墳後、奈良・平安	124	宮前遺跡	古墳後、奈良・平安、中・近世
62	本郷前東遺跡	縄文後、古墳後、奈良・平安	125	宿遺跡	古墳後、奈良・平安、中・近世

第2表 周辺古墳群一覧表

No.	遺跡名	時代	No.	遺跡名	時代
熊谷市			I	別府古墳群	古墳後
A	三ヶ尻古墳群	古墳後	J	奈良古墳群	古墳中期後～末
B	広瀬古墳群	古墳末	K	上江袋古墳群	古墳後
C	石原古墳群	古墳後	深谷市		
D	村岡古墳群	古墳後	L	木の本古墳群	古墳後
E	籠原裏古墳群	古墳末	M	長在家古墳群	古墳末
F	玉井古墳群	古墳後	N	鹿島古墳群	古墳後～末
G	原島古墳群	古墳後	O	清水山古墳群	古墳後
H	在家古墳群	古墳末	P	上大塚古墳群	古墳後

営まれるものが多い。古墳は群として形成され、多数の古墳群が台地及び自然堤防上に築造されている。荒川左岸の櫛引台地上には、三ヶ尻古墳群（A）、籠原裏古墳群（E）、在家古墳群（H）、別府古墳群（I）、深谷市（旧川本町）長在家古墳群（M）、自然堤防上には、広瀬古墳群（B）、石原古墳群（C）、玉井古墳群（F）、原島古墳群（G）、（旧妻沼町）上江袋古墳群（K）、深谷市木の本古墳群（L）などがあり、荒川右岸の台地上でも埼玉県指定史跡である深谷市（旧川本町）鹿島古墳群（N）をはじめとして多数の古墳群が築造されている。また、古墳群の他にも江南町蛇ヶ沢埴輪窯跡（115）、権現坂埴輪窯跡（118）など埴輪の窯跡もみられるようになる。古墳群は、概ね6世紀から7世紀ないし8世紀初頭にかけて築造されたが、埴輪をまったく持たない末期の古墳群としては、籠原裏古墳群、在家古墳群、玉井古墳群、広瀬古墳群などがある。

市内の古墳群で特筆すべきことは、籠原裏古墳群では墳形が八角形を呈する古墳時代末期の八角墳が検出されたことや、地図中には示せなかったが、市中央部にある肥塚古墳群では埋葬施設に荒川水系の石材である河原石を使用した古墳と利根川水系の角閃石安山岩を使用した古墳が混在すること、また、広瀬古墳群中の宮塚古墳は、上円下方墳という特異な形態をしていること（昭和38年に国指定史跡）などが挙げられる。特に籠原裏古墳群は、後述する深谷市幡羅遺跡（91）や熊谷市西別府廃寺（42）、西別府祭祀遺跡（44）などといった郡衙及び郡衙と関連があると思われる遺跡と時期的・地理的に近い関係にあり、注目に値する古墳群といえる。

律令体制の始まる奈良・平安時代は、本遺跡周辺一帯は武蔵国幡羅郡に属する。幡羅郡は上秦、下秦、広沢、荏原、幡羅、那珂、霜見、余部の八郷からなる中郡であり、熊谷市北部から西部にかけてと深谷市東部を含む一帯が該当すると考えられている。深谷市幡羅遺跡では、平成13年に郡衙の正倉と推定される大型建物群が確認され、幡羅郡衙推定地として確認調査が開始されている。その結果、これまでに20数棟の大型正倉建物群や区画大溝などが確認されている。郡庁や館、厨などの施設は未確認であるが、熊谷市西別府廃寺や西別府祭祀遺跡も含めてこの地域一帯は、当時の中心地だったことが徐々に明らかになってきている。

集落跡は前述のとおり、古墳時代後期以降引き続き営まれる遺跡が多く、かつ規模の大きいものが多い。また本遺跡周辺の集落跡から出土する須恵器は、武蔵国四大窯跡の1つである寄居町末野窯跡産のものを多く含む傾向にあり、鳩山町南比企窯跡産を主体とする市内東部の遺跡とは様相が異なっている。

集落跡以外で注目すべき遺跡としては、前述の西別府廃寺と西別府祭祀遺跡がある。両遺跡は、櫛引台地北東端の市内北西部西別府地区に所在する。西別府廃寺は、8世紀初頭に創建された県内でも古い寺院跡であり、平成2・4年に行われた発掘調査では、瓦溜り状遺構、基壇跡、溝跡等が検出されてい

る。出土した瓦には9世紀後半まで下るものもみられ、寺院は平安時代まで存続していたと考えられている。西別府祭祀遺跡は、西別府廃寺の北西部の台地縁辺部に位置し、湯殿神社裏の湧水堀にある。神社裏の湧水部分からは、土師器、須恵器の他に馬形、櫛形、勾玉形、剣形、有線円板等の滑石製模造品が多数検出され、これらの遺物は水辺での祭祀に用いられたと考えられている。平成4年度におこなわれた発掘調査では、古墳時代末から平安時代でも末期に位置づけられる土器群が多数検出されており、平安時代の終わり頃まで祭祀遺跡として存続していたものと思われる。

西別府廃寺及び西別府祭祀遺跡と深谷市幡羅遺跡は、時間的・空間的に密接な関係にあったことは明白であり、今後実施される確認調査によって詳細がさらに判明してくるものと思われる。

平安時代末から中世にかけては、武蔵七党やその他在地武士団の館跡がみられるようになるが、その実態は不明なものが多い。東別府地区にある別府城跡(38)は、別府氏の居館で現在も土塁と空堀が一部残っている。また、本遺跡の南に位置する三ヶ尻地区では、中世の遺跡や遺構が比較的多く確認されている。中でも黒沢館跡(4)は、発掘調査の結果、出隅を持ち全周する堀と土塁、虎口跡等が検出され、渡辺崋山が記した文献『訪録(ほうへいろく)』所収の「黒沢屋敷」と発掘調査成果が一致するという大変貴重な例である。また、本遺跡の南東に所在する樋ノ上遺跡(2)や、さらにその南側に位置する若松遺跡(5)、社裏北遺跡(9)、社裏遺跡(10)、社裏南遺跡(11)では、埋葬跡が多数検出されている。深谷市では、皿沼城跡(67)、深谷城跡(69)、庁鼻和城跡(81)、東方城跡など城跡が多数確認されている。

近世については、今回報告する拾六間後遺跡の他にも櫛引台地北東縁辺部に立地する西方遺跡(43)において墓地群が確認されている。近世については、拾六間後遺跡及び西方遺跡をはじめとしていくつか例がみられるが、中世同様、不明な点が多いというのが実状である。

Ⅲ 遺跡の概要

1 調査の方法

今回報告するのは、遺跡南東部にあたるB区についてである（第3図）。当初、「拾六間後遺跡」は、前回報告（平成15年度）した昭和63年度調査区（A区）のみでその遺跡名が付されており、今回報告するB区は、かつて「堂西遺跡」と呼ばれ区別されていた。

「堂西遺跡」（B区）は、平成元年度に調査が実施されたが、「拾六間後遺跡」（A区）と同じく区画整理に伴う事前調査として発掘調査が行われたものである。両遺跡を別々の遺跡としていた理由については、事前に行った試掘調査で両遺跡のほぼ中央を南北に走る道路部分から遺構の検出がみられなかったことに因る。しかし平成16年度に市内全域の遺跡地図の見直しを行った際、両遺跡の内容について検討した結果、二つの遺跡が同一のものであると判断されたことから、「堂西遺跡」（B区）を含める形で新たに「拾六間後遺跡」として周知化されることになったものである。

発掘調査は、調査区が3分割されたため、それぞれをⅠ・Ⅱ・Ⅲの各調査区に区分して進行した。まず遺構確認面まで重機で掘削し、その後人力による手掘り作業を行っていった。そして各調査区内に国家座標に載せた一辺5mのグリッドを設定した。グリッド名はA区からの連続名（A区北西隅がA-1で、東にA-2・A-3・A-4…、南にB-1・C-1・D-1…）を用いたため、今回調査のB区は、AC-33～AY-59の範囲となった。ちなみに、ALラインがX=-18500、37ラインがY=45300である（第4図）。

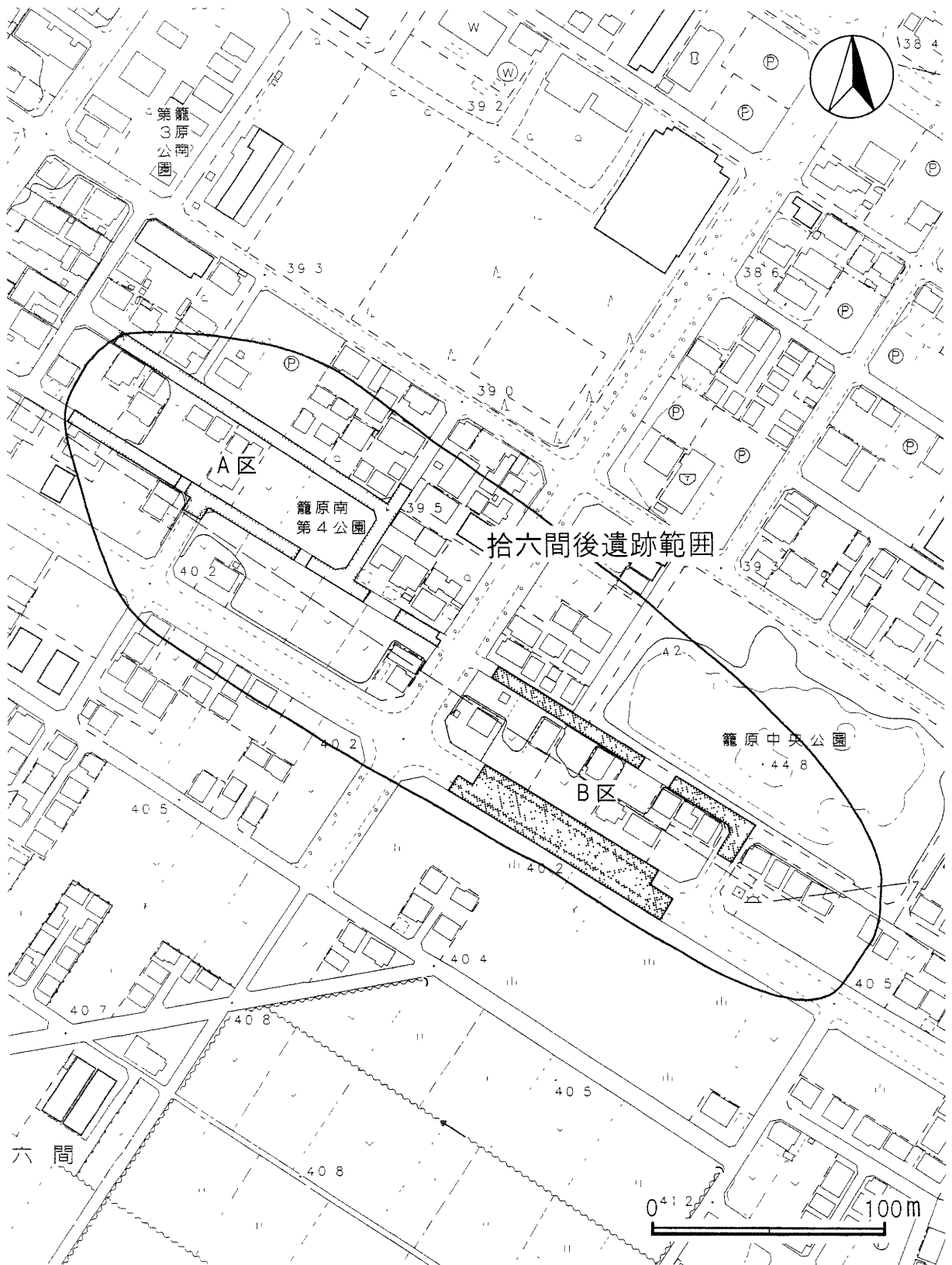
遺構の手掘り作業の途中、必要に応じて土層堆積図を作成し、手掘り作業終了後は、遺構ごとの実測、遺物の取り上げ、写真撮影等の作業を順次行っていった。なお、遺構の実測を行うにあたっては、グリッドポイントに設定した木杭を基準に、水糸による1mメッシュを張る、簡易遣り方による方法を用いた。

2 検出された遺構と遺物

B区で検出された遺構総数は、住居跡8軒、溝跡11条、集石土坑2基、土坑118基、ピット66基である。各遺構は、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの各調査区で特徴的な分布状況を示している。

このうちⅠ区では、住居跡及び溝跡は無く、集石土坑2基、土坑26基、ピット42基が東西2箇所に分離して、それぞれ集中する様相を呈している。東側の集中地域（第Ⅰ土坑・ピット群）では、41基のピット（第1号～第41号）と土坑15基（第1号～第15号）が集中している。ピット群は、列を成すものはみられず、全て単独である。西側の集中地域（第Ⅱ土坑群）では、集石土坑2基（第1号～第2号）及び土坑11基（第16号～第26号）が集中している。ピットはP42ただ1基がみられるのみである。また集石土坑は、本調査区のみ分布する特徴的な遺構である。

Ⅱ区では、住居跡4軒、溝跡2条、土坑6基、ピット1基が検出されている。住居跡（第1号～第4号）は、調査区の東半部分にそれぞれ単独で分布している。溝跡（第7号・8号）は、いずれも北東から南西行し、住居跡と同一範囲に分布している。このうち第8号溝跡は、覆土中に礫が充填されている。土坑は東端に5基（第27号～第31号）が集中し、Ⅰ区第Ⅱ土坑群との連続性をうかがわせている。大型土坑の第32号は、本区内土坑の西端に位置し、単独である。第4号住居跡より西の本区西半部分には、



- = A区 (昭和 63 年度調査)
- = B区 (平成元年度調査：本報告分)

第 3 図 調査地点位置図

遺構は全く検出されていない。

Ⅲ区では、住居跡4軒、溝跡9条、土坑86基、ピット23基が検出されている。住居跡（第5号～第8号）は、中央北東半部分にそれぞれ単独で分布している。内1軒（第8号）がⅡ区検出住居跡4軒同様、主軸を長軸方向にとるのに対し、他の3軒（第5号・6号・7号）は主軸を短軸方向にとっているなど、差がみられる。溝跡は本区の全域にわたり、北東から南西行する例（第1号・第9号）と、北西から南東行する例（第2号～第6号及び第10号・第11号）の2種類がみられる。後者の内第5号は、北西端で南西方向に直角に屈曲し、全体で方形に圍繞する形態を有するものと思われる。土坑は、全域にみられるものの、大部分は北東隅から南東隅部にかけて、3群を成して群在している。東南隅の第3土坑群は第33号～第50号の18基、第4土坑群は第51号～第73号の23基、第5土坑群は第74号～第113号の40基で構成され、各土坑群内で重複が激しい。こうした状況にあって第118号は、本区内土坑の西端に位置し、単独であるなど、特徴的である。ピットは、調査区東半に限定され、土坑群及び溝跡内に数基ずつ集中してみられる。

住居跡からの出土遺物のうち最も特徴的なものは、器形及び調整技法等、須恵器の高台椀と同一であるものの、焼成が還元焰でなく、酸化焰に因っている一群の轆轤土師器と称する高台椀（坏）である。第1号・2号・3号・4号・6号・7号の6軒の住居跡から検出されている。伴出する土師器甕は、既にコの字状口縁はなく、器肉は厚く調整も雑になっている。いずれも本集落跡終えん期の10世紀前半期の土器群である。また、第1号・3号の2軒からは、羽釜も検出され、羽釜出現前後の時期に現れる轆轤土師器と称すべき土器群の様相が垣間見える。さらには、第1号・3号・7号の3軒の住居跡からは灰釉高台椀（坏）も出土している。本遺跡内での灰釉の出現期が轆轤土師器の出現と羽釜出現前後の時期と重なり、複雑な様相を呈している。灰釉は、A F-41区、A G-43区、A V-50区（ただし耕作土からの出土）の遺構外からも出土しているが、いずれも住居跡群に近接する地であり、これが集落に伴う遺物であることを物語っている。

第8号住居跡から出土した土器群は、本集落跡の初源期を示している。土器群は、須恵器坏・土師器坏・須恵器甕・土師器甕から成り、このうち須恵器坏の底部は、糸切りの後周辺部に回転のヘラ削りを加えているもので、8世紀中頃の所産であるといえる。

第6号住居跡からは、同一個体であろうと思われる縄文土器・深鉢形土器片が出土している。前期・諸磯C期に属するもので、ほとんど摩滅がなく、吸炭しているもので、流れ込んだ可能性は低い。おそらく動機の遺構の一部を同住居跡が破壊したための混入と思われる。同じく第5号溝跡覆土内（A T-47区）から中期・深鉢形土器片、遺構外（A T-47区）から前期・黒浜期、中期・加曾利EⅢ期の深鉢形土器片が、いずれも狭い範囲の中から出土しており、この範囲に縄文時代の集落の存在した可能性を高めている。

溝跡からの出土遺物は、第1号・8号溝跡から焙烙、常滑焼などが出土しているほかはほとんど出土していない。大半の溝跡が近世に掘削されたものである。その中で、第5号溝跡から最も新しい時期に属する遺物として轆轤土師器・高台椀が検出され、注目される。

土坑からの出土遺物の主体は、陶磁器類、焙烙、かわらけ、古銭、白、五輪塔・板碑等の石造物などの中近世の遺物群であるが、第32号土坑、第118号土坑など、住居跡を中心とした集落跡と同一時期の遺物群を有する大形土坑も存在している。

Ⅳ 遺構と遺物

1 住居跡

住居跡は、Ⅱ区4軒、Ⅲ区4軒、計8軒が検出されている。住居跡の全容が検出されたのは第3号住居跡、第6号～8号住居跡の4軒であり、半数に当たる4軒（第1号・2号・4号・5号）は、その一部及び大半が調査区域外に及んでいるため未調査である。

遺構分布範囲の西側、調査区（B区）全体の中央やや西よりに分布している。西端にあたる第4号及び第8号の西側は、住居跡は無く、A区東端に位置するA区第1号及び第2号との間には約110m以上の住居跡空白区を作り出している。

住居跡全体の分布はさほど密ではなく、A区同様2・3軒が近接する程度で、住居跡同士の重複関係はみられない。

第1号住居跡（第5図）

Ⅱ区AJ・AK-48・49グリッドに位置する。住居跡の北東隅側が調査区外にある。住居跡の埋没中に第31号土坑（SK-31）及び第43号ピット（P43）が掘り込まれている。

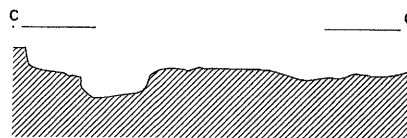
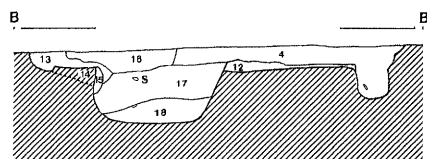
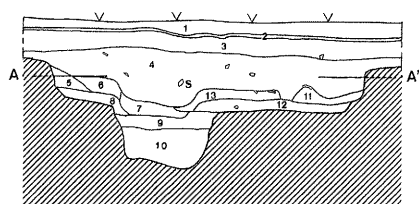
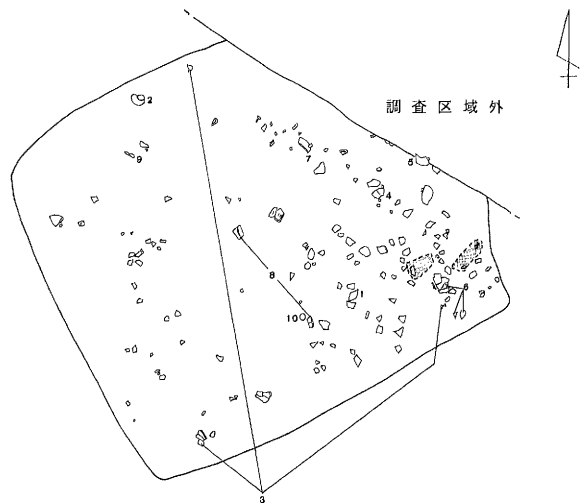
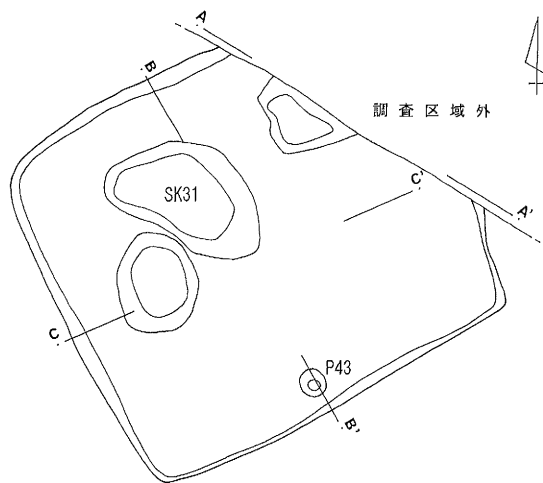
北東隅側が調査区外にあるため全体の規模は知れないが、検出された3隅を基点にすると長辺3.10m、短辺2.80mを測る。中央部はわずかに脹らみをもち、長軸3.36m、短軸3.00mを測る。ほぼ矩形であるが、わずかに長短をもつため長方形を呈するといえる。主軸を長辺側にもち、方位は、N-62°-Eを示す。

床面は、ほぼ平坦面を成すが、カマド前と思われる竪穴北東中央部は凹凸が激しい。竪穴南西中央部及び北隅にはそれぞれ掘り込みがみられる。南西中央部例は、長円形を呈し、長軸78cm、短軸63cm、深さ南西部壁側で20cm、中央部寄りで15cm前後を測る。北隅例は、北側が調査区外にあるため全体は知れないが、竪穴と同一方向に長短をもつ長方形を呈すると思われる。短軸は65cmを測る。底面は凹凸がみられ、深さは24～32cmを測る。

壁は、ほぼ垂直を成し、深さは30cmを測る。周溝等はみられない。

覆土は、床面上に堆積する多量の焼土粒及び炭化物粒を含む暗褐色粘土層（第12層）及び、その上面に堆積する暗褐色粘土粒・暗灰褐色粘土粒・焼土粒・炭化物粒・土器片・礫を含む暗黄褐色粘土層（第4層）の2層を基本としている。壁際には、暗褐色粘土ブロック・焼土粒を含む暗黄褐色粘土層（第5層）、少量の焼土粒・炭化物粒を含む暗褐色粘土層（第6・7層）、暗黄褐色粘土粒・黒褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒・焼土粒・炭化物粒を含む暗褐色粘土層（第8層）、暗黄褐色粘土粒・焼土粒・炭化物粒・土器片を含む暗褐色粘土層（第13層）、多量の暗黄褐色粘土粒及び焼土粒・炭化物粒・土器片を含む暗褐色粘土層（第16層）等が堆積している部分もみられる。

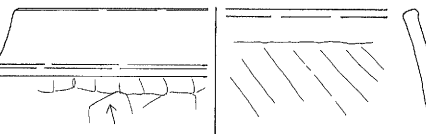
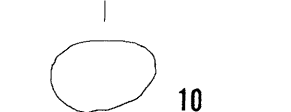
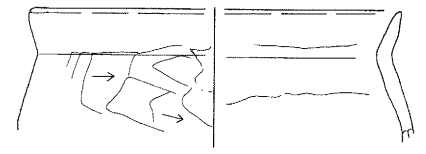
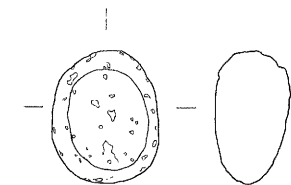
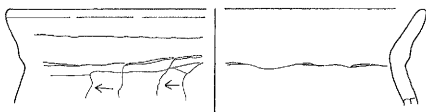
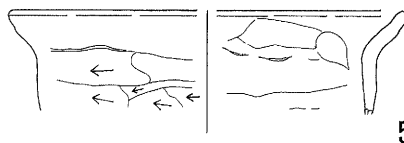
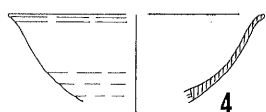
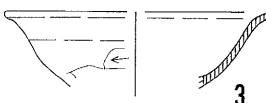
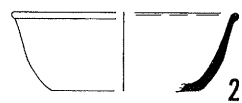
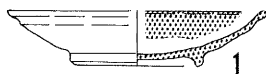
第1次埋没土の第12層は、竪穴北隅にみられた掘り込み内には堆積せず、床面と同レベルで掘り込みの上面に堆積した。逆に南西中央部の掘り込み内には堆積していた。このことから、当初北隅の掘り込みが利用されたものの、竪穴廃棄時には既に埋め立てられ、代わりに南西中央部の掘り込みが利用されていたことがうかがえる。共にその利用目的は、貯蔵穴であると思われる。北隅の掘り込み内覆土は、下位が暗黄褐色粘土粒・黒褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒及び少量の焼土粒・炭化物粒を含む褐色粘土層



第1号住居跡・第31号土坑・P43

土層説明 (A-A'、B-B')

- 1 灰褐色粘土。火山灰を含む。(耕作土)
- 2 灰褐色粘土。火山灰・多量の炭化物を含む。(耕作土下面)
- 3 暗褐色粘土。火山灰・焼土粒・土器片を含み、硬く締まる。
- 4 暗黄褐色粘土。暗褐色粘土粒・暗灰褐色粘土粒・焼土粒・炭化物粒・土器片・礫を含む。
- 5 暗黄褐色粘土。暗褐色粘土ブロック。焼土粒を含む。
- 6 暗褐色粘土。少量の焼土粒・炭化物粒を含む。
- 7 暗褐色粘土。少量の焼土粒・炭化物粒を含む。第6層より明るく、硬く締まる。
- 8 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・黒褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒・焼土粒・炭化物粒を含む。
- 9 暗褐色粘土。多量の暗茶褐色粘土粒及び、暗黄褐色粘土粒・黒褐色粘土粒・焼土粒・炭化物粒を含む。
- 10 褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・黒褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒及び、少量の焼土粒・炭化物粒を含む。
- 11 暗褐色粘土。焼土粒・炭化物粒を含む。
- 12 暗褐色粘土。多量の焼土粒・炭化物粒を含む。
- 13 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・焼土粒・炭化物粒・土器片を含む。
- 14 暗褐色粘土。多量の暗黄褐色粘土粒・焼土粒・炭化物粒を含み、硬く締まる。
- 15 暗褐色粘土。硬く締まる。
- 16 暗褐色粘土。多量の暗黄褐色粘土粒及び、焼土粒・炭化物粒・土器片を含む。
- 17 暗褐色粘土。少量の暗黄褐色粘土粒及び、焼土粒・炭化物粒・土器片を含む。
- 18 暗褐色粘土。少量の暗黄褐色粘土粒及び、焼土粒・炭化物粒・土器片を含む。



第5図 第1号住居跡・遺物出土状況・出土遺物、第31号土坑、P43

第3表 第1号住居跡出土遺物観察表（第5図）

No.	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	灰釉・高台坏	(13.2)	2.9	7.0	M・A	A	灰白色	1/2	
2	須恵器・杯	(12.1)	4.2	(7.5)	L・D・I・J・A・B	B	黄灰	1/3	作りが雑で、底面が円形を成さない。
3	轆轤土師器・杯	(14.0)	—	—	B・M・K・A・G	C	淡赤橙	上位1/4	焼き斑有り。表面剥離した部分多い。
4	轆轤土師器・杯	(13.5)	—	—	B・A・E・I・J・H・M	C	浅黄橙	上位1/8	全面表面剥離。
5	土師器・甕	(21.3)	—	—	M・B・N・J・A・E	B	鈍い橙	上位1/5	作りが雑で、内面に輪痕、指圧痕を残す。内外面に煤付着。
6	土師器・甕	(22.4)	—	—	B・A・M・K・J・D・H・G・N	B	鈍い褐	上位1/4	内外面に煤付着。
7	土師器・甕	(19.6)	—	—	I・K・D	B	鈍い橙	上位1/5	内外面に煤付着。
8	須恵質・羽釜	(21.4)	—	—	M・B・H・I・A	B	鈍い黄	上位1/7	
9	鉄製・角釘	最大長6.9、頭部幅1.3、重さ16.5g						完形	
10	砥石	最大長7.0、最大幅5.6、最大厚3.8、重さ103g						完形	軽石製。一面使用。
参	スラッグ(2点)	重さ①6.5g ②5.3g							

(第10層)、上位が多量の暗茶褐色粘土粒及び暗黄褐色粘土粒・黒褐色粘土粒・焼土粒・炭化物粒を含む暗褐色粘土層（第9層）である。

また竪穴北東中央部付近には、第1次埋没土の第12層上に多量の焼土粒・炭化物粒を含む暗褐色粘土層（第11・13層）が堆積し、本体は検出されていないものの、竪穴北東壁中央付近にカマドが存在した可能性を高めている。

遺物（第5図、第3表）は、全て竪穴内全域の覆土中からの出土である。中でも竪穴東隅部分では集中がみられた。いずれも破片状であり、灰釉高台坏（1・内面のみ施釉）、須恵器杯（2・作りが雑で底面が円を成さず、胎土中に片岩が多く含まれる）、轆轤土師器杯（3・4・いずれも焼きがあまく、表面が剥離している）、土師器甕（5～7いずれも作りが雑）、須恵質羽釜（8）等の器種がみられる。土器類以外では、鉄製角釘（9）、軽石（10・平坦面の一面を砥石として使用）の他、スラッグが2点検出されている。

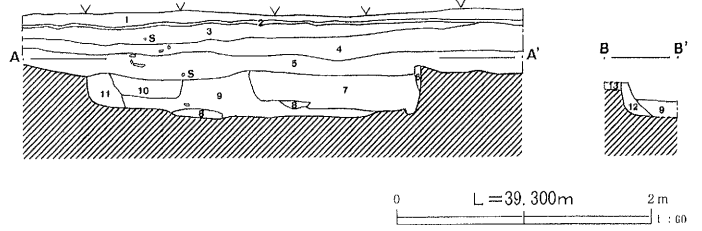
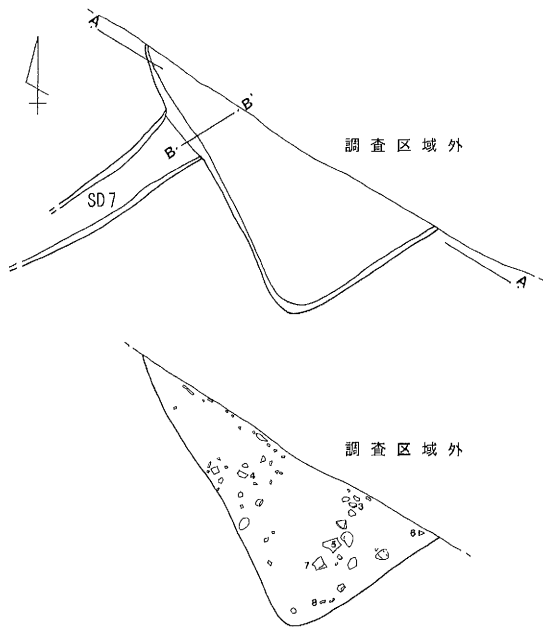
第2号住居跡（第6図）

Ⅱ区AJ-48グリッドに位置する。住居跡の南西側一部のみの調査であり、北東側大半が調査区外にある。第7号溝跡（SD-7）を切断している。

北東側大半が調査区外にあるため全体の規模は知れないが、検出された南西辺の北隅が北東方向へ屈曲する様相をみせていることから、南西辺を短辺とするものと思われる。現状で2.50mを測る。東南辺も全容は知れないが、南西辺とはほぼ直角を成し、現状で1.43mを測る。形態も不明といわざるを得ないが、南西辺を短辺とすることが許されるならば第1号住居跡同様、長方形を呈するといえる。主軸を長辺側にもち、方位は、N-58°-Eを示す。

床面は、ほぼ平坦面を成すが、竪穴南西中央部がわずかに掘り込まれている。壁は、ほぼ垂直を成し、深さは28～35cmを測る。竪穴南西中央部は38cm前後の深さをもつ。東南壁直下に一部周溝状の窪みが見られるが、連続するものではない。カマド等は検出されていない。

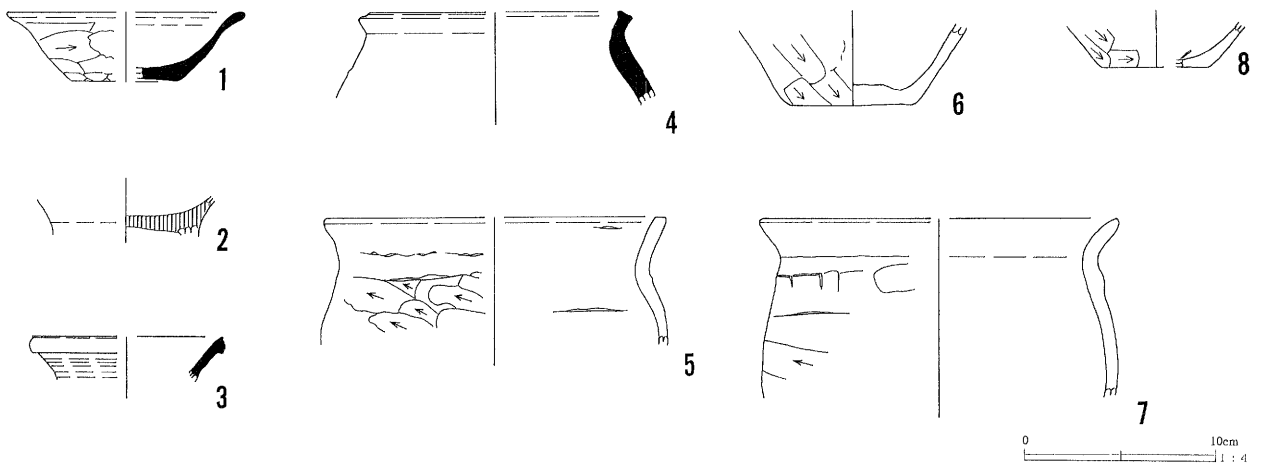
覆土は、暗黄褐色粘土粒・暗褐色粘土粒・焼土粒・土器片を含む暗褐色粘土層（第9層）を主体としている。上位には部分的に、多量の暗褐色粘土ブロック（焼土粒・炭化物粒・土器片を含む）及び暗褐色粘土粒・焼土粒・炭化物粒を含み固く締まる暗黄褐色粘土層（第7層）、あるいは多量の暗褐色粘土粒及び暗灰褐色粘土粒・焼土粒・土器片・礫を含む黄褐色粘土層（第10層）が堆積し、第9層中には淡



第2号住居跡

土層説明 (A-A'、B-B')

- 1 灰褐色粘土。火山灰を含む。(耕作土)
- 2 灰褐色粘土。火山灰・多量の酸化鉄を含む。(耕作土下面)
- 3 暗灰褐色粘土。火山灰・酸化鉄を含む。(下位耕作土)
- 4 暗褐色粘土。火山灰・焼土粒・土器片を含み、硬く締まる。
- 5 暗黄褐色粘土。暗褐色粘土粒・暗灰褐色粘土粒・焼土粒・土器片・炭及び、少量の火山灰を含む。
- 6 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒を含む。
- 7 暗黄褐色粘土。多量の暗褐色粘土ブロック(焼土粒・炭化物粒・土器片を含む)及び、暗褐色粘土粒・焼土粒・炭化物粒を含み、硬く締まる。
- 8 淡灰褐色シルト。
- 9 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・暗褐色粘土粒・焼土粒・土器片を含み、硬く締まる。
- 10 黄褐色粘土。多量の暗褐色粘土粒及び、暗灰褐色粘土粒・焼土粒・土器片・炭を含む。
- 11 褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・焼土粒・炭化物粒を含む。
- 12 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土ブロック・焼土粒・炭化物粒を含む。
- 13 褐色粘土。暗黄褐色粘土ブロックを含む。



第6図 第2号住居跡・遺物出土状況・出土遺物、第7号溝跡

第4表 第2号住居跡出土遺物観察表 (第6図)

No.	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	須恵器・杯	(12.6)	3.7	(5.6)	B・M・K・A・D・H	C	褐灰	1/4	内面及び口唇部炭化物附着。一部土師質。
2	轆轤土師器・高台椀	—	—	—	M・B・H・I・K・E・C	C	橙	底部1/2	表面磨滅。二次加熱。
3	須恵器・壺	(5.0)	—	—	A・B・N	B	黄灰	口縁部1/5	内面滓附着。
4	須恵器・壺	(13.2)	—	—	B・A・I・D	B	灰	上位1/6	
5	土師器・甕	(18.2)	—	—	E・B・A・M・N・K	B	橙	上位1/6	内外面輪積痕。
6	土師器・甕	(19.0)	—	—	M・D・A・I・N・K	B	鈍い黄橙	上位1/6	外面煤附着。
7	土師器・甕	—	—	(6.5)	D・M・N・A・H・K	B	橙	底部1/2	
8	土師器・甕	—	—	(5.8)	M・A・I・C・K	B	橙	底部1/6	二次加熱。
参	スラッグ(4点)	重さ①30.0g	②27.5g	③23.3g	④12.4g				

灰褐色シルトがブロック状に堆積している（第12層）。壁際には、暗黄褐色粘土ブロック・焼土粒・炭化物粒を含む褐色粘土層（第11層）、暗黄褐色粘土粒を含む暗褐色粘土層（第6層）が堆積している部分もみられる。いずれも投入土の様相を呈している。

遺物（第6図、第4表）は、全て竪穴内全域の覆土中からの出土であり遺物の集中はみられない。いずれも破片状であり、須恵器坏（1・焼きがあまく、一部土師質となる）、轆轤土師器高台碗（2・焼きがあまく、表面が剥離、摩滅している）、須恵器壺（3・4）、土師器甕（5～8、いずれも作りが雑）等の器種がみられる。土器類以外では、スラッグが4点検出されている。

第3号住居跡（第7図）

Ⅱ区AH・Ai-44・45グリッドに位置する。住居跡の西側では第32号土坑（SK-31）を切断している。

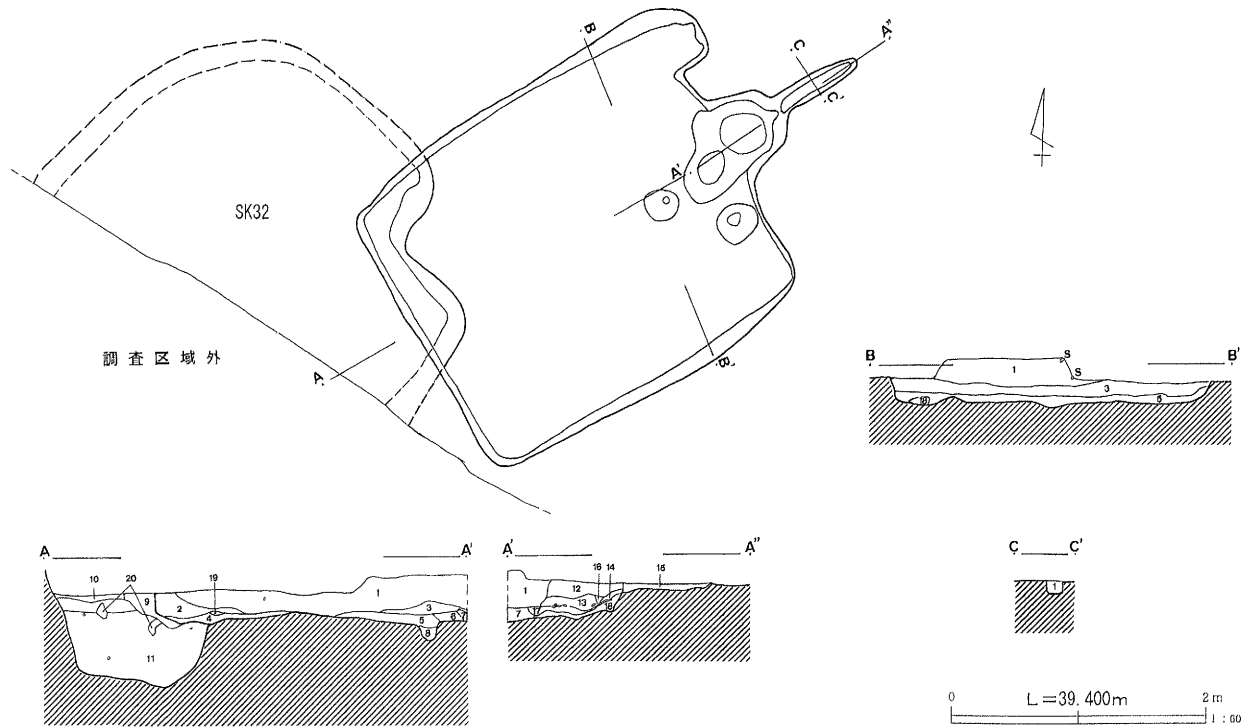
全体の規模は、長軸2.88m、短軸2.60mを測る。北西辺の北東端部はさらに33cm程延伸し、北東辺の北端が幅56cm程、方形の張り出しとなる。わずかに長短をもつため長方形を呈するといえる。主軸を長軸側にもち、方位は、N-59°-Eを示す。

床面は、凹凸がみられるが、固く締まっている。北側張り出し部分は、床面とほぼ同レベルであり、特別な掘り込みはみられない。壁は、部分的にやや緩傾斜となる部分もみられるが、全体ではほぼ垂直を成し、深さは約20cm前後を測る。

カマドは、北東辺中央やや北寄りに設置されている。燃焼部は、奥行き92cmの内54cm部分は竪穴外に張り出す。幅は竪穴壁際で70cmを測る。燃焼部側壁は、奥に向けて徐々に狭まり、奥壁の手前15cmのところに至って狭まりが急になり奥壁中央から延伸する煙道部へと連続する。接続部の幅は17cmを測る。底面は、わずかな傾斜で立ち上がり、奥壁の手前32cmのところまでいったん窪み、やや強い傾斜で奥壁に至る。奥壁は、垂直に近い傾斜で13cm立ち上がっている。煙道は、長さ75cmを測り、底面は曲線状に凹凸を成し、全体で緩やかに立ち上がる。袖は残存していない。

覆土は、床面上から、暗茶褐色粘土粒・ブロック・暗黄褐色粘土粒・焼土粒・炭化物粒を含む黒褐色粘土層（第5層）、黒褐色粘土粒・焼土粒・炭化物粒を含む暗黄褐色粘土層（第3層）、黒褐色粘土粒・焼土粒・炭化物粒・土器片・礫を含む暗褐色粘土層（第1層）を主体としている。壁際には、黒褐色粘土粒・ブロック・暗茶褐色粘土粒・ブロック・焼土粒・炭化物粒を含む暗褐色粘土層（第4層）、黒褐色粘土粒・焼土粒・炭化物粒を含む暗黄褐色粘土層（第2層）が堆積している部分もみられる。カマド燃焼部底面には、黒褐色粘土粒及び多量の焼土粒・炭化物粒を含む暗茶褐色粘土層（第7層）、多量の焼土粒・炭化物粒を含む暗褐色粘土層（第17層）が堆積し、この上面に土器類が検出されている。またカマド前及び脇に穿たれたピットには、暗茶褐色粘土粒・ブロック・暗黄褐色粘土粒・土器片及び多量の焼土粒・炭化物粒を含む黒褐色粘土層（第8層）が堆積しており、カマドとの関連性を窺わせている。

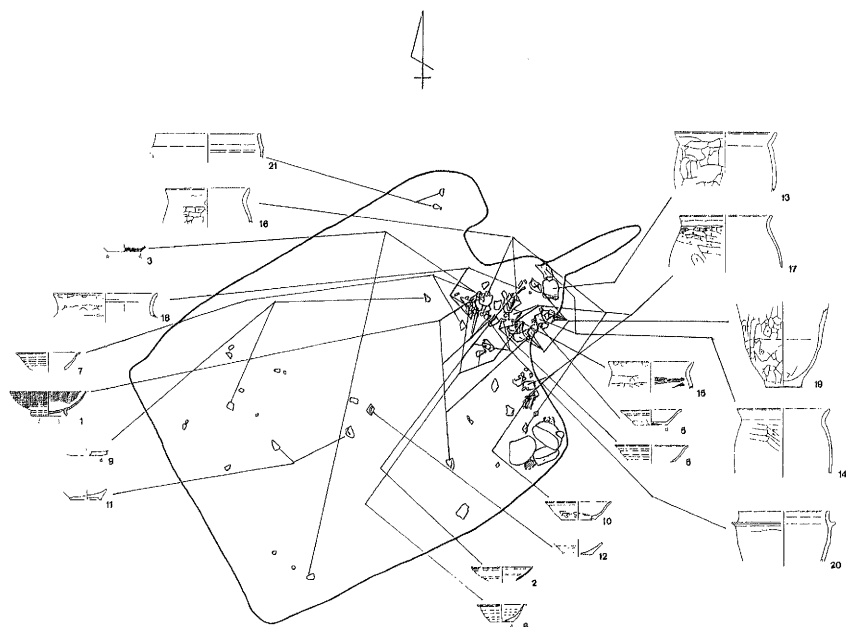
遺物（第8図、第5表）は、大部分がカマド燃焼部からの出土である。灰釉高台碗（1・内外面施釉、ほぼ完形）、須恵器坏（2・3・焼きがあまく、一部土師質となる）、須恵器坏（4・南比企産）、轆轤土師器坏（碗）・高台坏（碗）（5～12、このうち特に6・7・11・12は焼きがあまく、表面が剥離、摩滅している）、土師器甕（13～19、いずれも作りが雑）、羽釜（20・21）等の器種がみられる。このうち、カマド以外からの出土は轆轤土師器高台坏（碗）（10・カマド右脇、11・12・竪穴中央部）及び羽



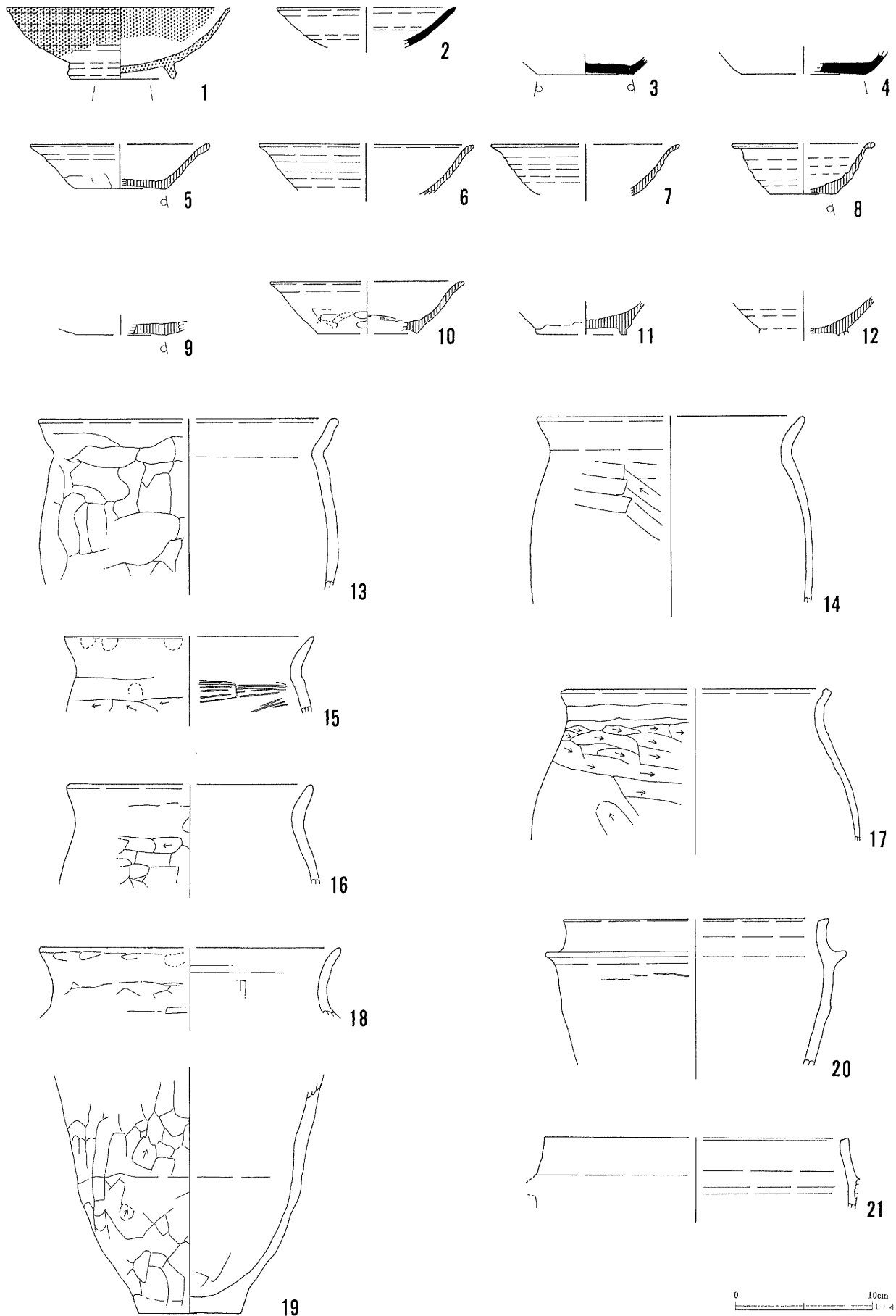
第3号住居跡

土層説明 (A-A' -A'', B-B', C-C')

- | | |
|--|--|
| <p>1 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・焼土粒・炭化物粒・土器片・礫を含む。</p> <p>2 暗黄褐色粘土。黒褐色粘土粒・焼土粒・炭化物粒を含む。</p> <p>3 暗黄褐色粘土。黒褐色粘土粒・焼土粒・炭化物粒を含む。(第2層と同一方)</p> <p>4 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・ブロック、暗茶褐色粘土粒・ブロック、焼土粒・炭化物粒を含む。</p> <p>5 黒褐色粘土。暗茶褐色粘土粒・ブロック、暗黄褐色粘土粒・焼土粒・炭化物粒を含む。</p> <p>6 黒褐色粘土。暗茶褐色粘土粒及び、多量の焼土粒・炭化物粒を含む。</p> <p>7 暗茶褐色粘土。黒褐色粘土粒及び、多量の焼土粒・炭化物粒を含む。</p> <p>8 黒褐色粘土。暗茶褐色粘土粒・ブロック、暗黄褐色粘土粒・土器片及び、多量の焼土粒・炭化物粒を含む。</p> <p>9 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・焼土粒・炭化物粒・小礫を含む。</p> <p>10 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒及び、多量の焼土粒・炭化物粒を含む。</p> | <p>11 黒褐色粘土。多量の焼土粒・炭化物粒及び、小礫を含む。</p> <p>12 暗黄褐色粘土。黒褐色粘土粒・焼土粒を含む。</p> <p>13 暗褐色粘土。焼土粒・炭化物粒・土器片を含む。</p> <p>14 暗褐色粘土。多量の焼土粒を含む。</p> <p>15 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・焼土粒を含む。</p> <p>16 暗褐色粘土。多量の焼土粒・炭化物粒及び、土器片を含む。</p> <p>17 暗褐色粘土。多量の焼土粒・炭化物粒を含む。</p> <p>18 暗茶褐色粘土ブロック。</p> <p>19 焼土。</p> <p>20 暗黄褐色粘土ブロック。</p> |
|--|--|



第7図 第3号住居跡・遺物出土状況



第8图 第3号住居跡出土遺物

第5表 第3号住居跡出土遺物観察表（第8図）

No.	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	灰釉・高台椀	16.4	5.2	7.5	A・B	A	灰白	ほぼ完形	
2	須恵器・杯	(13.0)	—	—	A・B・M・N・L・I	C	灰黄	底部欠2/5	
3	須恵器・杯	—	—	7.0	D・A・B・N・H・L	C	灰黄	底部3/5	内面土師質。
4	須恵器・杯	—	—	(9.0)	M・A・F・D	B	灰黄	底部1/4	
5	轆轤土師器・杯	(13.0)	3.2	(6.6)	A・B・I・J・G・E・M	B	鈍い褐	1/8	内外面吸炭。
6	轆轤土師器・杯	(15.8)	—	—	B・K・A・M・H	C	橙	上位1/8	外面及び口唇部煤付着。
7	轆轤土師器・杯	(13.7)	—	—	M・B・D・I・K	C	鈍い黄橙	上位1/8	外面煤付着。
8	轆轤土師器・杯	(10.5)	3.7	5.0	M・B・K・N	B	橙	1/3	やや硬く締まる。
9	轆轤土師器・杯	—	—	(6.5)	D・A・E・I・N	B	鈍い赤褐	底部1/2	外底面以外磨滅。
10	轆轤土師器・高台杯	(14.2)	3.8	(7.4)	B・K・A・D・G・M	B	鈍い黄橙	底部欠1/3	内外面吸炭。
11	轆轤土師器・高台杯	—	—	(6.7)	B・J・G・A	C	橙	底部のみ	表面磨滅。
12	轆轤土師器・高台杯	—	—	—	N・B・M・E・A	C	橙	底部1/2	
13	土師器・甕	(21.8)	—	—	M・B・A・N・E・H	B	橙	口縁部1/4	内面剥離した部分多。
14	土師器・甕	(19.6)	—	—	M・B・E・I・K・N	B	鈍い黄橙	口縁部1/4	
15	土師器・甕	(18.2)	—	—	B・A・C・I・M・J	B	鈍い橙	口縁部1/4	
16	土師器・甕	(17.7)	—	—	A・B・I・G・K・M	B	鈍い黄橙	口縁部1/7	
17	土師器・甕	(19.8)	—	—	B・K・A・N	B	明赤褐	上位1/7	吸炭、二次加熱。
18	土師器・甕	(22.0)	—	—	K・I・B・A	B	鈍い褐	口縁部1/4	吸炭。
19	土師器・甕	—	—	7.5	A・B・N・D・I・M	B	赤褐	底部1/2	二次加熱。
20	土師器・羽釜	(19.4)	—	—	B・M・E・K・I	B	鈍い黄橙	上位1/8	
21	土師器・羽釜	(22.2)	—	—	B・A・I・M・E	B	鈍い橙	口縁一部	

釜（21・北部張り出し内）のみである。また竪穴東隅からは人頭大礫3個及び焼土、炭化物が集中して出土している。

第4号住居跡（第9図）

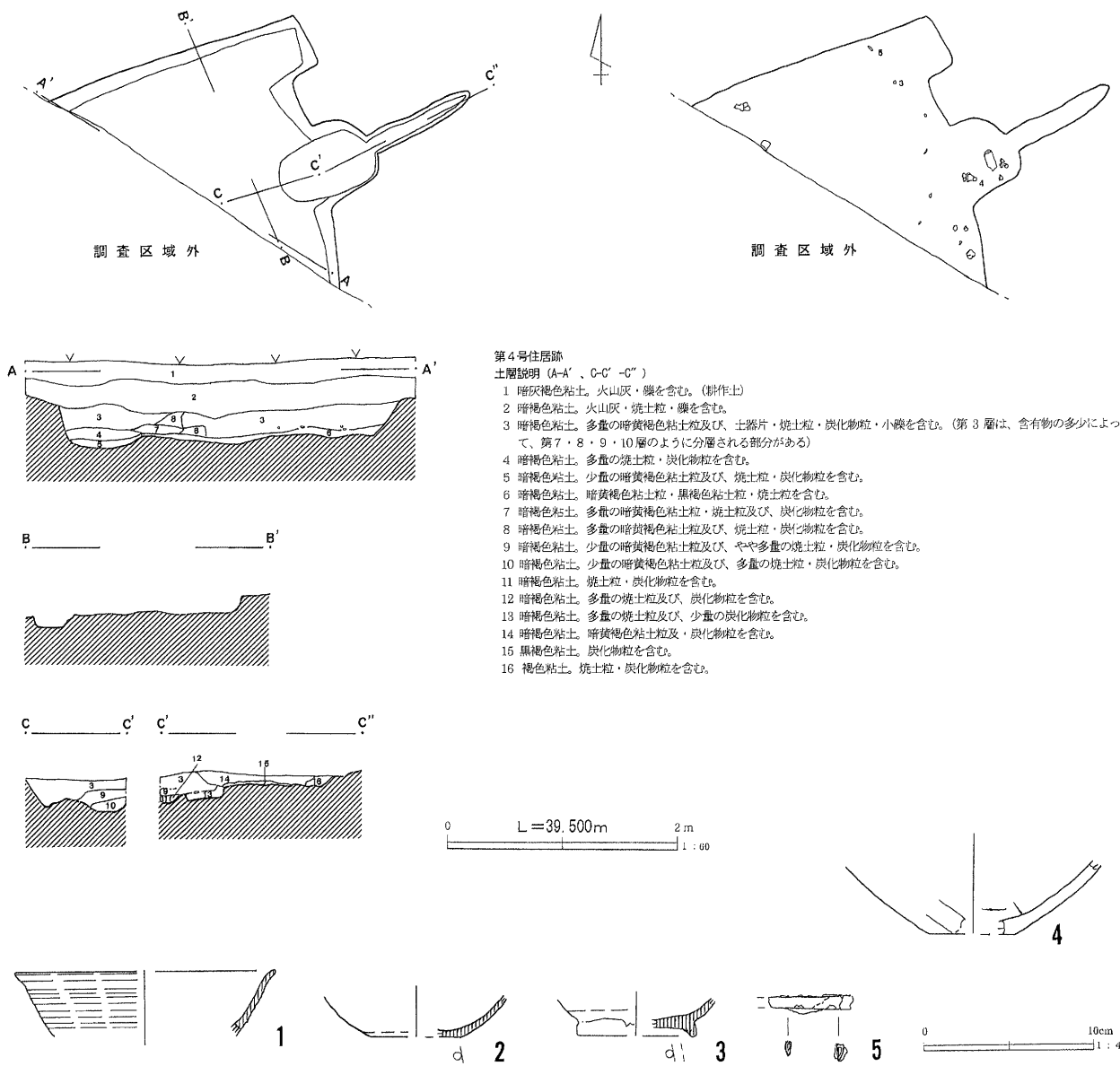
Ⅱ区AH-43・44グリッドに位置する。住居跡の北東半のみの調査であり、南西半は調査区外にある。

北東側大半が調査区外にあるため全体の規模は知れないが、北西辺の北東端部が33cm程延長するため、北東辺北端部が南東方向に幅56cm程、方形に張り出す形となり、第3号住居跡と同様の形態を示すものと思われる。主軸を長辺側にもち、方位は、N-59°-Eを示す。

床面は、凹凸が激しく、あまり固く締まっていない。特にカマド右脇部分は、11cm程の窪みとなっている。張り出し部分に特別の掘り込みはみられない。周溝等は、確認されていない。壁は、部分的にやや緩傾斜となる部分もみられるが、全体ではほぼ垂直を成し、深さは22~32cm前後を測る。

カマドは、北東辺中央に設置されていると思われる。燃烧部は、やや角をもつ長円形を呈し、奥行き88cmの内52cm部分は竪穴外に張り出す。幅は竪穴壁際で73cmを測る。燃烧部側壁は、奥に向けて徐々に広がり、奥壁の手前10cmのところに至って狭まりが急になり奥壁中央から延伸する煙道部へと連続する。接続部の幅は18cmを測る。底面は、凹凸を繰り返しながら徐々に立ち上がり、奥壁の手前31cmのところで行った窪み、ほぼ水平面を成して奥壁に至る。奥壁は、ほぼ垂直に10cm立ち上がっている。煙道は、長さ97cmを測り、底面は小さな起伏をもちながら緩やかに深さを増し、奥壁は曲線状に、全体で緩やかに立ち上がる。袖は残存していない。

覆土は、多量の暗黄褐色粘土粒及び土器片・焼土粒・炭化物粒・小礫を含む暗褐色粘土層（第3層）を主体としているが、場所によって含有量が異なり、別層（第7・8・9・10層）に区分される場合もある。床面上には、暗黄褐色粘土粒・黒褐色粘土粒・焼土粒を含む暗褐色粘土層（第6層）が堆積している。カマド右脇部分には、多量の焼土粒・炭化物粒を含む暗褐色粘土層（第4・5層、第5層には少



第4号住居跡
土層説明 (A-A'、C-C' -C'')

- 1 暗灰褐色粘土。火山灰・礫を含む。(耕作土)
- 2 暗褐色粘土。火山灰・焼土粒・礫を含む。
- 3 暗褐色粘土。多量の暗黄褐色粘土粒及び、土器片・焼土粒・炭化物粒・小礫を含む。(第3層は、含有物の多少によって、第7・8・9・10層のように分離される部分がある)
- 4 暗褐色粘土。多量の焼土粒・炭化物粒を含む。
- 5 暗褐色粘土。少量の暗黄褐色粘土粒及び、焼土粒・炭化物粒を含む。
- 6 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・黒褐色粘土粒・焼土粒を含む。
- 7 暗褐色粘土。多量の暗黄褐色粘土粒・焼土粒及び、炭化物粒を含む。
- 8 暗褐色粘土。多量の暗黄褐色粘土粒及び、焼土粒・炭化物粒を含む。
- 9 暗褐色粘土。少量の暗黄褐色粘土粒及び、やや多量の焼土粒・炭化物粒を含む。
- 10 暗褐色粘土。少量の暗黄褐色粘土粒及び、多量の焼土粒・炭化物粒を含む。
- 11 暗褐色粘土。焼土粒・炭化物粒を含む。
- 12 暗褐色粘土。多量の焼土粒及び、炭化物粒を含む。
- 13 暗褐色粘土。多量の焼土粒及び、少量の炭化物粒を含む。
- 14 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒及、炭化物粒を含む。
- 15 黒褐色粘土。炭化物粒を含む。
- 16 褐色粘土。焼土粒・炭化物粒を含む。

第9図 第4号住居跡・遺物出土状況・出土遺物

第6表 第4号住居跡出土遺物観察表 (第9図)

Na	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	轆轤土師器・杯	(15.4)	—	—	B・A・J・D	C	鈍い黄褐色	口縁部1/8	
2	轆轤土師器・杯	—	—	(5.4)	B・M・N・I・A	C	橙	底部1/8	
3	轆轤土師器・高台椀	—	—	(7.0)	B・A・D・I	C	鈍い黄橙	底部2/5	二次加熱。
4	土師器・甕	—	—	(5.0)	B・D・I・K・N	B	橙	底部1/8	甕か。
5	鉄製・刀子	最大幅0.8、最大厚0.35、重さ(5.9)g						1/2	

量の暗黄褐色粘土粒も含まれる)が堆積している。
遺物(第9図、第6表)は、いずれも第3層下面からであるが、カマド燃焼部から轆轤土師器・杯(1、2は竪穴内覆土中)及び土師器甕(4)、張り出し部付近から轆轤土師器高台椀(3)及び刀子(5)が検出されたのみである。轆轤土師器は、いずれも焼きがあまく、3は二次加熱を受けている。

第5号住居跡（第10図）

Ⅲ区AQ・AR-46グリッドに位置する。住居跡の南西側一部のみの調査であり、北東側大半が調査区外にある。

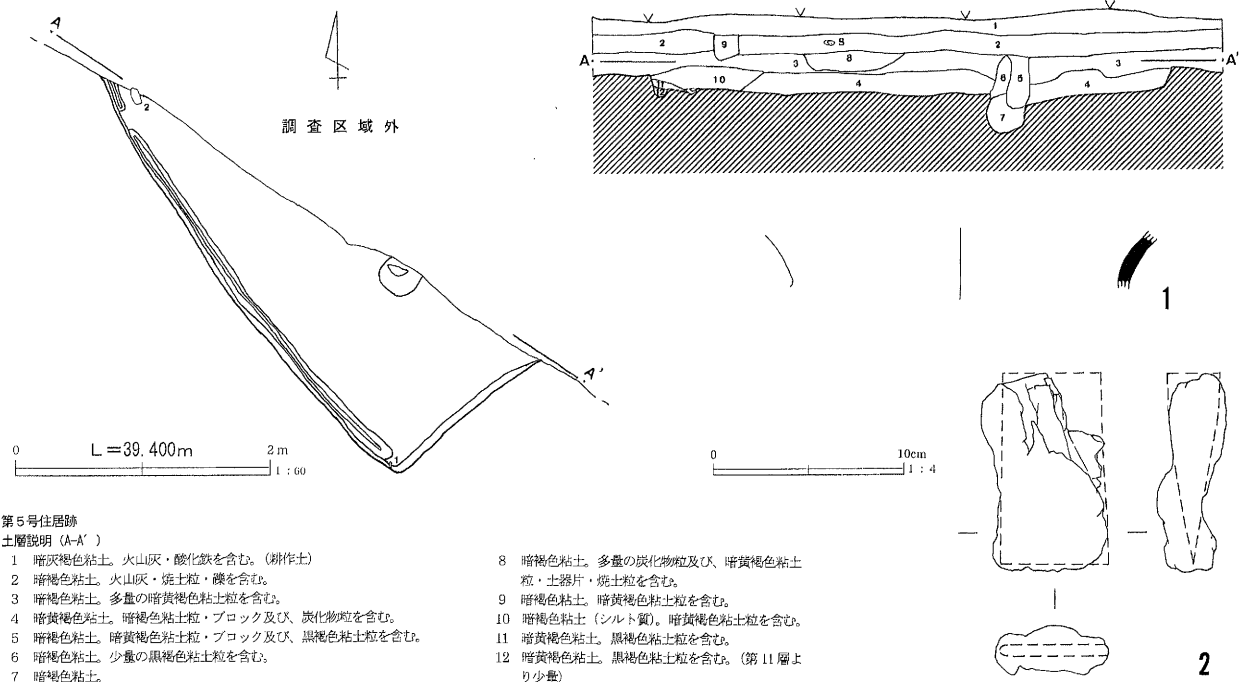
北東部の大半が調査区外にあるため全体の規模は知れないが、検出された南西辺が現状で4.00mを測るも北東方向へ屈曲する様相をみせないことから、南西辺を長辺とするものと思われる。東南辺も全容は知れないが、南西辺とはほぼ直角を成し、現状で1.50mを測る。形態も不明といわざるを得ないが、南西辺を長辺とすることが許されるならば第6号住居跡同様、長方形を呈するといえる。主軸を短辺側にもち、方位は、N-53°-Eを示す。

床面は、凹凸がみられるが、固く締まっている。南西壁直下には、幅8~12cm、深さ6cm前後の周溝が、一部で切断するものの、ほぼ断続して掘り込まれている。壁は、部分的にやや緩傾斜となる部分もみられるが、全体ではほぼ垂直を成し、深さは10~18cm前後を測る。床面を掘り込んでいるピットは、竪穴埋没後の所産である。

カマド等は検出されていない。

覆土は、暗褐色粘土粒・ブロック及び炭化物粒を含む暗黄褐色粘土層（第4層）を主体としている。壁際には、暗黄褐色粘土層粒を含む暗褐色粘土層（シルト質・第10層）、黒褐色粘土粒を含む暗黄褐色粘土層（第11・12層）が堆積している部分もみられる。全体に投入土の様相を呈している。

遺物（第10図、第7表）は、いずれも床面上からであるが、東隅から須恵器甕（口縁の一部のみ・1）及び、北側から鉄斧（2）が検出されたのみである。



第5号住居跡

土層説明 (A-A')

- 1 暗灰褐色粘土。火山灰・酸化鉄を含む。(耕作土)
- 2 暗褐色粘土。火山灰・焼土粒・礫を含む。
- 3 暗褐色粘土。多量の暗黄褐色粘土粒を含む。
- 4 暗黄褐色粘土。暗褐色粘土粒・ブロック及び、炭化物粒を含む。
- 5 暗黄褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・ブロック及び、黒褐色粘土粒を含む。
- 6 暗褐色粘土。少量の黒褐色粘土粒を含む。
- 7 暗褐色粘土。
- 8 暗褐色粘土。多量の炭化物粒及び、暗黄褐色粘土粒・土器片・焼土粒を含む。
- 9 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒を含む。
- 10 暗褐色粘土(シルト質)。暗黄褐色粘土粒を含む。
- 11 暗黄褐色粘土。黒褐色粘土粒を含む。
- 12 暗黄褐色粘土。黒褐色粘土粒を含む。(第11層より少量)

第10図 第5号住居跡・出土遺物

第7表 第5号住居跡出土遺物観察表（第10図）

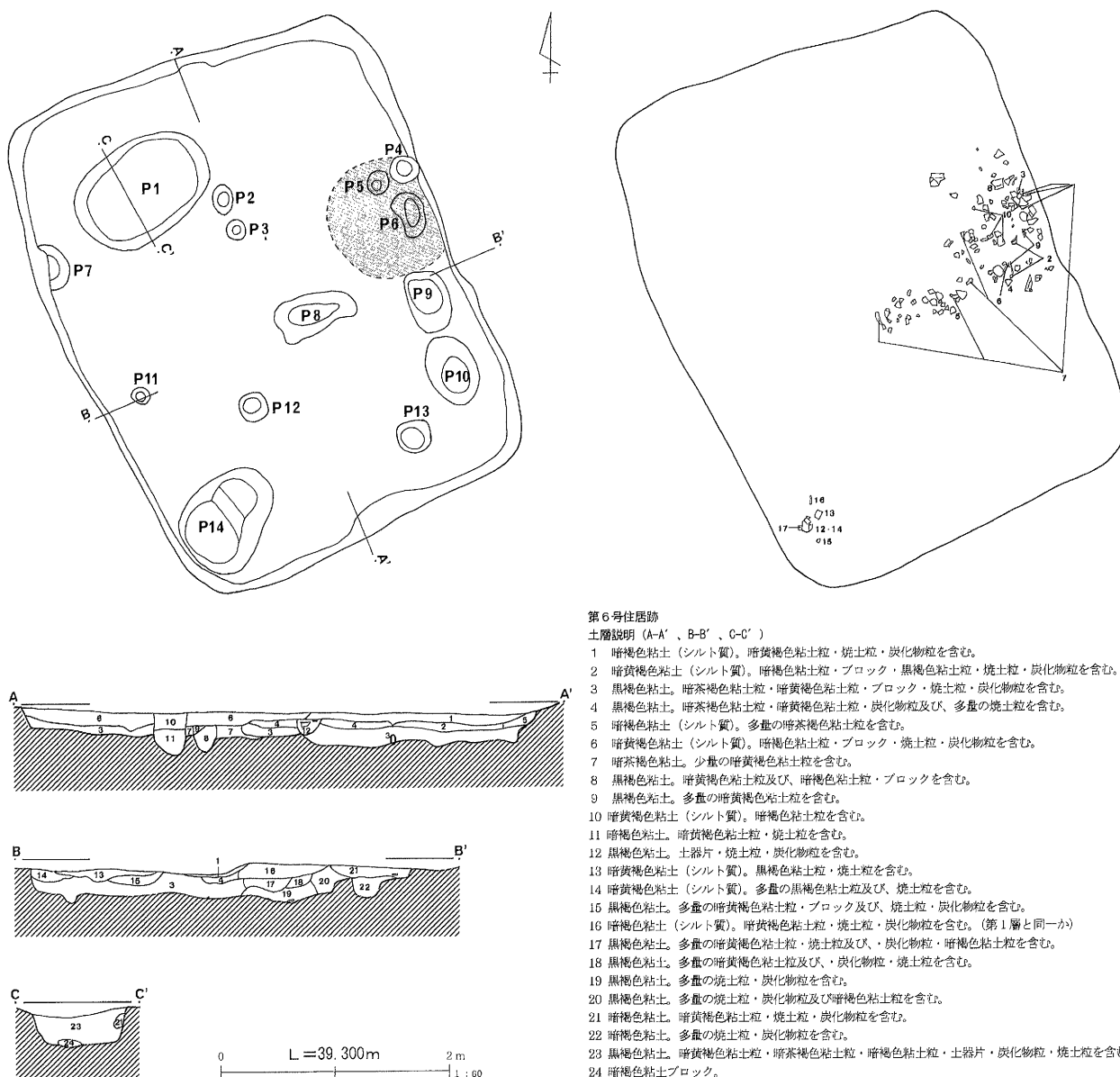
No.	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	須恵器・甕	—	—	—	A・B・L	A	灰	頸部片	内外面滓付着。
2	鉄斧	長さ(10.1)、最大幅5.6、最大厚(2.8)、重さ260g						2/3	

第6号住居跡（第11図）

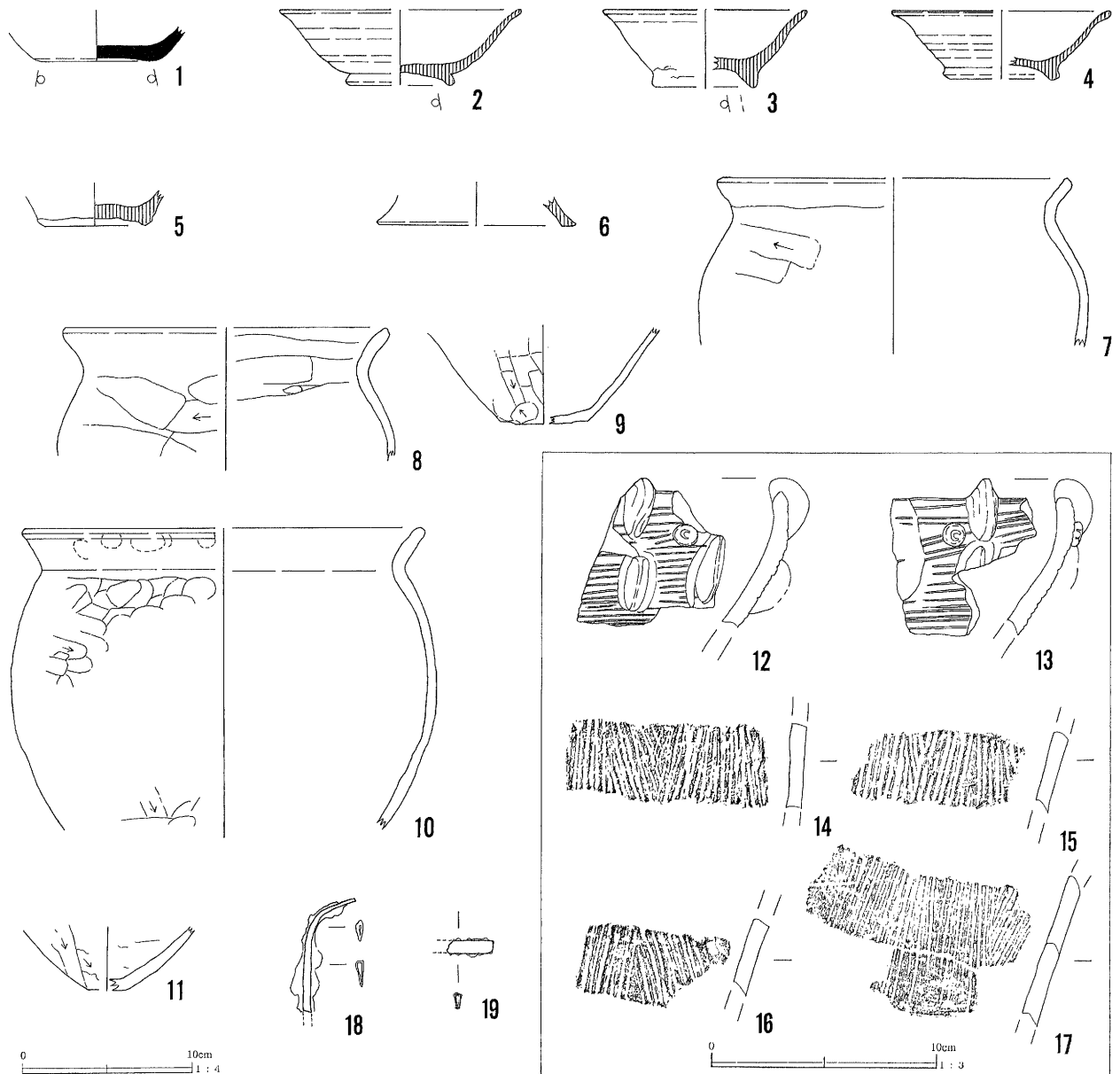
Ⅲ区AQ・AR-43・44グリッドに位置する。

全体の規模は、北東辺4.31m、南東辺3.10m、南西辺4.35m、北西辺3.02mを測る。南西辺がやや膨らみをもつため短軸の最長部は3.52mを測る部分もある。また、各隅に丸味をもつため全体では隅円長方形を呈するといえる。主軸を短軸側にもち、方位は、N-67°-Eを示す。

床面は、凹凸がみられ、固く締まっているが、南東部が一段低くなり、全体出二段構成となっている。また床面上には、大小14の掘り込みがみられる。このうちP2、3、4が竪穴埋没中もしくは埋没後の所産である他は、本住居跡に付随するものである。ちなみにP1は長円形を呈し、123×83cm、深さ33cm、P5は円形を呈し、19×20cm、深さ10cm、P6は長円形を呈し、40×22cm、深さ9cm、P7は不整形を呈し、40×20cm、深さ35cm、P8はやや不整な長方形を呈し、72×37cm、深さ4cm、P9は長円形を呈し、55×35cm、深さ16cm、P10は長円形を呈し、65×41cm、深さ7cm、P11は円形を呈し、15×15cm、



第11図 第6号住居跡・遺物出土状況



第12図 第6号住居跡出土遺物

深さ6cm、P12は円形を呈し、25×24cm、深さ22cm、P13は円形を呈し、29×27cm、深さ35cmである。P14はやや不整な長円形を呈し、二段を成す。全体で98×73cm、深さは北側が浅く24cm、南側が45cmを測る。壁は、部分的にやや緩傾斜となる部分もみられるが、全体ではほぼ垂直を成し、深さは北西部で約20cm前後、南東部で30cm前後を測る。

北東辺直下、中央よりやや北寄りの余暇面上に、長軸側105cm、短軸側90cmの長円形範囲内に焼土が層を成し、カマドが設置されていた可能性が高い。しかし、壁に掘り込みや焼土化した部分もなく、灰層もほとんど検出されなかったことから、本跡がカマドであった可能性は高いが、断言はできない。

覆土は、下位を中心に堆積する暗茶褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒・ブロック・焼土粒・炭化物粒を含む黒褐色粘土層（第3層）を主体とし、含有物の多少によって区分された黒褐色粘土層（第4・9・12・15・17～20・23層）また上位には、暗黄褐色粘土層を主体とした土層（第2・6・13・14層）や、

第8表 第6号住居跡出土遺物観察表 (第12図)

No.	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考	
1	須恵器・杯	—	—	6.8	K・B・A・M・H・E・N	C	灰白	底部1/2	大部分表面剥離。	
2	轆轤土師器・高台椀	(14.4)	4.5	(6.5)	A・D・K・M・N	C	橙	1/3		
3	轆轤土師器・高台椀	(11.9)	4.6	(5.95)	B・J・A・N	C	橙	1/4		
4	轆轤土師器・高台椀	(13.0)	4.1	(7.0)	B・D・A・I・K	C	橙	1/6	二次加熱。	
5	轆轤土師器・高台椀	—	—	(7.0)	N・B・I	C	橙	底部1/3	二次加熱。礫多。	
6	轆轤土師器・高台椀	—	—	(5.9)	B・E・A・K	B	黄橙	高台部1/5		
7	土師器・甕	(20.6)	—	—	B・J	B	橙	上位1/4	表面磨滅した部分多い。二次加熱。	
8	土師器・甕	(19.2)	—	—	B・K・A・E・M・H・J・N	B	鈍い橙	口縁部1/8	内外面吸炭。	
9	土師器・甕	—	—	5.2	B・D・A・I・K	B	橙	底部2/3		
10	土師器・甕	(24.0)	—	—	B・A・E・D・I・K・M・N	B	鈍い黄橙	上位1/3		
11	土師器・甕	—	—	(2.1)	N・D・A・J・I・B	B	橙	下位1/4		
12	縄文土器・深鉢	—	—	—	N・C・M	B	鈍い黄	口縁部一部	No.12~17は同一個体。 縄文前期・諸磯C期。 全片内外面共吸炭。	
13	縄文土器・深鉢	—	—	—	N・C・M	B	鈍い黄	口縁部一部		
14	縄文土器・深鉢	—	—	—	N・C・M	B	鈍い黄	胴部一部		
15	縄文土器・深鉢	—	—	—	N・C・M	B	鈍い黄	胴部一部		
16	縄文土器・深鉢	—	—	—	N・C・M	B	鈍い黄	胴部一部		
17	縄文土器・深鉢	—	—	—	N・C・M	B	鈍い黄	胴部一部		
18	鉄製・鉞	長さ(6.8)、最大幅1.55、最大厚0.45、重さ(21.8)g							一部欠	
19	鉄製・刀子	最大幅0.8、最大厚0.4、重さ2.1g							—	

暗褐色粘土層を主体とした土層 (第1・5・16・21・22層) が堆積している。全体に投入土の様相を呈している。

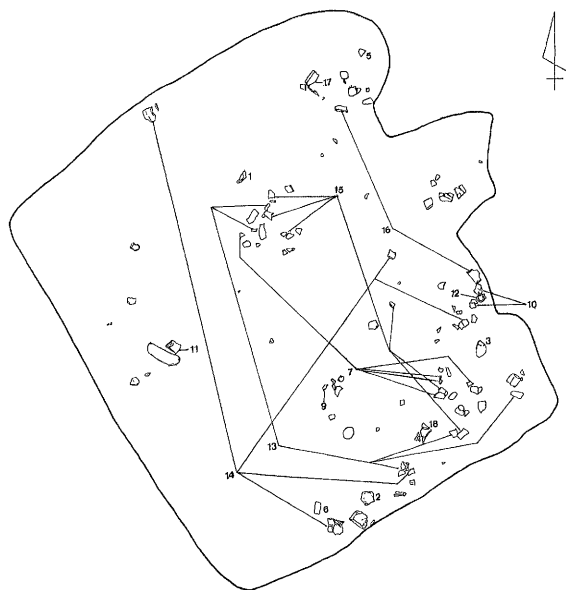
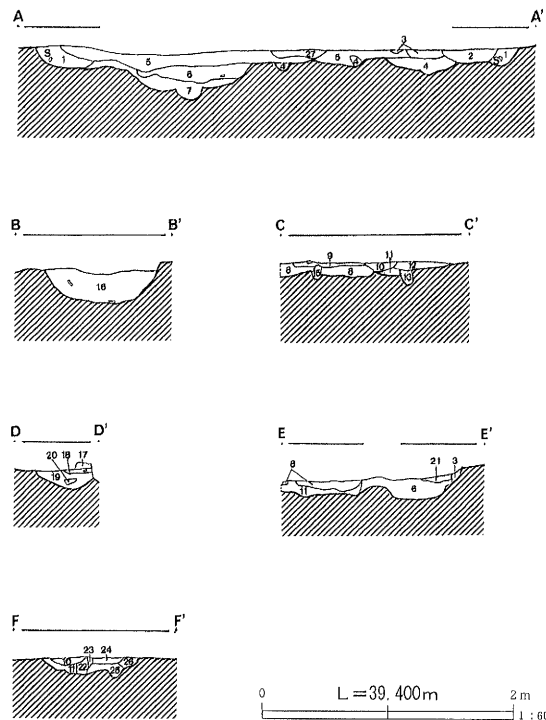
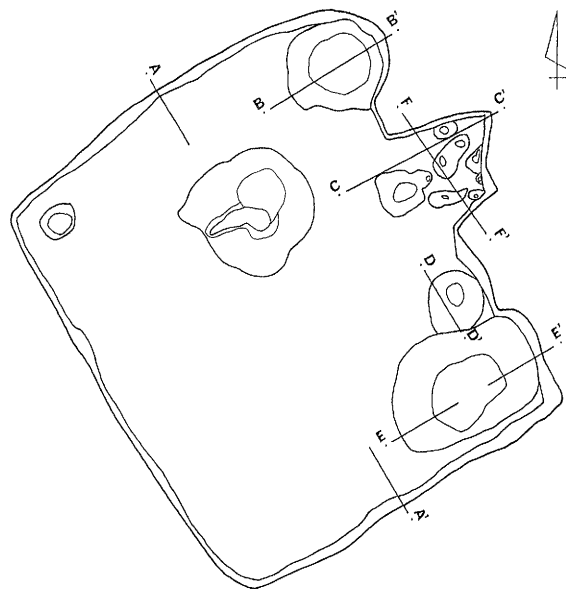
遺物 (第12図、第8表) は、いずれも床面上からであり、須恵器杯 (1・焼き悪く、表面剥離)、轆轤土師器高台椀 (2~6・内2~5は焼きがあまい)、土師器甕 (7~11) が検出されている。いずれもP5・6中もしくは両ピット上の焼土層上、及びそこからP8中にかけての部分に集中している。覆土中から鉄製品の鉞 (18) 及び刀子 (19) も出土している。さらにP14内からは、縄文時代前期・諸磯C期に属する深鉢形土器 (恐らく一個体を成す) が検出されている。

第7号住居跡 (第13図)

Ⅲ区A O・A P-40・41グリッドに位置する。上面に第8号溝跡が位置する。

全体の規模は、長軸3.86m、短軸3.08mを測り、長方形を呈する。北西辺の北東端部はさらに40cm程延伸し、北東辺の北端が幅83cm、円形の張り出しとなる。同様に北東辺の南端は、幅80cm、奥行15cmの規模で方形に張り出している。主軸を短軸側にもち、方位は、N-58°-Eを示す。

床面は、凹凸が激しいが、固く締まった部分も多い。床面上には、カマド内を除いて大小5箇所掘り込みがみられる。全て本住居跡に付随するものである。北端例は、北東辺の北の張り出し部から竪穴内に半々の割合で位置し、円形を呈する。86×83cm、深さ25cmを測り、断面形は円弧を描いている。東端例は、北東辺の南の張り出し部から大部分が竪穴内に位置し、やや不整形であるが略長方形を呈する。123×75~85cm、深さ10cm前後を測り、断面形は略逆台形を描くが、凹凸が激しい。カマド右脇例は南端で東端例と接する。円形を呈し、50×45cm、深さ15cmを測る。断面形は楕円状を呈する。竪穴中央 (北西寄り) 例は、方円形を呈し、95×90cm、深さ北側が15cm、南側が26cmを測る。断面形は南北で二段を成し、それぞれで円弧を描いている。西端例は円形を呈し、30×26cm、深さ22cmを測り、断面形は逆台形を描いている。壁は、部分的にやや緩傾斜となる部分もみられるが、全体ではほぼ垂直を成す部分が多く、深さは16cm前後~22cm前後を測る。周溝等は、検出されていない。



第7号住居跡

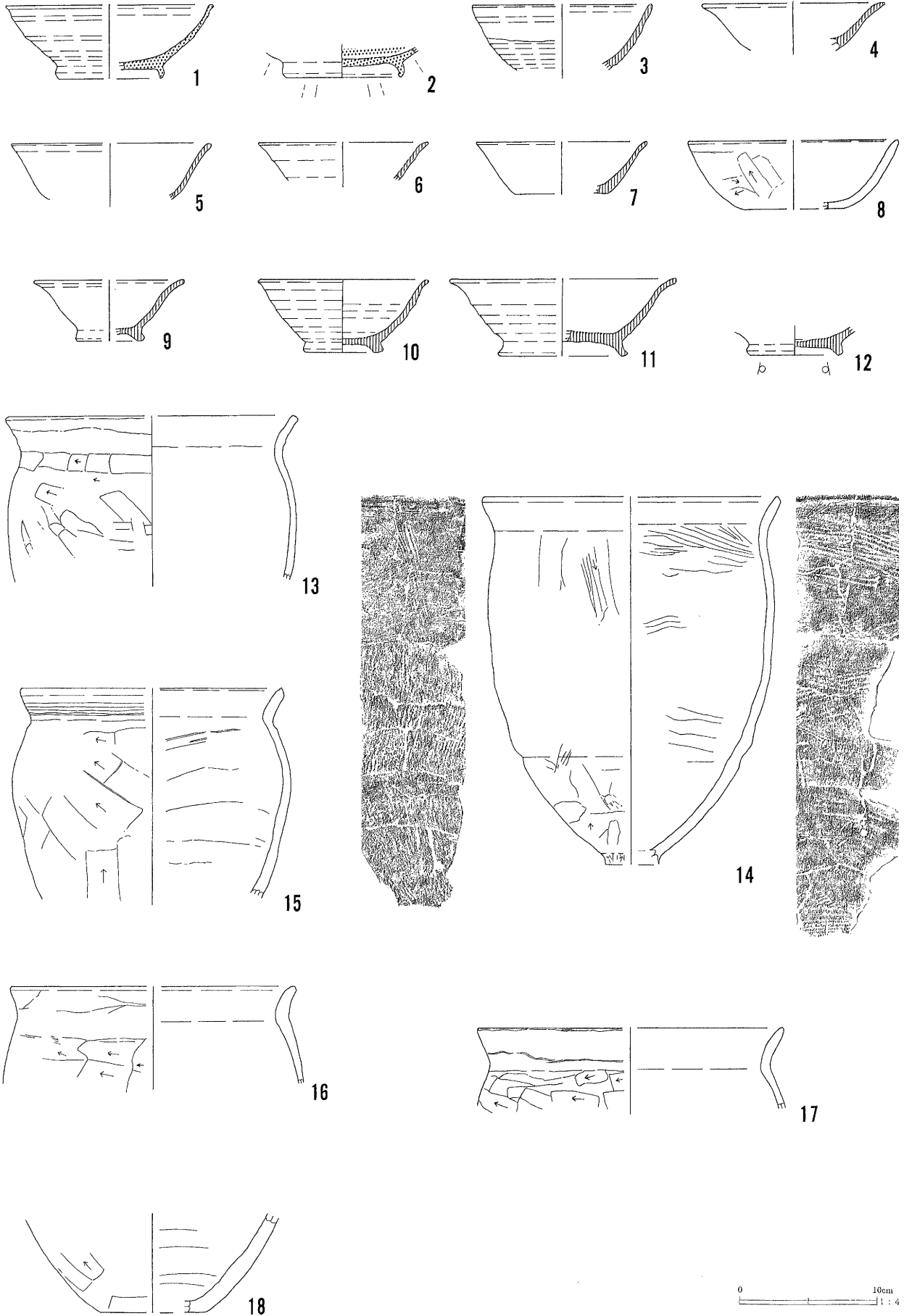
土層説明 (A-A'、B-B'、C-C'、D-D'、E-E'、F-F')

- 1 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・礫及び、少量の焼土粒を含む。
- 2 暗褐色粘土。多量の焼土粒暗及び、少量の炭化物粒を含む。
- 3 暗褐色粘土。少量の暗黄褐色粘土粒を含む。
- 4 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・黒褐色粘土粒・焼土粒・炭化物粒を含み、硬く締まる。
- 5 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・焼土粒・炭化物粒を含む。
- 6 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒・焼土粒・炭化物粒を含む。
- 7 暗褐色粘土。焼土粒・炭化物粒を含む。
- 8 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・焼土粒・炭化物粒を含む。
- 9 暗褐色粘土。多量の焼土粒・炭化物粒を含む。
- 10 暗褐色粘土。多量の焼土粒及び、炭化物粒を含む。
- 11 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒を含む。
- 12 暗褐色粘土。焼土粒・炭化物粒を含む。
- 13 暗褐色粘土。多量の焼土粒を含む。
- 14 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒を含む。
- 15 暗褐色粘土。焼土粒・炭化物粒・暗黄褐色粘土粒を含む。
- 16 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒・焼土粒・炭化物粒を含む。
- 17 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・焼土粒・炭化物粒を含む。
- 18 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒及び、多量の焼土粒・炭化物粒を含む。
- 19 暗褐色粘土。多量の焼土粒・炭化物粒及び、暗黄褐色粘土粒・土器片を含む。
- 20 暗褐色粘土。多量の暗黄褐色粘土粒及び、焼土粒・炭化物粒を含む。
- 21 暗褐色粘土。多量の暗黄褐色粘土粒・焼土粒・炭化物粒を含む。
- 22 暗褐色粘土。多量の焼土粒及び、炭化物粒を含む。
- 23 暗褐色粘土。少量の暗黄褐色粘土粒・焼土粒を含む。
- 24 暗褐色粘土。少量の暗黄褐色粘土粒及び、多量の焼土粒・炭化物粒を含む。
- 25 暗褐色粘土。焼土粒・炭化物粒を含む。
- 26 暗褐色粘土。少量の焼土粒・炭化物粒を含む。
- 27 暗褐色粘土。(7号溝覆土)

第13図 第7号住居跡・遺物出土状況

カマドは、北東辺中央やや北寄りに設置されている。燃烧部は、奥行き75cmにわたって竖穴外に張り出す。張り出しは三角形を呈し、竖穴壁際の幅は92cmを測る。燃烧部は、竖穴内にも40cm伸び、全体で115cmを測る。竖穴内の幅は壁際の幅を維持している。底面は、凹凸が激しく、ピット状を呈する部分が多い。全体では、わずかな傾斜で立ち上がり、奥壁部では段を成すことなく、自然に消滅している。煙道及び袖は、残存していない。

覆土は、暗黄褐色粘土粒・焼土粒・炭化物粒を含む暗褐色粘土層（第5層）を主体とし、含有物の多少（一部含有物の違い）によって区分された暗褐色粘土層が堆積している。壁際には、ほぼ全面に暗黄褐色粘土粒・礫及び少量の焼土粒を含む暗褐色粘土層（第1層）が堆積している。床面の窪地には、暗



第14图 第7号住居跡出土遺物

第9表 第7号住居跡出土遺物観察表 (第14図)

No.	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	灰釉・高台椀	(15.0)	5.4	(7.5)	A	A	灰白	1/6	自然釉のみ。
2	灰釉・高台椀	—	—	9.0	B・M	A	鈍い黄橙	底部のみ	
3	轆轤土師器・杯	(13.1)	—	—	B・A・I・D・M・N	B	明赤褐	上位1/3	外面輪積痕。
4	轆轤土師器・杯	(13.2)	—	—	A・B・N・J・I・D	C	黄橙	1/7	
5	轆轤土師器・杯	(14.6)	—	—	B・A・M・K	B	明赤褐	口縁部1/6	二次加熱。
6	轆轤土師器・杯	(12.4)	—	—	D・B・A・K・M・N	C	橙	口縁部1/4	
7	轆轤土師器・杯	(12.5)	—	(6.9)	M・B・D・K	C	浅黄橙	1/3	表面磨滅。
8	土師器・杯	(15.2)	5.0	(7.2)	I・J・B・A・D・E	B	橙	1/4	口唇部炭化物付着。
9	轆轤土師器・高台杯	(10.1)	4.5	(4.2)	N・D・A・B・I・J	C	鈍い黄橙	1/6	表面剥離。
10	轆轤土師器・高台椀	12.1	5.35	5.0	A・B・E・I・N	C	橙	1/2	吸炭、二次加熱。
11	轆轤土師器・高台椀	(16.6)	5.8	(9.5)	M・B・I・K・A・E	C	橙	1/6	内面剥離。
12	轆轤土師器・高台椀	—	—	7.0	K・B・E・A・I・M	C	明黄褐	高台部のみ	
13	土師器・甕	(21.4)	—	—	B・K・E・H・M・N	B	鈍い橙	上位2/3	二次加熱。
14	土師器・甕	(21.0)	26.9	(4.2)	A・B・I・J・N・D	B	赤褐	1/4	二次加熱。
15	土師器・甕	(19.2)	—	—	B・D・M・A・K	B	橙	1/6	内外輪積痕。
16	土師器・甕	(23.4)	—	—	A・B・E・I・J・N	B	橙	上位1/3	内外面輪積痕。二次加熱。
17	土師器・甕	(22.4)	—	—	B・K・A・E	B	橙	口縁部1/4	口縁外面輪積痕。
18	土師器・甕	—	—	(7.8)	M・B・D・A	B	橙	底部のみ	羽釜か。
参	スラッグ(5点)	重さ①27.9g	②7.0g	③5.4g	④3.3g	⑤2.1g			

黄褐色粘土粒・黒褐色粘土粒・焼土粒・炭化物粒を含む固く締まった暗褐色粘土層(第4層)が堆積した部分が多く、床の凹凸を補正したものと思われる状況を呈している。

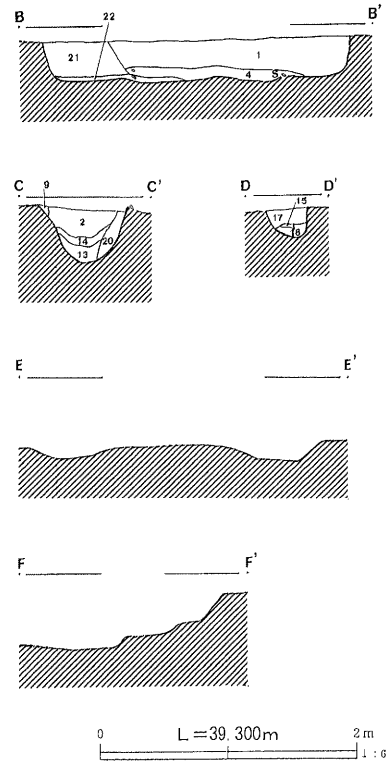
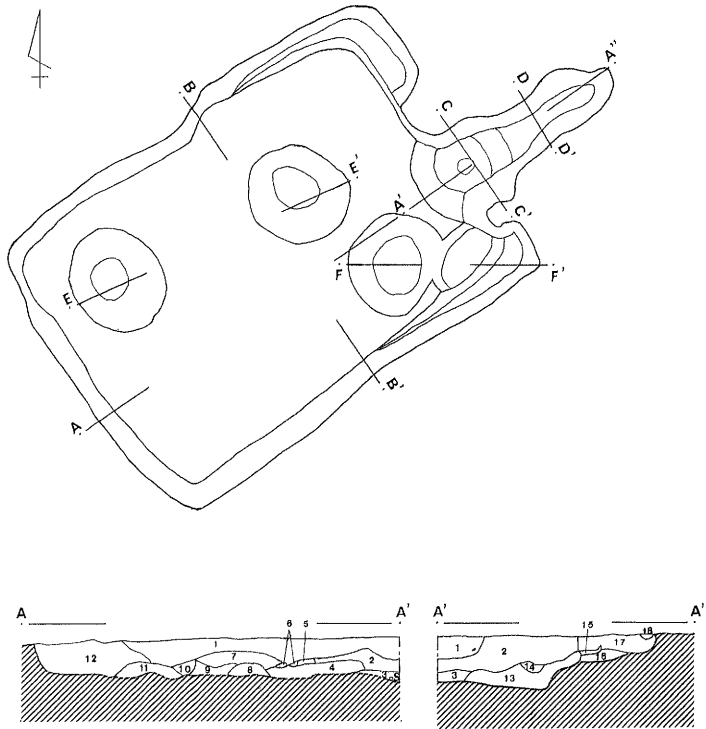
遺物(第14図、第9表)は、いずれも床面上からであるが、特定の場所に集中することなく、同一個体が竪穴内に散った状況で検出されたものが多い。灰釉高台椀(1・2・1は自然釉のみ)、轆轤土師器杯(3~7・特に4・6・7は焼き悪く、7は表面剥離)、土師器杯(8・外面に輪積痕を残すが丁寧なナデで調整)、轆轤土師器高台椀(9~12・全て焼きがあまく、内9・11は表面剥離)、土師器甕(13~18・作りは比較的丁寧である。また18は、下位のみを検出であるが、胎土・焼成等から、羽釜である可能性が高い)が検出されている。その他、スラッグも5点出土している。

第8号住居跡(第15図)

Ⅲ区AN・AO-39・40グリッドに位置する。

全体の規模は、長軸3.37m、短軸2.65mを測り、長方形を呈する。北西辺の中央から北東辺の北端に及ぶ、L字形の張り出しがみられる。規模は、北東端部にかけては、北西側に幅15cm、長さ150cm、北東辺の北端部では、幅29cm、長さ89cmに及んでいる。同様に、南東辺の中央から北東辺の南端にも、L字形の張り出しがみられる。規模は、南東端部にかけては、南東側に幅14~24cm、長さ150cm、北東辺の南端部では、幅20cm、長さ45cmに及んでいる。両張り出しは北東辺に設置されたカマドの両側に配されている格好となる。しかしカマドは、北東辺の中央ではなく南寄りのため、北東辺の余白の広い北端部には大きな張り出しが、逆に余白の狭い北東辺の南端部には、小さな張り出しが設置されたものと思われる。張り出し部の床面は、北例では12cm、東例では17cm、それぞれ竪穴の床面から上段である。竪穴の主軸は長軸側にもち、方位は、N-54°-Eを示す。

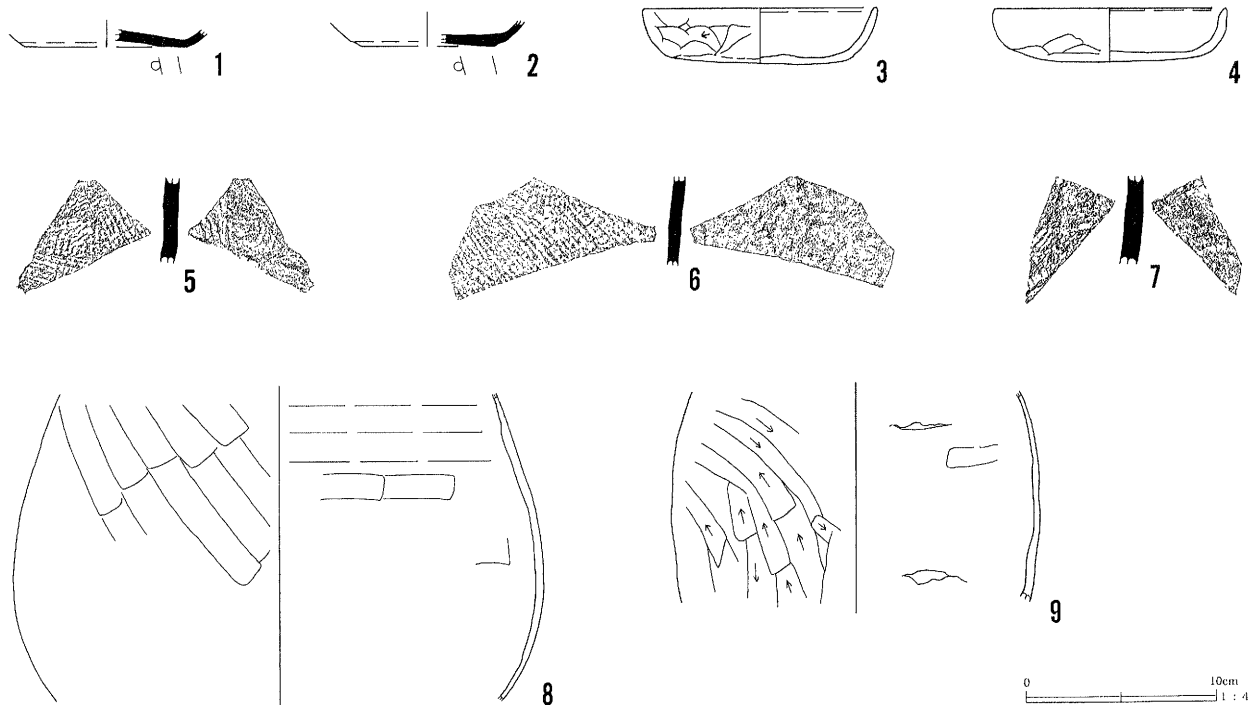
床面は、凹凸がみられるものの安定し、固く締まった部分も多い。床面上には、円形の掘り込みが3箇所みられる。全て本住居跡に付随するものである。西端例は、86×72cm、深さ10cm前後を測り、断面形は円弧を描いている。中央やや北寄り例は、82×72cm、深さ18cmを測り、断面形は略逆台形を描く。



第8号住居跡

土層説明 (A-A' - A'', B-B', C-C', D-D', E-E', F-F')

- 1 暗褐色粘土。少量の暗褐色粘土粒・焼土粒及び、火山灰を含む。
- 2 暗褐色粘土。多量の暗褐色粘土粒及び、焼土粒・礫・火山灰を含む。
- 3 暗褐色粘土。少量の暗褐色粘土粒及び、焼土粒・小礫・火山灰を含む。
- 4 暗褐色粘土。多量の黒褐色粘土ブロック及び、焼土粒・小礫・火山灰・暗褐色粘土粒を含む。
- 5 暗褐色粘土。少量の暗褐色粘土粒を含む。
- 6 暗褐色粘土。暗褐色粘土ブロックを含む。
- 7 暗褐色粘土。多量の黒褐色粘土ブロック及び、焼土粒・小礫・火山灰・炭化物粒を含む。
- 8 暗褐色粘土。暗褐色粘土粒・炭化物粒・小礫・火山灰を含む。
- 9 暗褐色粘土。少量の炭化物粒・焼土粒及び、火山灰を含む。
- 10 暗褐色粘土。暗褐色粘土粒・炭化物粒・焼土粒・火山灰を含む。
- 11 暗褐色粘土。多量の黒褐色粘土ブロック及び、焼土粒・炭化物粒・火山灰を含む。
- 12 暗褐色粘土。少量の暗褐色粘土粒・ブロック及び、焼土粒・炭化物粒・小礫・火山灰を含む。
- 13 暗褐色粘土。多量の焼土粒及び、炭化物粒・暗褐色粘土粒を含む。
- 14 暗褐色粘土。多量の焼土粒、やや多い暗褐色粘土粒及び、炭化物粒を含む。
- 15 暗褐色粘土。多量の焼土粒を含む。
- 16 暗褐色粘土。少量の焼土粒・火山灰・炭化物粒を含む。
- 17 暗褐色粘土。少量の焼土粒・炭化物粒及び、火山灰を含む。
- 18 暗褐色粘土。多量の暗褐色粘土粒・焼土粒を含む。
- 19 暗褐色粘土。多量の暗褐色粘土粒を含む。
- 20 暗褐色粘土。多量の焼土粒・炭化物粒及び、暗褐色粘土粒を含む。
- 21 暗褐色粘土。焼土粒・炭化物粒・小礫・火山灰を含む。
- 22 暗褐色粘土。暗褐色粘土粒・焼土粒・小礫・火山灰を含む。



第15図 第8号住居跡・出土遺物

第10表 第8号住居跡出土遺物観察表 (第15図)

No.	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	須恵器杯	—	—	(8.6)	L·A·D·B	A	灰黄	底部1/4	
2	須恵器杯	—	—	(7.0)	A·F	A	灰白	底部1/4	
3	土師器杯	12.4	2.9	9.6	B·A·E·M·K·J·G·I·N	B	橙	完形	
4	土師器杯	12.3	2.75	8.0	B·A·N·D·J·I	B	鈍い橙	1/2	
5	須恵器甕	—	—	—	L·A·D·I	B	灰	破片	
6	須恵器甕	—	—	—	L·A·D	B	灰	破片	
7	須恵器甕	—	—	—	L·A·D·I	B	灰	破片	
8	土師器甕	—	—	—	M·B·A·I·N	B	橙	胴部一部	吸炭、二次加熱。
9	土師器甕	—	—	—	B·A·I·K	B	赤	胴部一部	吸炭、二次加熱。

カマド前例は、82×72cm、深さは中央寄りから徐々に深さを増し、最深部で10cmを測る。壁は、部分的にやや緩傾斜となる部分もみられるが、全体ではほぼ垂直を成す部分が多く、深さは30cm前後を測る。周溝等は、検出されていない。

カマドは、北東辺の中央から南寄りに設置されている。燃烧部は、奥行き70cmに及ぶが、内50cm部分が竪穴外に張り出す。張り出しは矩形を呈し、幅は、竪穴壁際・奥壁部共に70～73cmを測る。燃烧部は、竪穴内にも20cm伸び、前面は円弧を描く。底面は、奥壁に向けて直線的に深くなり、奥壁は15cmの高さで、上位がやや緩斜面を成すもののほぼ直立する。横断面は緩い円弧を描く。奥壁から幅30cm前後の煙道部へ移行する。煙道部幅は徐々に狭まり、口から30cmのところまで15cmとなり、煙出しまで持続する。底面は、小さな凹凸を繰り返しながら、全体で徐々に立ち上がり、直立する奥壁へと移行する。煙道部の全長は、102cmを測る。

覆土は、ブロック状に小範囲に堆積する土層以外の大半に火山灰が含まれることを大きな特徴としている。基本的には、全て暗褐色粘土層であり、含有物の有無や量の多少により区分されているものである。その中で北部を中心に堆積する、少量の暗黄褐色粘土粒・焼土粒及び火山灰を含む暗褐色粘土層(第1層)、多量の暗橙褐色粘土粒及び焼土粒・礫・火山灰を含む暗褐色粘土層(第2層)、少量の暗黄褐色粘土粒及び焼土粒・小礫・火山灰を含む暗褐色粘土層(第3層)、焼土粒・小礫・火山灰を含む暗褐色粘土層(第21層)等にはブロック化した粘土分はみられず、自然堆積の状況を呈している。逆に、南部を中心に堆積する、多量の黒褐色粘土ブロック及び、焼土粒・炭化物粒・小礫・火山灰を含む暗褐色粘土層(第4層)、暗橙褐色粘土ブロックを含む暗褐色粘土層(第6層)、多量の黒褐色粘土ブロック及び、焼土粒・小礫・火山灰・炭化物粒を含む暗褐色粘土層(第7層)、多量の黒褐色粘土ブロック及び、焼土粒・炭化物粒・火山灰を含む暗褐色粘土層(第11層)、少量の暗橙褐色粘土粒・ブロック及び、焼土粒・炭化物粒・小礫・火山灰を含む暗褐色粘土層(第12層)等にはブロック化した粘土分が多量に含まれ、投入による人為的な堆積状況を示している。なお、両張り出し部の覆土に第1層・第4層共に堆積していないため、当初は土坑との重複も考えられたが、下位堆積土である暗橙褐色粘土粒・焼土粒・小礫・火山灰を含む暗褐色粘土層(第22層)が竪穴内に位置する第4層下にも連続して堆積していることが確認されたため、両張り出しとして、本遺構に帰属させたものである。

遺物(第15図、第10表)は、カマド左前面の袖斜面上から土師器杯(3)が検出された以外は、カマド内外の覆土中から須恵器杯(1・2・いずれも焼きが良く、周辺部へラ削り)、須恵器甕(5・6)、土師器甕(8・9)、竪穴南部床面より5cm前後上位から土師器杯(4)、須恵器甕(7)が検出されている。

2 溝 跡

溝跡は、Ⅰ区では検出されておらず、Ⅱ区及びⅢ区Ⅱ集中して計11条が検出されている。

Ⅱ区では、調査区の東半部分に2条の溝跡（第7号・第8号）が検出されている。いずれも北東から南西行し、第8号溝跡は、覆土中に礫が充填されており、異彩を放っている。

Ⅲ区では、調査区の全域にわたって9条の溝跡が検出されている。Ⅱ区同様、北東から南西行する例（第1号・第9号）と、北西から南東行する例（第2号～第6号及び第10号・第11号）の2種類がみられる。しかし後者に含まれた第5号溝跡は、北西端で南西方向に直角に屈曲し、南東側が調査区外に及ぶため不明であるものの、全体で方形に圍繞する形態を有するものと思われる。

第1号溝跡（第16図）

Ⅲ区東南端のAW・AX-52・51グリッドに位置し、北東部及び南西部は調査区外に及んでいる。そのため全体規模は知れないが、現長10.8m、幅80～100cmで推移する。深さは70～80cm前後を測る。断面形はV字形を呈する。溝は曲折し、調査区内、北から1/3までがN-36°-E、南西部はN-29°-Eの方向を示す。第35号・48号・49号土坑を切断しているが、第50号土坑、第2号・5号溝跡には切断されている。覆土は、上位が暗黄褐色粘土粒・黒褐色粘土粒・炭化物粒・礫片を含む暗褐色粘土層（第6層）、下位が黒褐色粘土粒・暗橙褐色粘土粒・暗灰褐色粘土粒・焼土粒・土器片を含む暗褐色粘土層（第7層）である。

遺物（第19図・第11表）は、焙烙鍋（1～7）が集中している他、スラッグも出土している。

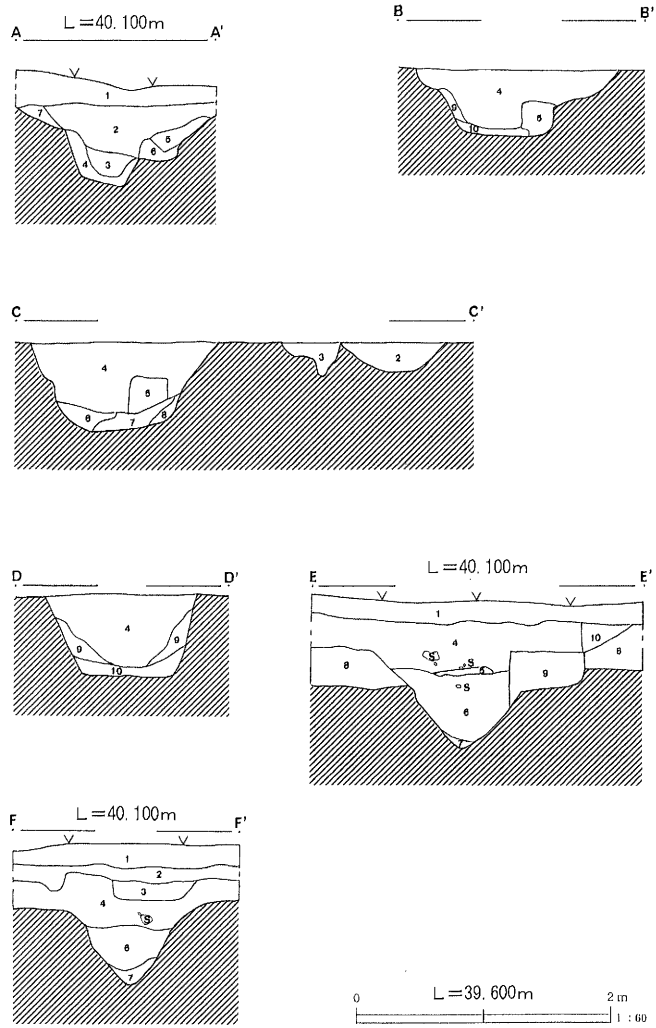
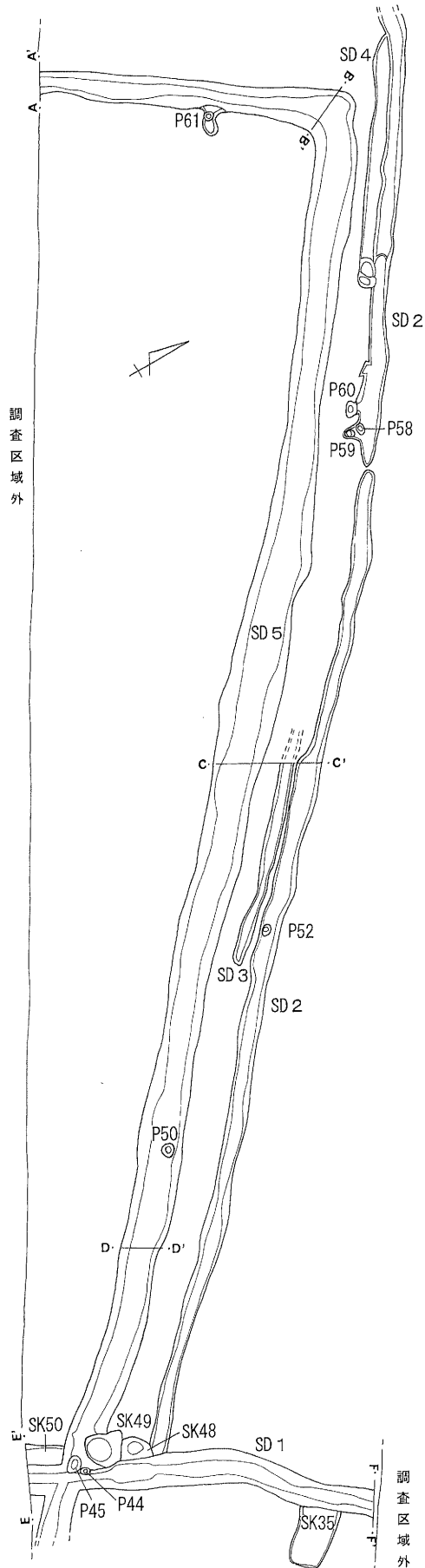
第2号溝跡（第16・17図）

Ⅲ区の北西側部分を除いて、中央から東南端まで及ぶ。グリッドは、AP-40～AX-51に当たる。AP-40グリッドからN-129°-Eの方向で南東行（長さ16.48m、幅100～130cm、深さ10～15cm）し、AR-43グリッドに至ってN-97°-Eの方向に屈曲（長さ5.50m、幅60～70cm、深さ25cm前後）する。そしてAR-44グリッド内でN-125°-Eの方向に転じ、AS-46グリッド内で一旦終結（長さ13.30m、幅、深さ同じ）する（北西溝）。しかし10cm程の間隔で、やや北東側に脹らみをもつもののN-132°-Eの方向で南東行し、AX-51グリッド内第1号溝跡と接する位置で終結している（南東溝・長さ30.80m、幅40～70cm、深さ25cm前後）。断面形は円弧を描く部分が多い。北西溝は、AR-43グリッド内の屈曲点で、幅・深さや等に差をみせている。また幅広の北西側の覆土は、暗黄褐色粘土粒・黒褐色粘土粒及び、少量の焼土粒・炭化物粒・火山灰を含む暗褐色粘土であるのに対し、幅の狭くなった南東側では、一部で暗茶（橙）褐色粘土粒・黒褐色粘土粒を含む暗褐色粘土を覆土とし、火山灰の含まれない部分もみられた。南東溝の覆土は、暗黄褐色粘土粒・黒褐色粘土粒・炭化物粒及び、少量の火山灰を含む暗褐色粘土である。

遺物（第19図・第11表）は、須恵器甕の同部（1）片以外大部分が小片であり図示できない。

第3号溝跡（第16図）

Ⅲ区東南部のAU-47～AV-48グリッドに位置している。北西側は終結点の確認されていない。第2号溝（南東溝）の中央北西寄り部分に南接しているため、同一方向のN-132°-Eの方向で南東行する。



第2号・第3号・第5号溝跡

土層説明 (A-A'、B-B'、C-C'、D-D')

- 1 暗灰褐色粘土。酸化鉄・火山灰を含む。(耕作土)
- 2 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・黒褐色粘土粒・炭化物及び、少量の火山灰を含む。(第2号溝跡覆土)
- 3 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒及び、少量の暗黄褐色粘土粒を含む。(第3号溝跡覆土)
- 4 暗褐色粘土。少量の暗黄褐色粘土粒・黒褐色粘土粒・焼土粒・火山灰を含む。(第5号溝跡覆土)
- 5 暗褐色粘土。暗灰褐色粘土粒・酸化鉄を含む。(第5号溝跡覆土)
- 6 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・ブロック・黒褐色粘土粒・ブロックを含む。(第5号溝跡覆土)
- 7 暗褐色粘土。多量の暗茶(橙)褐色粘土粒及び、黒褐色粘土粒を含む。(第5号溝跡覆土)
- 8 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・黒褐色粘土粒を含む。(第5号溝跡覆土)
- 9 暗褐色粘土。多量の暗黄褐色粘土粒・ブロック及び、暗灰褐色粘土粒・酸化鉄を含む。(第5号溝跡覆土)
- 10 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・黒褐色粘土粒・暗茶(橙)褐色粘土粒・焼土粒・火山灰を含む。(第5号溝跡覆土)

第1号溝跡・第50号土坑

土層説明 (E-E'、F-F')

- 1 暗灰褐色粘土。礫・焼土粒・火山灰を含む。(耕作土)
- 2 暗灰褐色粘土。火山灰を含む。(耕作土)
- 3 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・黒褐色粘土粒を含む。
- 4 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・炭化物粒・礫を含む。
- 5 暗褐色粘土。多量の暗灰褐色粘土粒・酸化鉄を含む。
- 6 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・黒褐色粘土粒・炭化物粒・礫を含む。
- 7 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗橙褐色粘土粒・暗灰褐色粘土粒・焼土粒・土器片を含む。
- 8 暗黄褐色粘土(シルト質)。
- 9 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・焼土粒を含む。(第50号土坑覆土)
- 10 暗褐色粘土。多量の暗黄褐色粘土粒を含む。

第16図 溝跡(1) 第1号~3号・5号溝跡

長さ現行で7.00m、幅40cm前後、深さ25～30cmを測る。断面形は、南西側に段をもつ部分もみられるが、略V字形を呈する。覆土は、黒褐色粘土粒及び、少量の暗黄褐色粘土粒を含む暗褐色粘土である。遺物は、検出されていない。

第4号溝跡（第17図）

Ⅲ区中央部のAR-44～AS-45グリッドに位置している。第2号溝（北西溝）の屈曲部から中央まで南接しているため、同一方向のN-125°-Eの方向で南東行する。長さ7.75m、幅40cm前後、深さ40cm前後を測る。断面形は、略U字形を呈する。覆土は、多量の黒褐色粘土粒・暗茶（橙）褐色粘土粒を含む暗褐色粘土層（第2層）及び、暗茶（橙）褐色粘土粒を含む暗褐色粘土層（第3層）である。遺物は、検出されていない。

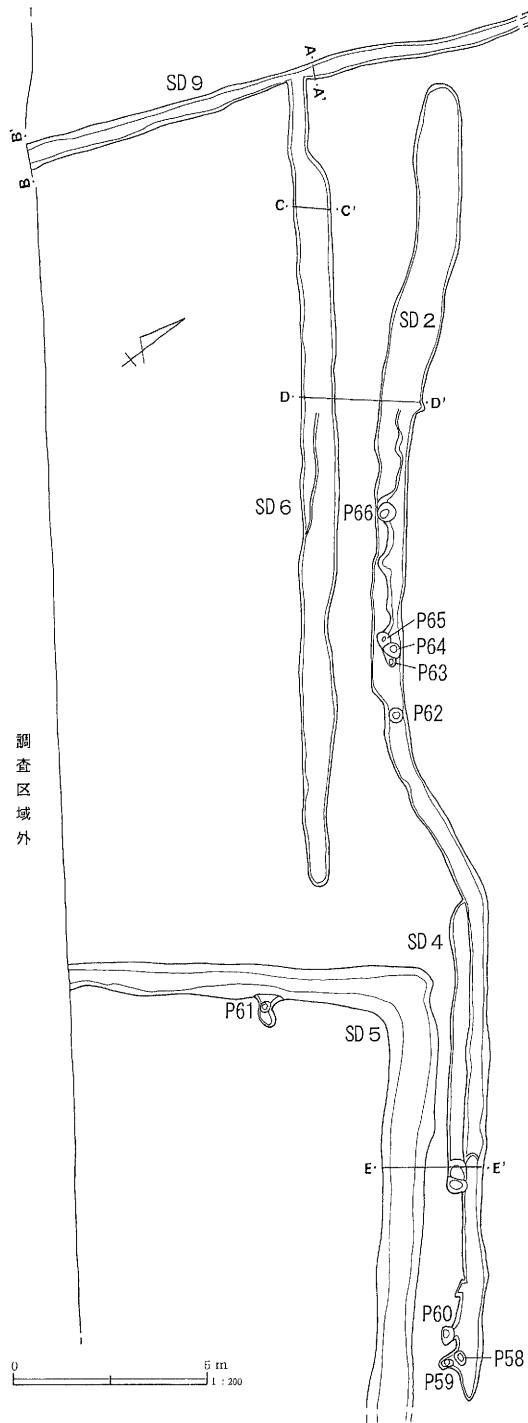
第5号溝跡（第16図）

Ⅲ区東南半部のAT-43～AR-44及びAR-44～AX-51グリッドに位置し、南東部及び南西部は調査区外に及んでいる。AT-43グリッドからN-61°-Eの方向で北東行する溝（長さ現行で9.58m）は、AR-44グリッドで曲折して、やや北東側に脹らみをもつものN-61°-Eの方向で南東行し、AX-51グリッドに及んで（長さ現行で45.00m）いる。上端幅は、1.60m、深さは西側で50cm前後、東側で70cm以上を測る。断面形は全体では、上位がV字形、下位が矩形を呈するといえる。しかし相違点もみられ、西側では、上位が曲線を成す場合が多く、下位の矩形部分が浅いものに対して東側では、上位が直線的であり、下位の矩形部分も深くなるのである。覆土は、少量の暗黄褐色粘土粒・黒褐色粘土粒・焼土粒・火山灰を含む暗褐色粘土層（第4層）を主体として、暗灰褐色粘土粒・酸化鉄を含む暗褐色粘土層（第5層）、暗黄褐色粘土粒・ブロック・黒褐色粘土粒・ブロックを含む暗褐色粘土層（第6層）、多量の暗茶（橙）褐色粘土粒・黒褐色粘土粒を含む暗褐色粘土層（第7層）、暗黄褐色粘土粒・黒褐色粘土粒を含む暗褐色粘土層（第8層）、多量の暗黄褐色粘土粒・ブロック及び、暗灰褐色粘土粒・酸化鉄を含む暗褐色粘土層（第9層）、暗黄褐色粘土粒・黒褐色粘土粒・暗茶（橙）褐色粘土粒・焼土粒・火山灰を含む暗褐色粘土層（第10層）が、部分的に組み合わさり、第4層下位に堆積している。溝の配され方等から、第2号溝跡との関連性がうかがわれる。

遺物（第19図・第11表）は、須恵器蓋（1）、須恵器坏（2）、須恵器高台椀（3）、轆轤土師器高台椀（4）、須恵器甕（5）の他、縄文時代中期深鉢（6・7）、打製石斧（8）が出土している

第6号溝跡（第17図）

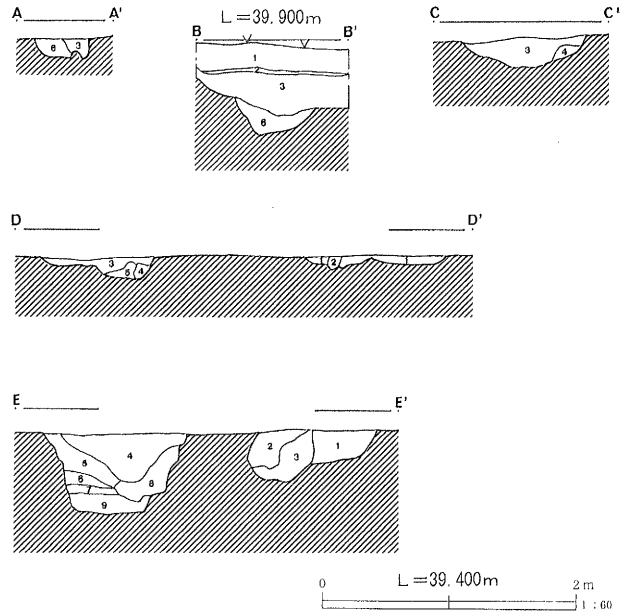
Ⅲ区中央から西部のAP-40～AR-43グリッドに位置している。N-122°-Eの方向で南東行し、北西端は、第9号溝跡と接する位置で終結している。長さ21.50mを測る。幅は両端が狭く、北西側が50cm前後、南東側が60cm前後、中央部は100cm前後を測る。深さ20～25cm前後を測る。断面形は、幅広部分で南西側に段を成す部分もあるが、略円弧を描く。覆土は、少量の暗黄褐色粘土粒・火山灰を含む暗褐色粘土層（第3層）及び、多量の暗灰褐色粘土粒・酸化鉄粒・暗黄褐色粘土粒・黒褐色粘土粒を含む暗褐色粘土層（第4層）を主体としている。遺物は、検出されていない。



第10号・第11号溝跡

土層説明 (A-A'、B-B'、C-C')

- 1 暗灰褐色粘土。酸化鉄・火山灰を含む。(耕作土)
- 2 酸化鉄。暗灰褐色粘土を含む。
- 3 暗褐色粘土。
- 4 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒を含む。(第10号溝跡覆土)
- 5 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒及び、少量の炭化物・火山灰を含む。(第11号溝跡覆土)



第2号・第4号・第5号溝跡

土層説明 (E-E')

- 1 暗褐色粘土。暗茶(橙)褐色粘土粒・黒褐色粘土粒を含む。(第2号溝跡覆土)
- 2 暗褐色粘土。多量の黒褐色粘土粒・暗茶(橙)褐色粘土粒を含む。(第4号溝跡覆土)
- 3 暗褐色粘土。暗茶(橙)褐色粘土粒を含む。(第4号溝跡覆土)
- 4 暗褐色粘土。少量の暗黄褐色粘土粒・黒褐色粘土粒・酸化鉄・焼土粒・火山灰を含む。(第5号溝跡覆土・前図第4層)
- 5 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・暗茶(橙)褐色粘土粒を含む。(第5号溝跡覆土)
- 6 暗褐色粘土。多量の暗黄褐色粘土粒・黒褐色粘土粒を含む。(第5号溝跡覆土)
- 7 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・暗茶(橙)褐色粘土粒・黒褐色粘土粒及び、土器片を含む。(第5号溝跡覆土)
- 8 暗褐色粘土。暗灰褐色粘土粒・酸化鉄を含む。(第5号溝跡覆土・前図第5層)
- 9 暗褐色粘土。暗灰褐色粘土粒・黒褐色粘土粒・暗茶(橙)褐色粘土粒・焼土粒・火山灰を含む。(第5号溝跡覆土・前図第10層)

第2号・第6号溝跡

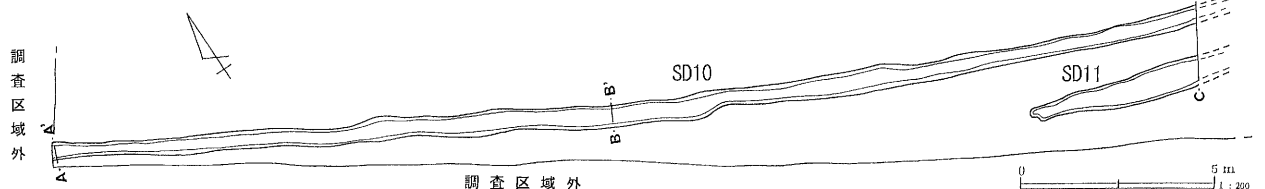
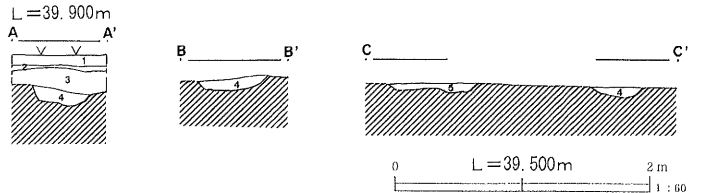
土層説明 (C-C'、D-D')

- 1 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・黒褐色粘土粒及び、少量の焼土粒・炭化物・火山灰を含む。(第2号溝跡覆土)
- 2 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・黒褐色粘土粒・焼土粒を含む。(第2号溝跡覆土)
- 3 暗褐色粘土。少量の暗黄褐色粘土粒・火山灰を含む。(第6号溝跡覆土)
- 4 暗褐色粘土。多量の暗灰褐色粘土・酸化鉄・黄褐色粘土粒・黒褐色粘土粒を含む。(第6号溝跡覆土)
- 5 暗褐色粘土。暗灰褐色粘土・酸化鉄・黄褐色粘土粒・黒褐色粘土粒・焼土粒を含む。(第6号溝跡覆土)

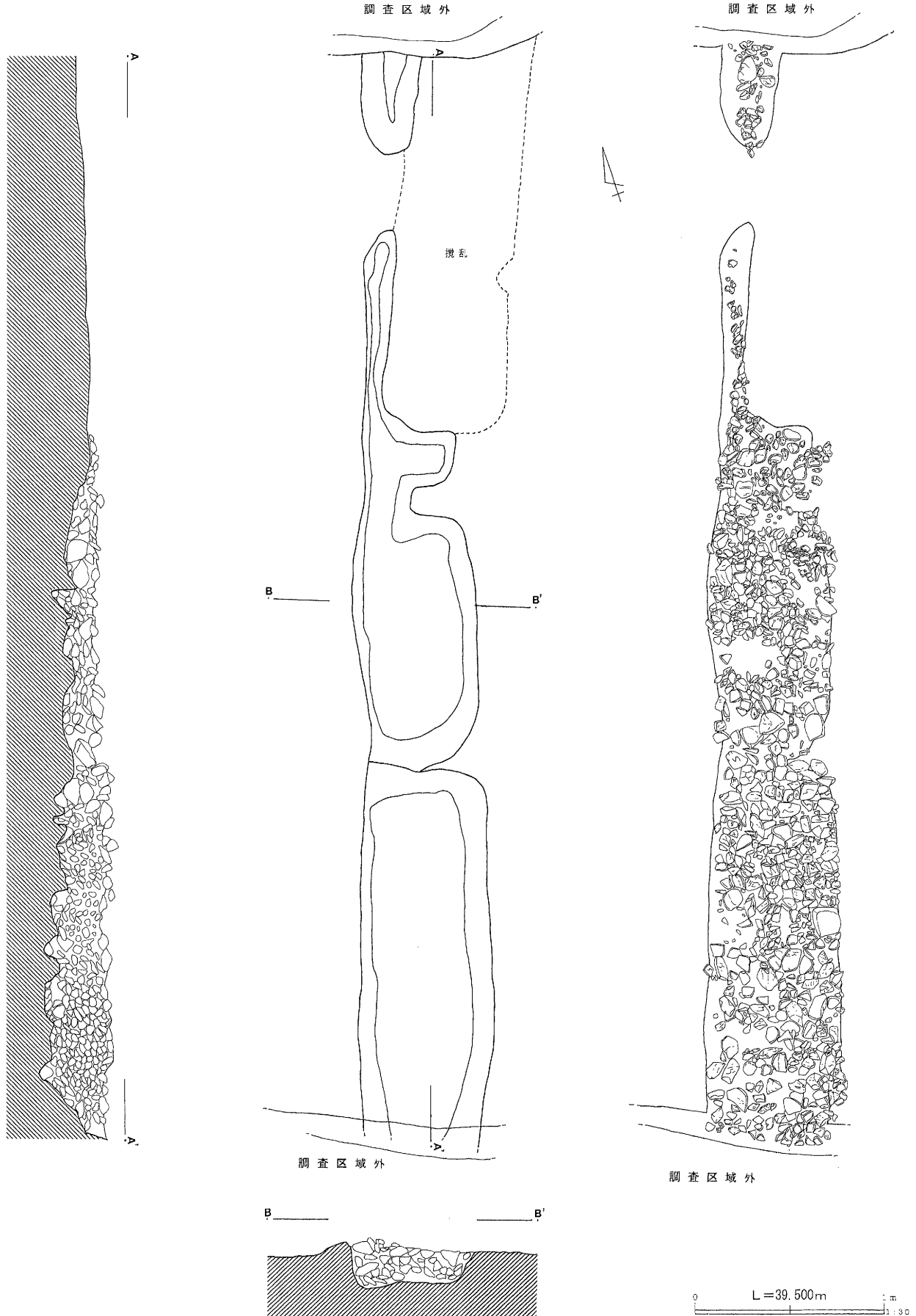
第9号溝跡

土層説明 (A-A'、B-B')

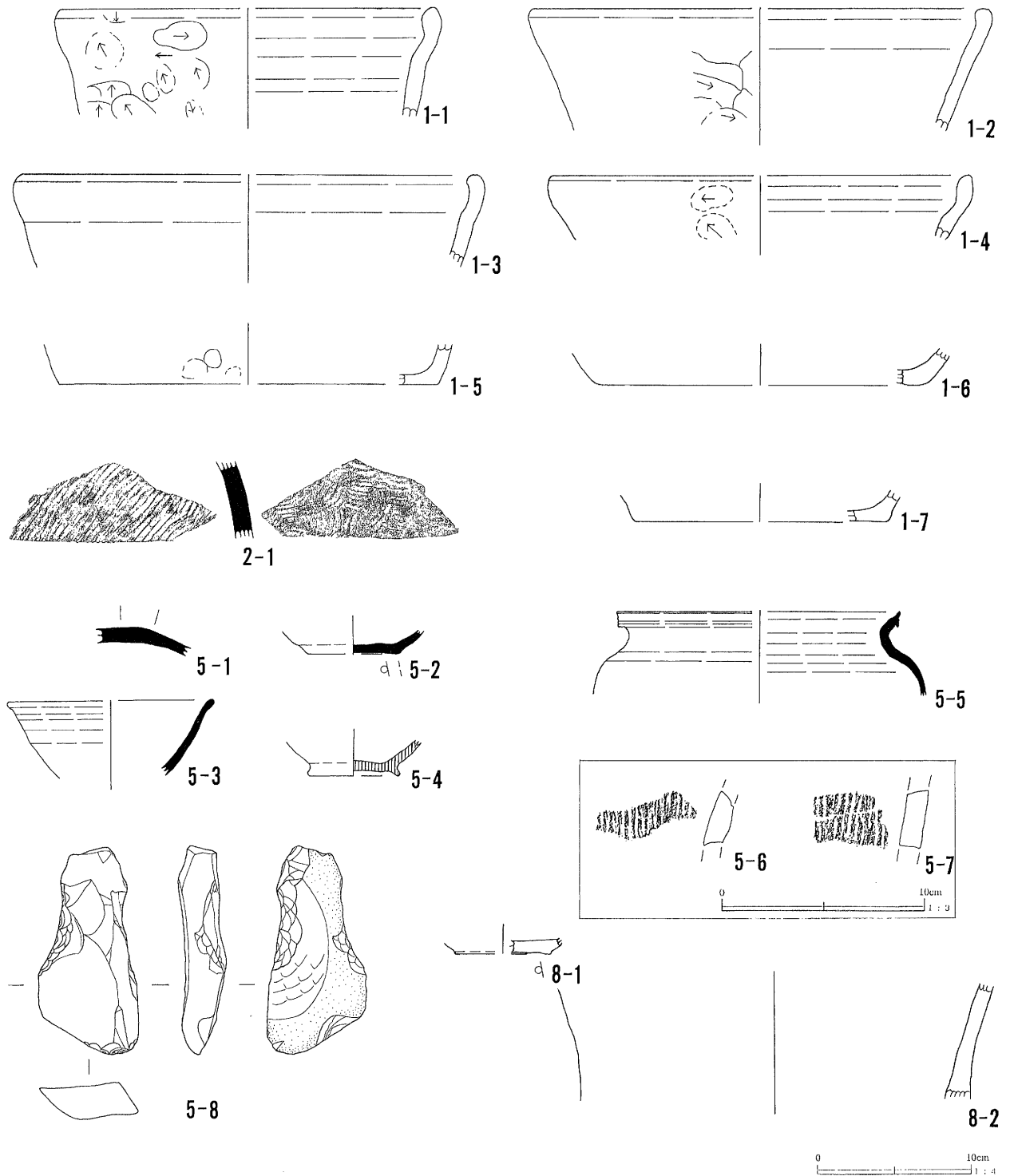
- 1 暗灰褐色粘土。酸化鉄・火山灰を含む。(耕作土)
- 2 酸化鉄。暗灰褐色粘土を含む。
- 3 暗褐色粘土。焼土粒・炭化物・火山灰・暗黄褐色粘土粒・小礫を含む。
- 4 暗褐色粘土。多量の暗黄褐色粘土粒及び、焼土粒・炭化物を含む。
- 5 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒を含む。
- 6 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒・焼土粒・炭化物及び、少量の火山灰を含む。



第17図 溝跡(2) 第2号・4号~6号・9号、第10号・11号溝跡



第18図 溝跡(3)第8号溝跡



第19図 溝跡出土遺物（第1号・2号・5号・8号）

第7号溝跡（第6図）

Ⅱ区東部のAJ-47・48グリッドに位置している。N-61°-Eの方向で北東行するが、北東部は第2号住居跡に切断され、南西端は、AJ-47グリッド内で不明瞭となり、終結点は両端共が確認されていない。長さ現行で1.66m、幅は35cm～45cm、深さは6cm前後を測る。断面形は、矩形を呈する。覆土は、暗黄褐色粘土ブロックを含む暗褐色粘土層（第13層）である。遺物は、検出されていない。

第11表 溝跡出土遺物観察表（第19図）

No.	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1-1	焙烙	(25.4)	—	—	N・A・I・J・E	B	鈍い橙	口縁一部	外面煤付着。
1-2	焙烙	(29.8)	—	—	A・B・M・N・J・D・K	C	褐灰	口縁一部	内外面吸炭。
1-3	焙烙	(30.0)	—	—	M・A・D・I・N	B	灰黄褐	1/16	外面煤付着。
1-4	焙烙	(27.5)	—	—	N・I・A・J	B	鈍い褐	口縁一部	
1-5	焙烙	—	—	(25.0)	A・K・N・J・B・E	C	鈍い赤褐	下位1/16	内外面吸炭。外面煤付着。
1-6	焙烙	—	—	(21.5)	M・N・A	B	鈍い橙	底部一部	内外面吸炭。外面煤付着。
1-7	焙烙	—	—	(17.0)	M・I・N・A	B	鈍い褐	底部一部	外面煤付着。
1-8	スラッグ	重さ 250g							
2-1	須恵器・甕	—	—	—	A・I	B	灰白	破片	
5-1	須恵器・蓋	—	—	—	A・L・B・D・I	B	緑灰	—	
5-2	須恵器・杯	—	—	(6.0)	A・K・N・J・B・E	B	褐灰	底部1/2	
5-3	須恵器・高台碗	(13.6)	—	—	A・L・M・B・J	B	灰	1/4	
5-4	轆轤土師器・高台碗	—	—	(6.2)	B・M・K・J・D・A	B	浅黄橙	底部1/3	表面磨滅。
5-5	須恵器・甕	(18.8)	—	—	A・M・N	A	灰	口縁部1/8	
5-6	縄文土器・深鉢	—	—	—	A・B・M・J・K・D・N	B	橙	胴部一部	縄文中期。No7と同一。
5-7	縄文土器・深鉢	—	—	—	A・B・M・J・K・D・N	B	橙	胴部一部	縄文中期。No6と同一。
5-8	打製石斧	最大長13.8、最大幅6.5、最大厚2.7、重さ270g						完形	
8-1	轆轤土師器・杯	—	—	(6.4)	E・A・B・N・I・H	B	橙	底部1/2	
8-2	常滑・甕	—	—	—	A・B・N	B	鈍い明褐	下位一部	内側に釉。

第8号溝跡（第18図）

Ⅱ区中央部のAG-44～AH-44グリッドに位置し、北東部及び南西部は調査区外に及んでいる。41cmの中断があるものの、全体でN-25°-Eの方向で北東行する。また、北東部の一部は、現代の攪乱を受けている。南東側に2箇所、溝の収束する部分が見られるが、全域に礫が充填されている。層間に堆積する覆土は、ややシルト質の暗褐色粘土である（第29図参照）。長さは現行で5.96m範囲、幅は68cm～76cmを測る。底面は凹凸が激しく、深さは12～40cm前後を測る。断面形も安定しないが、略矩形を呈する。

遺物（第19図・第11表）は、轆轤土師器坏底部（1）、常滑焼大甕口縁部（2）が出土している

第9号溝跡（第17図）

Ⅲ区西部のAO-40～AR-39グリッドに位置し、南西部は調査区外に及んでいる。N-19°-Eの方向で北東行し、北東端は、第7号中居跡と接する位置で不明瞭となり、終結点の確認されていない。長さ現行で13.40m、幅は安定せず、30cm～65cm前後を測る。深さは15～25cm前後を測る。断面形も安定せず、矩形・V字形・を成す部分や略円弧を描く部分もある。覆土は、黒褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒・焼土粒・炭化物粒及び、少量の火山灰を含む暗褐色粘土層（第6層）を主体とし、一部に焼土粒・炭化物粒・火山灰・暗黄褐色粘土粒・小礫を含む暗褐色粘土層（第3層）の堆積した部分も見られる。遺物は、検出されていない。

第10号溝跡（第17図）

Ⅲ区西端のAN-33～AP-38グリッドに位置し、北西部は調査区外に及んでいる。やや南西側に張りみをもつものの、N-115°-Eの方向で南東行し、南北東端は、AP-38グリッド内で不明瞭となり、終結点の確認されていない。長さ現行で31.20m、幅は32cm～60cm前後を測るが45～50cmでほぼ安定する。深さは10cm前後を測る。断面形は略円弧を描くが、矩形に近い部分もある。覆土は、暗黄褐色粘土

粒・焼土粒・炭化物粒及び、少量の火山灰を含む暗褐色粘土層（第4層）である。遺物は、検出されていない。

第11号溝跡（第17図）

Ⅲ区西部のAP-37～AQ-38グリッドに位置している。N-105°-Eの方向で南東行し、南北東端は、AP-38グリッド内で不明瞭となり、終結点が確認されていない。長さ現行で4.65m、幅は北西端部で40cm前後、南東部で80cm前後となる。深さは10cm前後を測る。断面形は略円弧を描く。覆土は、黒褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒・焼土粒・炭化物粒及び、少量の火山灰を含む暗褐色粘土層（第5層）である。遺物は、検出されていない。

3 集石土坑

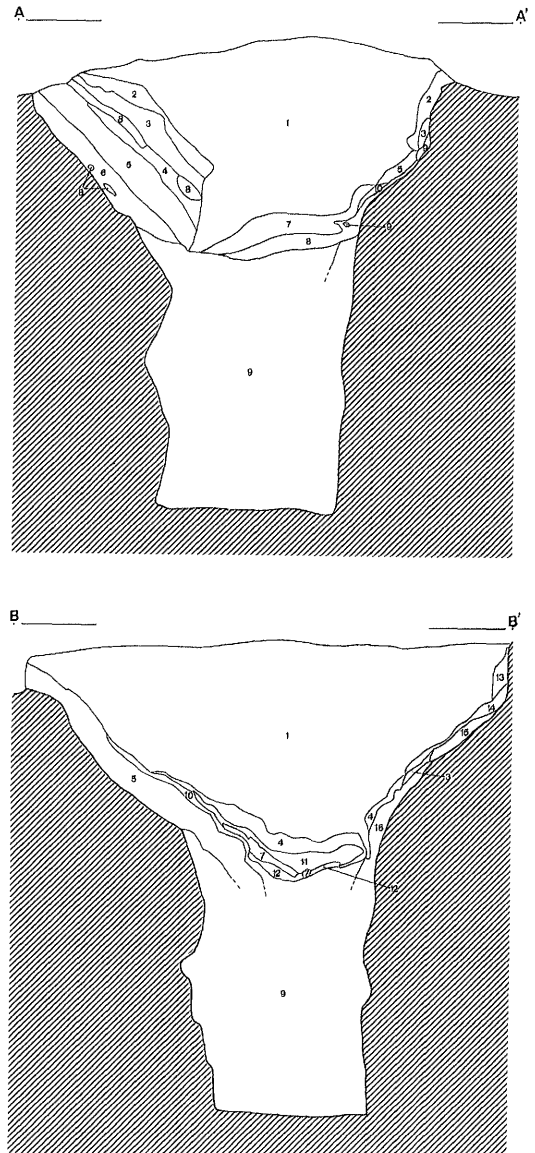
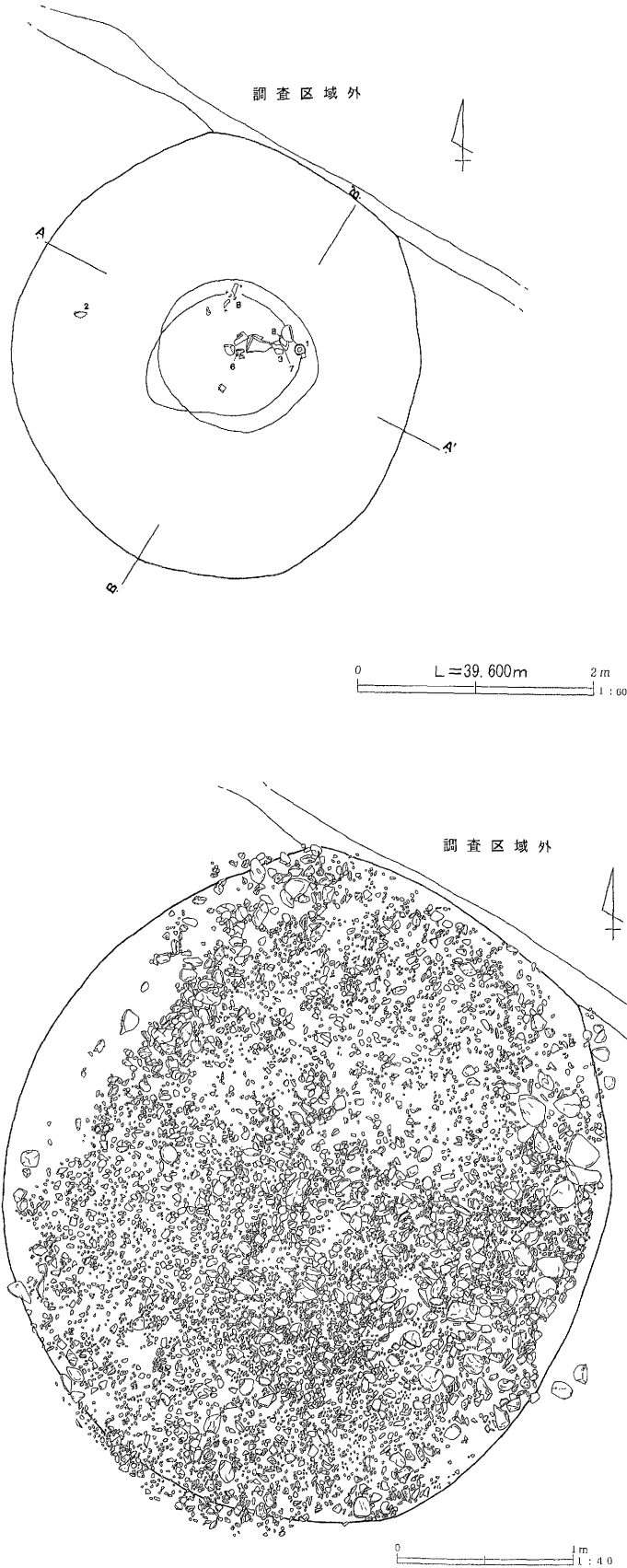
集石土坑は、断面漏斗形を呈する大型土坑の上位面に小礫を中心に充填させた土坑を、他の土坑と区別したもので、Ⅰ区西端に集中した状況で、計2基が検出されている。

第1号集石土坑（第20図）

Ⅰ区西端のAM・AN-54グリッドに位置している。土坑上端は、円形を呈し、径3.64×3.47mを測る。壁は、上端部から深さ50cm前後直立し、以下が斜面を成す。そして、全体の深さ130cm前後に及んだ地点（これより上位を上土坑、下位を下土坑とよぶ）から再び直立し、底面に向かう。下土坑は、全体の中央部にあり、円形を呈して径1.33×1.25mを測る。全体の深さは、3.70mまで検出できたものの、壁の崩落により、それ以下は確認できていない。下土坑は、暗褐色シルト層（第9層）の堆積により埋没し、上土坑のみ（下土坑の上端部を含む）になった時点から、集石土坑として利用されたものである。よって、集石土坑としての断面形は、上端が直立し一旦斜面となったものが、再び直立して底面に至るといふ、浅い漏斗形とでもいふべき形態である。深さは、1.80～1.90mを測る。

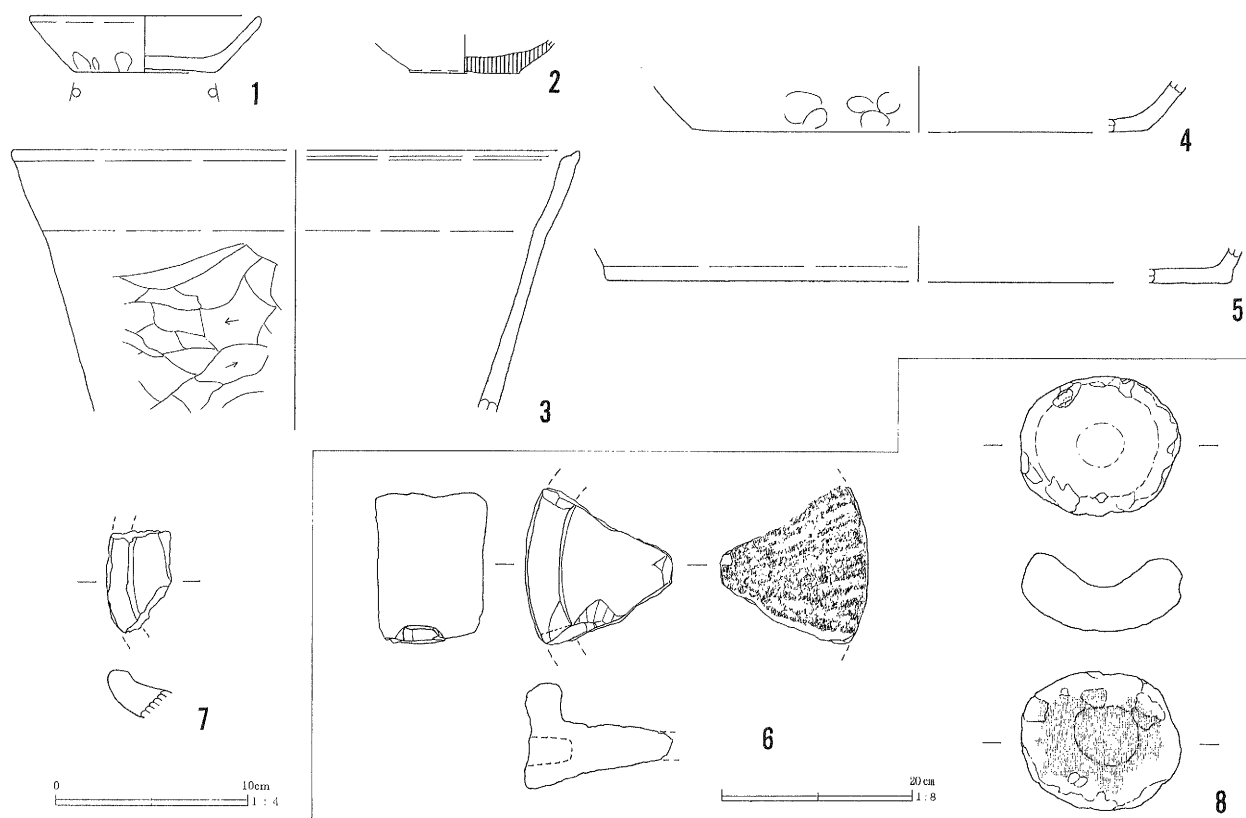
下土坑が、上端を残して第9層により埋没した後、黒褐色粘土粒を含む暗茶褐色粘土層（第4層）、暗茶褐色粘土層（第7層）、黒褐色粘土ブロックを含む暗茶褐色粘土層（第8層）、酸化鉄を含む暗灰褐色粘土層（第11層）、暗褐色粘土層（第12層）等の各土層で下土坑の上端部を埋めて、わずかに窪みをもつ底面を作り出し、暗褐色粘土粒・火山灰・礫を含む暗茶褐色粘土層（第2層）、火山灰・暗茶褐色粘土粒を含む暗褐色粘土層（第3層）、礫・焼土粒・土器片を含む暗褐色粘土層（第5層）、暗黄褐色粘土粒・黒褐色粘土粒を含む暗褐色粘土層（第6層）、暗灰褐色粘土粒・酸化鉄を含む暗褐色粘土層（第10層）、火山灰を含む暗褐色粘土層（第13層）、礫を含む暗褐色粘土層（第14層）、黒褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒を含む暗褐色粘土層（第15層）、多量の暗灰褐色粘土粒及び、黒褐色粘土粒・礫を含む暗褐色粘土層（第16層）等の各土層で斜面を作り出している。なお、西側部分は、第2・3・4・5・6層によって、斜面が厚く作り出されている。こうして作り出された浅い漏斗形の空間に、西側部分では当然薄いものの、暗褐色粘土粒を含む礫層（第1層）が充填されているのである。

本来、井戸として使用されたものが、下位の円筒部分の埋没（人為的に埋めた痕跡はみられない）後に形が整う中で、集石土坑としての機能をもたせたものである。このようなあり方こそが、集石土坑の本質を物語っているものと思われる。



- 第1号集石土坑
土層説明 (A-A'、B-B')
- 1 礫層。暗褐色粘土を含む。
 - 2 暗茶褐色粘土。暗褐色粘土粒・火山灰・礫を含む。
 - 3 暗褐色粘土。火山灰・暗茶褐色粘土粒を含む。
 - 4 暗茶褐色粘土。黒褐色粘土粒を含む。
 - 5 暗褐色粘土。礫・焼土粒・土器片を含む。
 - 6 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・黒褐色粘土粒を含む。
 - 7 暗茶褐色粘土。
 - 8 暗茶褐色粘土。黒褐色粘土ブロックを含む。
 - 9 暗褐色シルト。
 - 10 暗褐色粘土。砕灰褐色粘土粒・酸化鉄を含む。
 - 11 暗灰褐色粘土。酸化鉄を含む。
 - 12 暗褐色粘土。
 - 13 暗褐色粘土。火山灰を含む。
 - 14 暗褐色粘土。礫を含む。
 - 15 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒を含む。
 - 16 暗褐色粘土。多量の暗灰褐色粘土粒及び黒褐色粘土粒・礫を含む。

第20図 第1号集石土坑・遺物出土状況



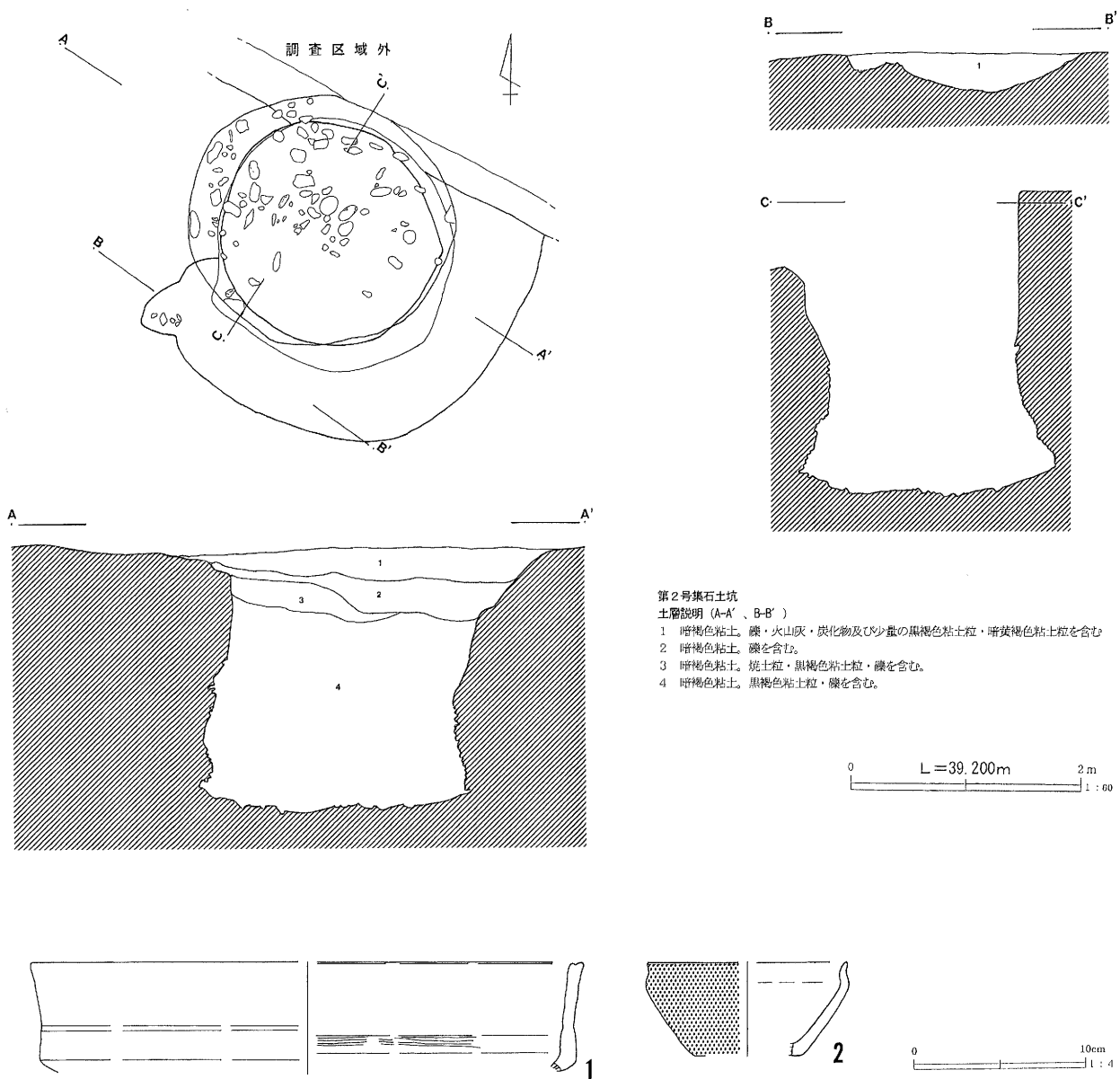
第21図 第1号集石土坑出土遺物

遺物（第21図・第13表）は、土坑内中の底面（礫の下面）に集中して検出されている。北端に骨片、その南側（中央から北東部にかけて、かわらけ坏（1）、焙烙（3～5）、石臼（6・上臼）、石皿（7）、不明石製品（8・半球状の角閃石安山岩製の礫である。平坦面の中央が窪められており、球面には煤が付着している。他の加工石と組み合わさって石造物を成すと思われる）の他、板状の青石（板石塔婆の厚さが維持されて板状となっているが、表面が剥離し、板石塔婆とは決し難い）が一塊となって検出されている。また斜面第5層中より轆轤土師器坏（2）も検出されている。

第2号集石土坑（第22図）

I区西端のAM-53グリッドに位置し、北東部は調査区外に及んでいる。第19号・20号・23号の各土坑のそれぞれ一部を切断している。

一部が調査区域外のため明確ではないが、土坑上端は、円形を呈し、径3.70mを測ると思われる。全体の断面形は、浅い播鉢状を呈する（深さ33～54cm）上端から、一部では斜面を成すものの、ほぼ直立して底面に向かう。また底面付近では、大部分が袋状を成している。下の円筒部は、全体の中央部にあり、円形を呈して径2.00×1.90mを測る。全体の深さは、2.70mまで検出できたものの、壁の崩落により、それ以下は確認できていない。下の円筒部は、黒褐色粘土粒・礫を含む暗褐色粘土層（第4層）の堆積により埋没し、上土坑のみ（下の円筒部の上端部を含む）になった時点から、集石土坑として利用されたものである。よって、集石土坑としての断面形は、上端が浅い播鉢状を呈し、下位が直立して底面に至るといふ、浅い漏斗形とでもいふべき形態である。深さは、最深部で85cmを測る。



第22図 第2号集石土坑・出土遺物

下の円筒部が上端を残して第4層により埋没した後、焼土粒・黒褐色粘土粒・礫を含む暗褐色粘土層（第3層）、礫を含む暗褐色粘土層（第2層）、礫・火山灰・炭化物粒及び、黒褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒を含む暗褐色粘土層（第1層）が充填され、集石土坑を作りだしている。なお、第1～第3層は、明らかに人為的な投入土の様相を呈しているが、下の円筒部に堆積している第4層も、含まれている礫のあり方等から人為的な投入土の可能性が高いといえる。

遺物（第22図・第13表）は、第1層中より、焙烙（1）、天目茶碗（2）が出土している。

本遺構については、礫の密集の仕方、土坑の形状、遺物の出土状況等、第1号集石土坑と異なるが、井戸状の旧遺構を利用している点、礫が上位土坑にある程度集中する点等から、集石土坑として取り扱うことにしたものである。

4 土 坑

土坑は、Ⅰ区26基（第1号～第26号土坑）、Ⅱ区6基（第27号～第32号土坑）、Ⅲ区86基（第33号～第118号土坑）、計118基が検出されている。Ⅰ区では、東西2箇所に分離して、それぞれ集中する様相を呈している。東側の集中地域（第1土坑・ピット群）では、15基（第1号～第15号土坑）が41基のピット群と共に集中をみせている。西側の集中地域（第2土坑群）では、11基（第16号～第26号土坑）が2基の集石土坑と共に集中をみせている。Ⅱ区では、東端に5基（第27号～第31号土坑）がやや疎らとなりながらも集中をみせ、Ⅰ区第2土坑群との関連性をうかがわせている。大型土坑である第32号土坑は、本調査区中央・本区内土坑の西端に位置し、単独である。Ⅲ区では、全域にみられるものの、北西側では疎らとなり、大部分は東半部で3群に分離して群在している。南東隅の群在地域（第3土坑群）では、18基（第33号～第50号土坑）が、西接する第4土坑群では、23基（第51号～第73号土坑）が、さらに第4土坑群に西接する第5土坑群では、土坑群の中でも最大の40基（第74号～第113号土坑）が所在し、各土坑群内で重複が激しい。第114号～第118号土坑は単独であるが、中でも1基のみ本調査区北端に位置する第118号土坑は、位置・出土遺物の量等、他の土坑と大きく異なり、特徴的である。

以下、土器類もしくは土器以外の特殊遺物が検出された土坑を中心に述べてみる。

第1土坑群内土坑（第23・第24図・第25図・第12表）

Ⅰ区南東端に第1号～第15号土坑の15基が集中するが疎らであり、第12号～第14号土坑が一部で重複する他は単独である。

第2号土坑（第24図・第12表）

大部分が調査区域外に位置し、一部分のみの調査であるが、円系の形態を示すと思われる。底面も凹凸が激しく、断面形も不定である。深さは0.44mの規模を有し、やや浅い土坑である。最下層に暗褐色シルト層（第3層）、中位に暗黄褐色粘土粒を含む暗褐色粘土層（第2層）が堆積し、上位には、焼土粒を含む暗褐色粘土層（第1層）が炭化物の付着した礫と共に堆積している。

遺物（第40図・第13表）は、礫の間から砥石（1）が検出されている。

第12号土坑（第24図・第12表）

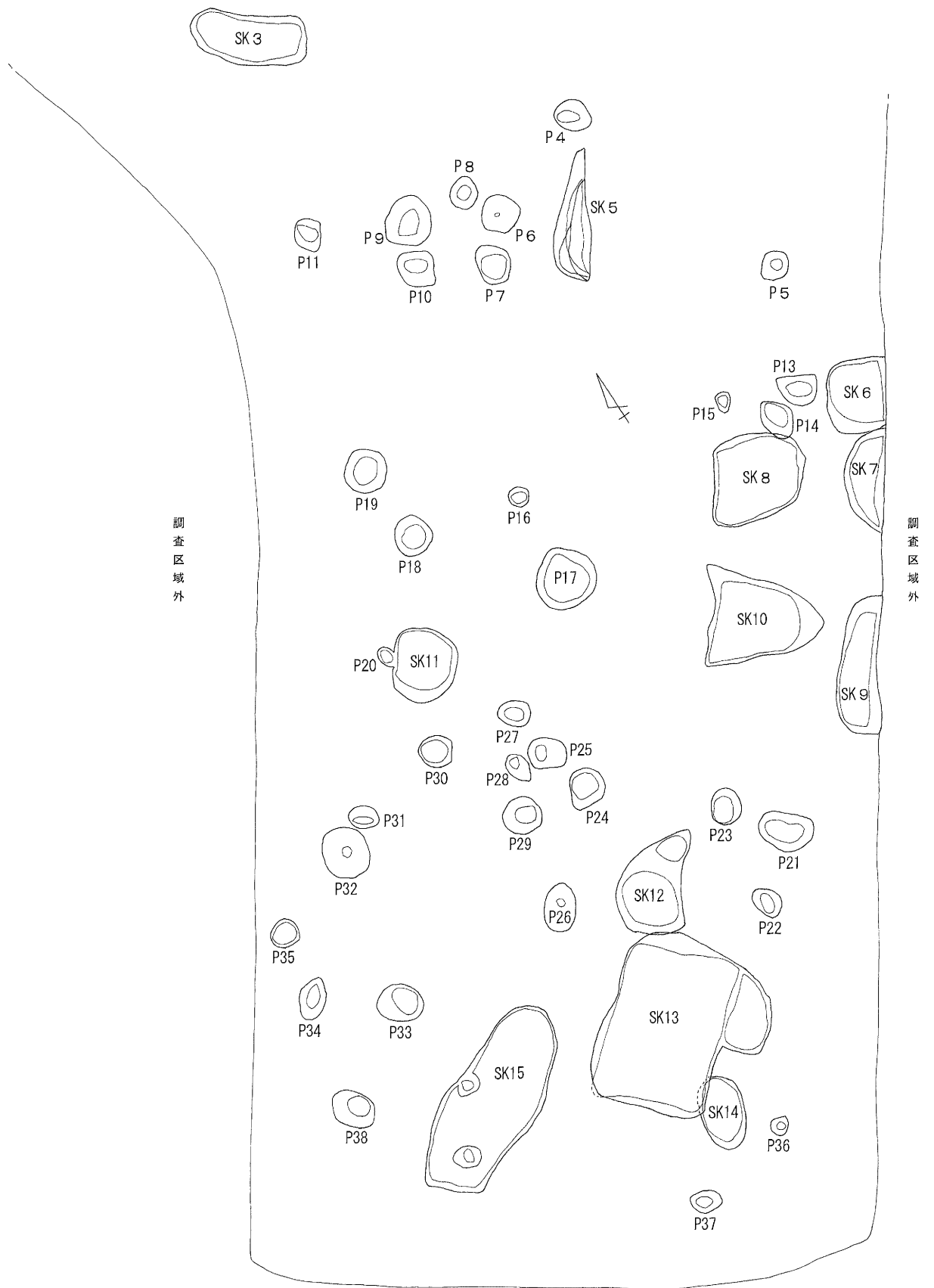
平面形・断面形共に、大小の円が一体化した形状を呈する。1.20×0.80×0.23mの規模を有する、やや大型であるものの浅い土坑である。大円の底面及び中位の土層に焼土粒が含まれ（第6・第4層）、上層には多量の炭化物が含まれる（第5層）。小円側の覆土にも炭化物が含まれる（第1～第3層）が、大円側に比して少量である。

遺物（第40図・第13表）は、大円側の第4層中から全面に吸炭した轆轤土師器高台椀（1）の他、骨片及び鉄片が検出されている。

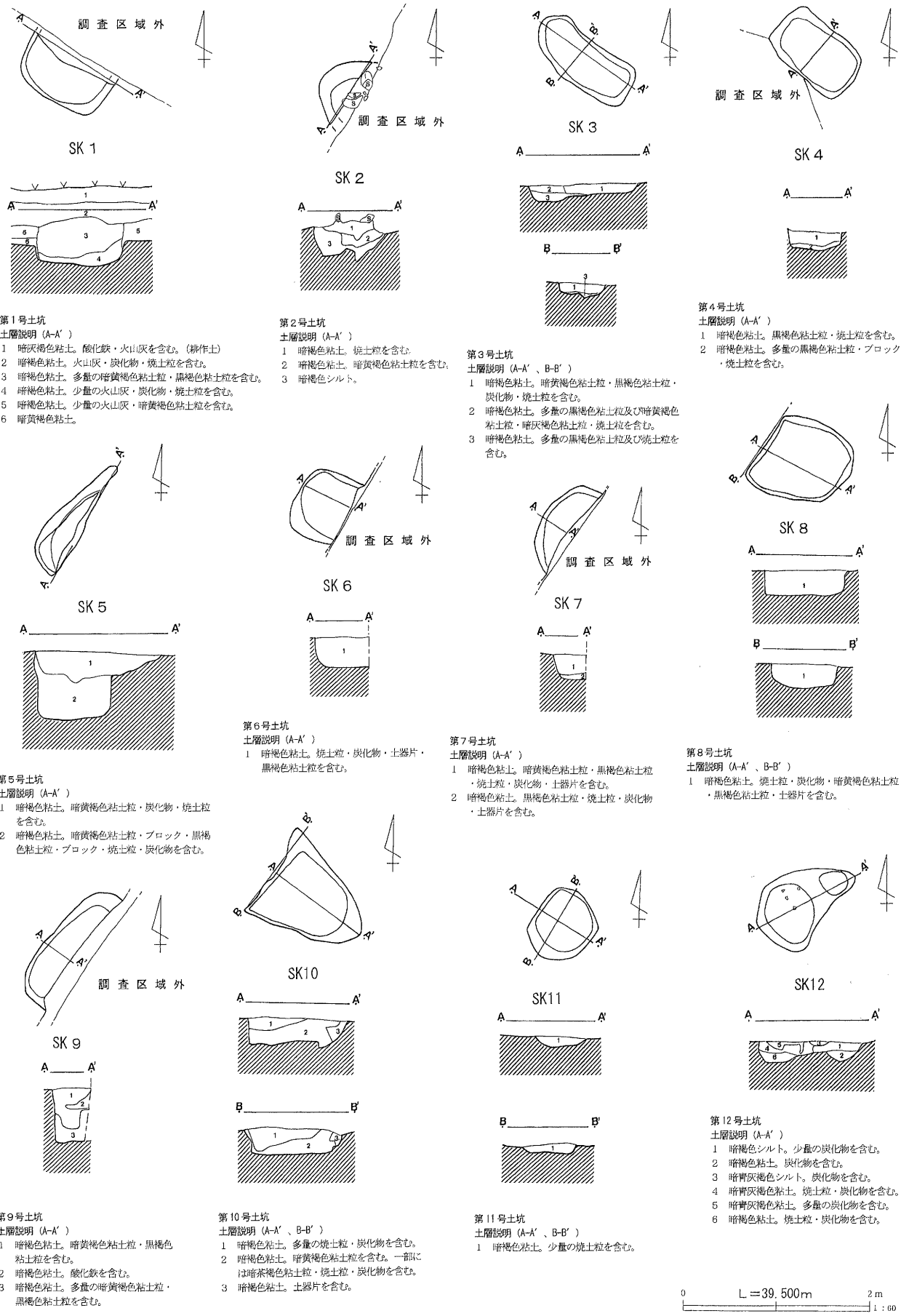
第13号土坑（第25図・第12表）

平面長方形、断面ほぼ矩形を呈する。1.80×1.66×0.61mの規模を有する、大型で深い土坑である。南部で第14号土坑の一部を切断している。覆土は、大部分に暗黄褐色粘土粒・黒褐色粘土粒・焼土粒・炭化物を含む暗褐色粘土層（第2～第4層）が堆積しているが、西・南側約半分の最上層には、礫・焼土粒・炭化物・骨片を含む暗褐色粘土層（第1層）がみられる。

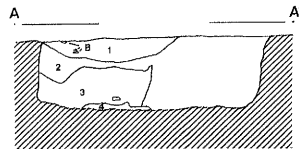
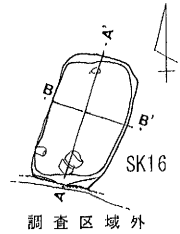
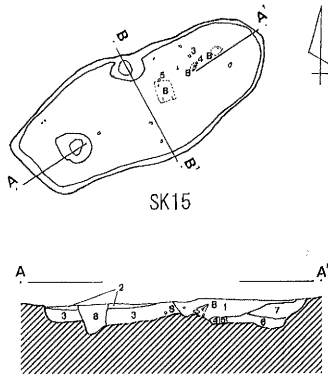
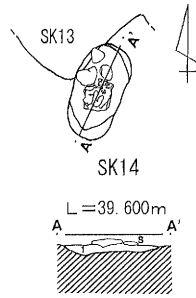
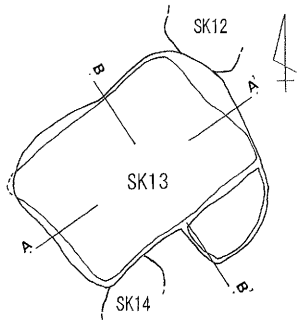
遺物（第40図・第13表）は、この第1層中から全面に吸炭し、内面に煤の付着した土師質環（1）、



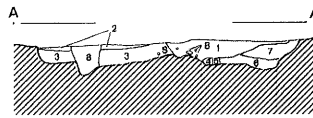
第23図 第1土坑・ピット群



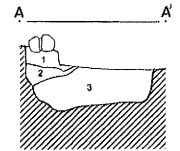
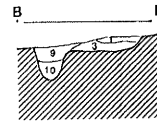
第24図 土坑(1) 第1号~12号土坑



第14号土坑
土層説明 (A-A')
1 暗褐色粘土。多量の焼土粒・炭化物及び暗黄褐色粘土粒を含む。

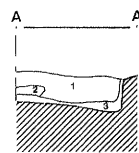
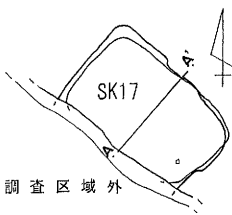


第15号土坑
土層説明 (A-A', B-B')
1 暗褐色粘土。淡黄褐色粘土粒・焼土粒・炭化物・骨片を含む。
2 暗褐色粘土。第1層と同様であるが、特に炭化物の含有が多い。
3 淡褐色粘土。暗褐色粘土粒・淡黄褐色粘土粒・焼土粒・炭化物を含む。
4 淡褐色粘土。多量の淡黄褐色粘土粒を含む。
5 暗褐色粘土。多量の暗褐色粘土粒を含む。
6 淡褐色粘土。暗褐色粘土粒を含む。
7 暗褐色粘土。淡黄褐色粘土粒・焼土粒を含む。
8 暗褐色粘土。焼土粒・炭化物を含む。
9 暗褐色粘土。少量の暗黄褐色粘土粒・黒褐色粘土粒・焼土粒・炭化物を含む。
10 暗褐色シルト。

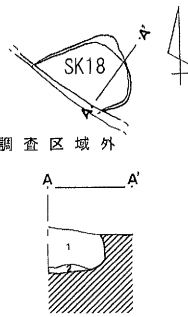


第16号土坑
土層説明 (A-A', B-B')
1 暗褐色粘土。火山灰・礫を含む。
2 暗褐色粘土。少量の暗黄褐色粘土粒・黒褐色粘土粒を含む。
3 暗褐色粘土。多量の黒褐色粘土粒及び暗黄褐色粘土粒を含む。

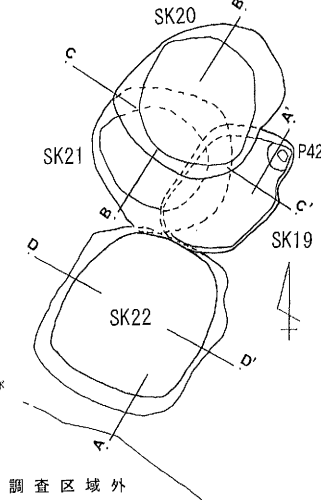
第13号土坑
土層説明 (A-A', B-B')
1 暗褐色粘土。礫・焼土粒・炭化物・骨片を含む。
2 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・黒褐色粘土粒・焼土粒・炭化物を含む。
3 暗褐色粘土。多量の暗黄褐色粘土粒・黒褐色粘土粒及び焼土粒・炭化物・土器片を含む。
4 暗褐色粘土。少量の暗黄褐色粘土粒・黒褐色粘土粒・焼土粒・炭化物を含む。
5 暗褐色粘土。
6 褐色粘土。



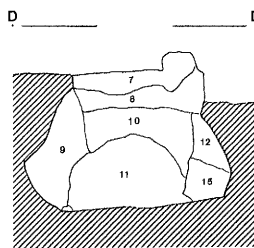
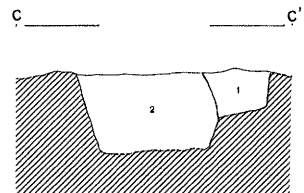
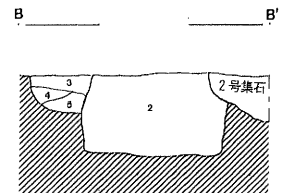
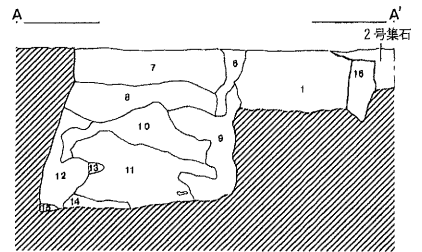
第17号土坑
土層説明 (A-A')
1 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・黒褐色粘土粒・焼土粒を含む。
2 淡褐色粘土。黒褐色粘土粒を含む。
3 淡灰褐色シルト。



第18号土坑
土層説明 (A-A')
1 暗褐色粘土。多量の暗黄褐色粘土粒及び黒褐色粘土粒・焼土粒・炭化物を含む。
2 淡褐色粘土。炭化物を含む。



調査区域外



第19号・20号・21号・22号土坑・42P
土層説明 (A-A', B-B', C-C', D-D')
1 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒・焼土粒・炭化物を含む。(19号土坑覆土)
2 暗褐色粘土。少量の黒褐色粘土粒及び暗黄褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒・焼土粒・炭化物を含む。(20号土坑覆土)
3 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒を含む。(3~6層、21号土坑覆土)
4 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・ブロック・黒褐色粘土粒を含む。
5 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒を含む。
6 暗褐色粘土。多量の暗黄褐色粘土粒及び黒褐色粘土粒を含む。(7~15層、22号土坑覆土)
7 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・ブロック・黒褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒・焼土粒・炭化物を含む。
8 暗褐色粘土。暗灰褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒・ブロック・焼土粒・炭化物・酸化鉄を含む。
9 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・黒褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒・焼土粒・炭化物を含む。
10 暗灰褐色粘土。酸化鉄・暗黄褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒・ブロック・黒褐色粘土粒・焼土粒・炭化物を含む。
11 暗灰褐色粘土。多量の酸化鉄・暗黄褐色粘土粒・ブロック・暗茶褐色粘土粒・焼土粒・炭化物・土器片を含む。
12 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒・黒褐色粘土粒・焼土粒・炭化物を含む。
13 暗褐色粘土。暗茶褐色粘土粒を含む。
14 暗褐色粘土。暗灰褐色粘土粒・酸化鉄・暗茶褐色粘土粒を含む。
15 黒褐色粘土。
16 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒・灰白色粘土粒・焼土粒・炭化物を含む。

第25図 土坑(2) 第13号~22号土坑

土錘（2）の他、骨片及びスラッグ・鉄片が検出されている。

第14号土坑（第25図・第12表）

平面長円形、断面は中央がやや盛り上がり、両脇に大小の円を配した形状を呈する。0.78×0.41×0.08mの規模を有する、中型であるものの浅い土坑である。覆土は、多量の焼土粒・炭化物及び、暗黄褐色粘土粒を含む暗褐色粘土層（第1層）が堆積している。

遺物（第40図・第13表）は、中央から北側に集中する上面の礫（扁平なものが主）の間に、中央に穿孔した土師質の器台（1）の他、骨片・板碑（土坑中央部に位置、平坦面がみられるが、文字等無）が検出されている。

第15号土坑（第25図・第12表）

平面長円形、断面は中央がやや盛り上がり、両脇にそれぞれ大円を配した形状を呈する。2.12×0.92×0.24mの規模を有する、大型であるものの浅い土坑である。覆土は、全体に焼土粒・炭化物が含まれるが、南西半部に堆積する第2層に特に炭化物が多く、北東半部に堆積する第1層に特に骨片・歯が集中して検出されている。

遺物（第40図・第44図・第13表）は、第3層中から轆轤土師器環（1）、土師器甕（2）、第1層中の骨片・歯（列を成し、土坑北端部に位置）の周囲から、2枚ずつ付着した状況の古銭3ブロック（3～5・計6枚）が検出されている。

第2土坑群内土坑（第26図・第25図・第27図・第12表）

I区北西端にやや密に集中する第16号～第26号土坑の11基から、II区東端の第27号～第31号土坑の5基がやや疎らとなりながらも集中をみせる区域までを、一連の第2土坑群として扱う。

第16号土坑（第25図・第12表）

平面隅円長方形、断面は南がやや深いものの、全体ではやや丸味を帯びた矩形を呈するといえる。1.12×0.63×0.48mの規模を有する、中型であるもののやや深い土坑である。覆土は、暗黄褐色粘土粒・黒褐色粘土粒を含む暗褐色粘土層（第2・第3層）が堆積しているが、上面には火山灰・礫を含む暗褐色粘土層（第1層）がみられる。

遺物（第40図・第13表）は、南端中央の第1層中から五輪塔（1・空風輪一石作り）が検出されている。

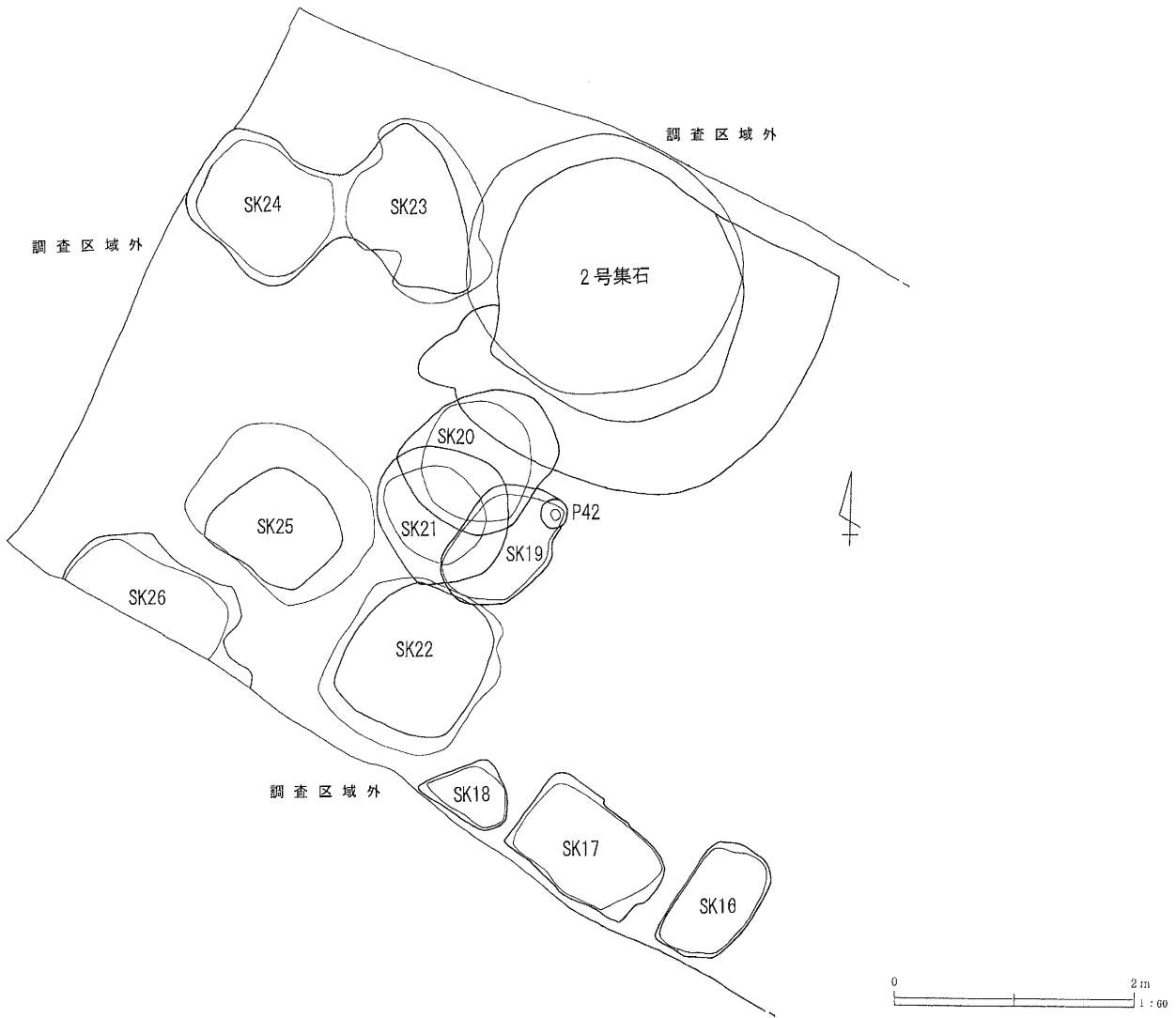
第22号土坑（第25図・第12表）

平面方形、断面は袋状を呈する。1.26×1.14×1.28mの規模を有する、やや大型であり深い土坑である。覆土は、多種類の粘土粒・ブロック・焼土粒・炭化物を含む暗褐色粘土層（第7～第9・第12層）もしくは、暗灰褐色粘土層（第10・第11層）が堆積している。いずれも、人為的な投入土の様相を呈している。

遺物（第40図・第44図・第13表）は、第11層中から焙烙（1・内耳、2）、古銭（3）が検出されている。

第25号土坑（第27図・第12表）

平面方形、断面は袋状を呈する。1.00×0.88×0.88mの規模を有する、やや大型であり深い土坑である。覆土は、底面に炭化物・土器片・暗黄褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒・黒褐色粘土粒・焼土粒を含む暗褐色粘土層（第3層）、その上面に暗茶褐色粘土粒・黒褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒・炭化物・礫



第26図 第2土坑群

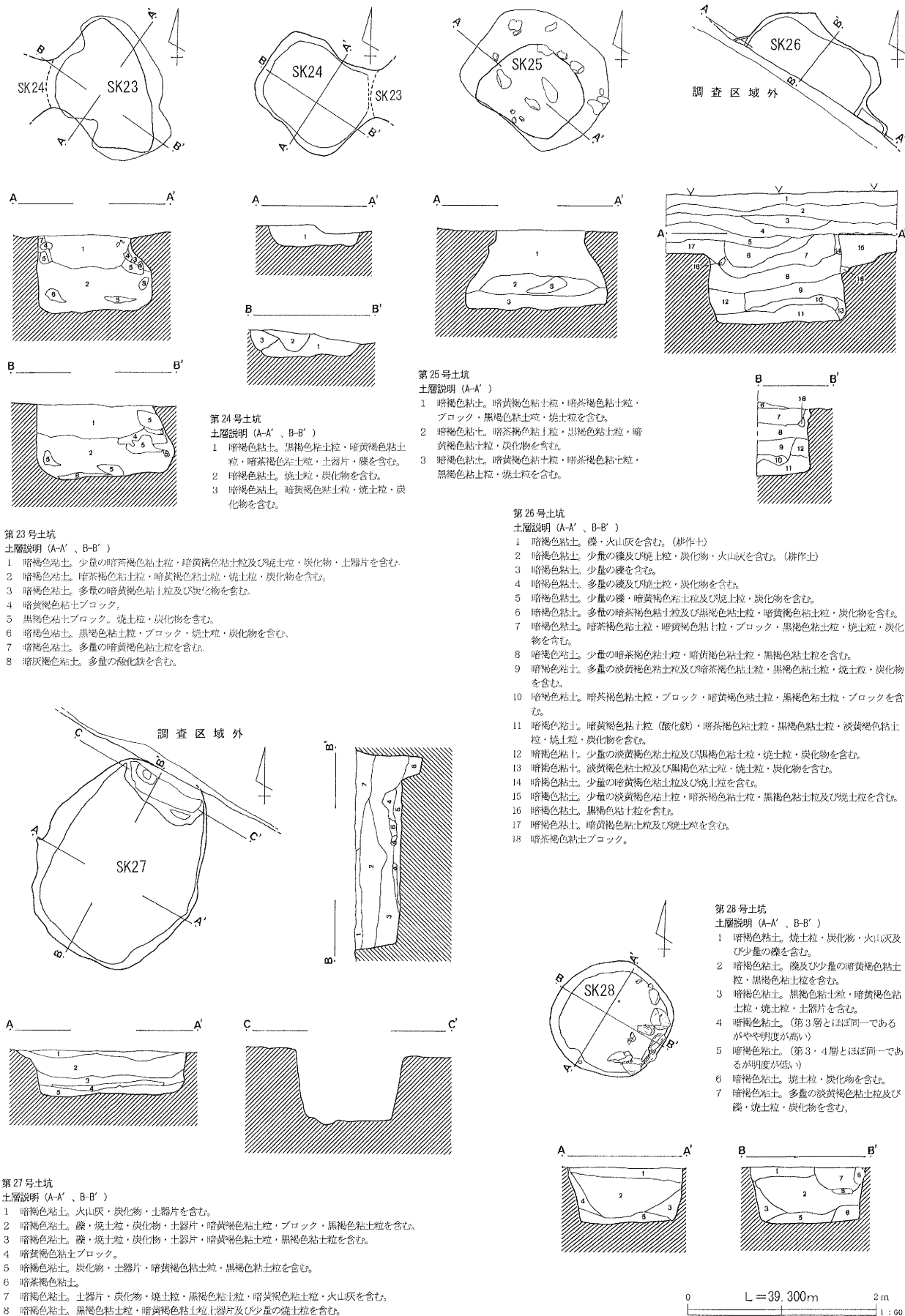
を含む暗褐色粘土層（第2層）が堆積している。さらにその上面には、人為的な投入土の様相を呈している暗黄褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒・ブロック・黒褐色粘土粒・焼土粒を含む暗褐色粘土層（第1層）がみられる。

遺物（第40図・第13表）は、礫の広がる第2層中から、土師器坏（1）、焙烙（2・3）、砥石（4）等、1以外煤の付着した状況で検出されている。

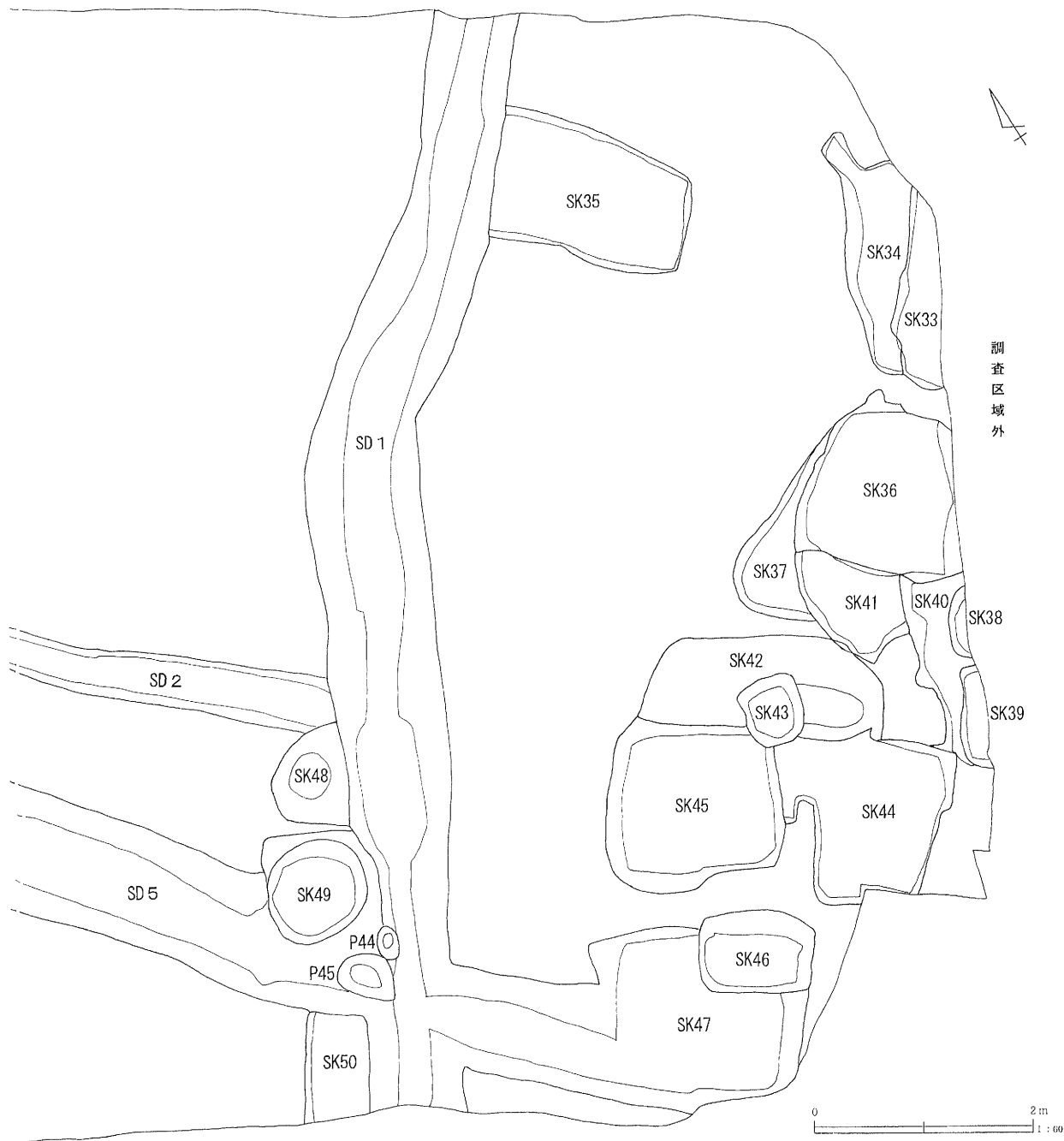
第27号土坑（第27図・第12表）

平面長円形、断面は矩形を呈する。2.20×1.76×0.72mの規模を有する、大型であり深い土坑である。覆土は、底面に炭化物・土器片・暗黄褐色粘土粒・黒褐色粘土粒を含む暗褐色粘土層（第5層）、その上面に暗黄褐色粘土ブロック層（第4層）、礫・焼土粒・炭化物・土器片・暗黄褐色粘土粒・黒褐色粘土粒を含む暗褐色粘土層（第3層）、礫・焼土粒・炭化物・土器片・暗黄褐色粘土粒・ブロック・黒褐色粘土粒を含む暗褐色粘土層（第2層）、最上層には火山灰・炭化物・土器片を含む暗褐色粘土層（第1層）の堆積を基本にしている。土層は、人為的な投入土の様相を呈している。

遺物（第40図・第44図・第13表）は、最下層の第5層中から、焙烙（3）、古銭は、2枚ずつ付着し



第27図 土坑 (3) 第23号~28号土坑

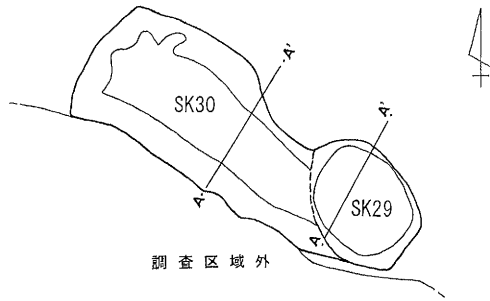


第28図 第3土坑群

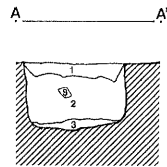
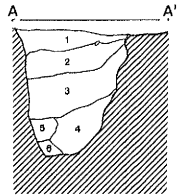
た状況の古銭2ブロック（5・8・計4枚）単独のもの4枚（4・6・7・9）の他、礫・焼土塊・炭化物が拡散状況で検出されている。また、須恵器高台椀（1）、土師器坏（2）の他、板石等が、最上層・第1層中から出土している。

第28号土坑（第27図・第12表）

平面円形、断面は矩形を呈する。1.28×1.26×0.62mの規模を有する、やや大型であり深い土坑である。覆土は、礫及び、少量の暗黄褐色粘土粒・黒褐色粘土粒を含む暗褐色粘土層（第2層）を中心に、その下面に黒褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒・焼土粒・炭化物・土器片を含む暗褐色粘土層（第3～5層）、



調査区域外



第30号土坑

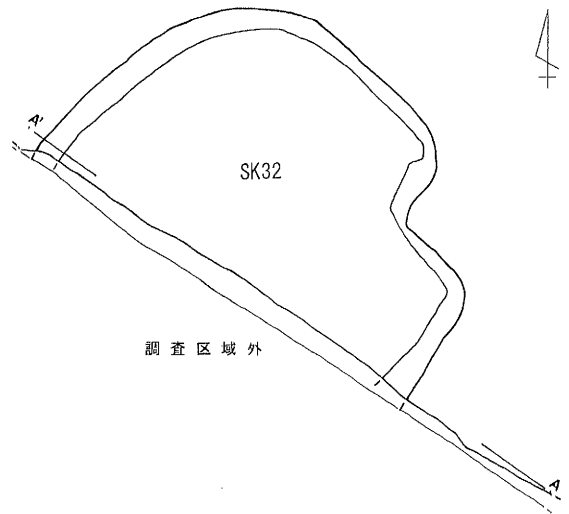
土層説明 (B-B')

- 1 暗褐色粘土。火山灰・礫・炭化物・土器片を含む。
- 2 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・焼土粒・炭化物を含む。
- 3 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・焼土粒・炭化物・礫を含む。
- 4 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・黒褐色粘土粒・焼土粒を含む。
- 5 暗褐色粘土。暗灰褐色粘土粒 (酸化鉄)・ブロック・礫を含む。
- 6 暗灰褐色粘土。酸化鉄を含む。

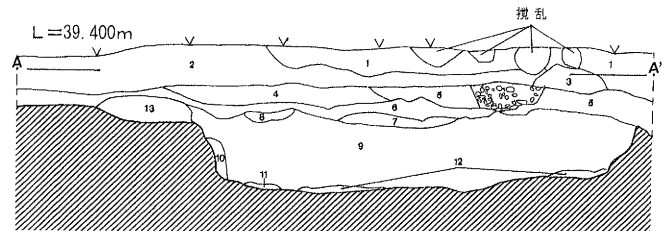
第29号土坑

土層説明 (A-A')

- 1 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・焼土粒・炭化物を含む。
- 2 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒・黒褐色粘土粒・焼土粒・炭化物を含む。
- 3 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒・焼土粒・炭化物及び少量の黒褐色粘土粒を含む。



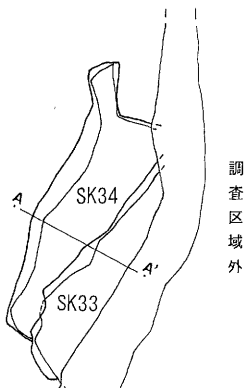
調査区域外



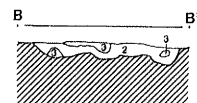
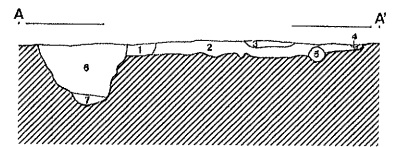
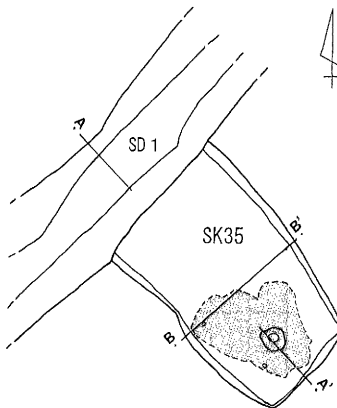
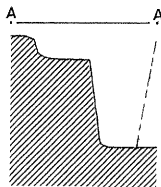
第32号土坑

土層説明 (A-A')

- 1 暗灰褐色粘土。多量の火山灰を含む。(耕作土)
- 2 暗褐色粘土。多量の火山灰を含む。(耕作土)
- 3 暗褐色粘土。焼土粒を含む。
- 4 暗黄褐色粘土。暗褐色粘土粒・ブロック及び焼土粒・炭化物を含む。
- 5 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・焼土粒・炭化物を含む。
- 6 暗黄褐色粘土。暗褐色粘土粒・焼土粒・炭化物・黒褐色粘土ブロックを含む。
- 7 暗褐色粘土。多量の焼土粒・炭化物及び骨片・小礫・暗黄褐色粘土粒を含む。
- 8 暗褐色粘土。暗灰褐色粘土粒・焼土粒・炭化物・小礫を含む。
- 9 黒褐色粘土。多量の焼土粒・炭化物及び暗黄褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒・黒褐色粘土粒・土器片・小礫を含む。
- 10 黒褐色粘土。暗茶褐色粘土粒・焼土粒・炭化物を含む。
- 11 暗茶褐色粘土。
- 12 黒褐色粘土。暗茶褐色粘土粒・焼土粒を含む。
- 13 黒褐色粘土。多量の焼土粒・炭化物を含む。



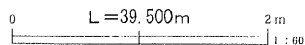
調査区域外



第35号土坑

土層説明 (A-A'、B-B')

- 1 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・黒褐色粘土粒・炭化物を含む。
- 2 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒・暗灰褐色粘土粒 (酸化鉄)・焼土粒・炭化物・土器片を含む。
- 3 暗褐色粘土。多量の焼土粒・炭化物を含む。
- 4 暗褐色粘土。多量の炭化物を含む。
- 5 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・暗灰褐色粘土粒を含む。
- 6 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒・焼土粒を含む。
- 7 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒・暗灰褐色粘土粒を含む。



第29図 土坑(4) 第29号~30号・32号~35号土坑

最上層には焼土粒・炭化物・火山灰及び、少量の礫を含む暗褐色粘土層（第1層）もしくは、多量の淡黄褐色粘土粒及び、礫・焼土粒・炭化物を含む暗褐色粘土層（第7層）が堆積している。この第7層の下位に、土坑の東壁に沿うように礫が配されている。

遺物（第40図・第13表）は、第7層中中央寄りから、坏形のかわらけ（1）が出土している。

第32号土坑（第29図・第12表）

全土坑の北西端に、単独で所在している。南西部が調査区域外に位置するため、全体の規模形状は不明であるが、軸長3.06m、深さ60cmを測る部分もあり、大型で深い土坑であるといえる。第3号住居跡の一部を切断されている。壁は崩落した部分が多く曲線斜面である。底面は、凹凸がみられるが、やや固く、安定している。覆土は、大半が多量の焼土粒・炭化物及び、暗黄褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒・黒褐色粘土粒・土器片・小礫を含む黒褐色粘土層（第9層）である。

遺物（第40図・第13表）は、全て第7層中からであり、須恵器坏（1・2）、須恵器甕（3）、須恵器甑（4）、轆轤土師器皿（5）、轆轤土師器高台碗（6）、土師器甕（7）、土師器台付甕（8）が検出されている。

第3土坑群内土坑（第28図・第29図・第30図・第32図・第12表）

Ⅲ区南東端にやや密に集中する第33号～第50号土坑の18基が集中している。

第35号土坑（第29図・第12表）

北西部を第1号溝跡に切断されている。平面長方形、断面は凹凸の激しい円弧を描く。長編は現況で1.86×1.08×0.16mの規模を有する、やや大型であり浅い土坑である。南東半部の底面に焼土面をもつ。覆土は、黒褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒・暗灰褐色粘土粒（酸化鉄）・焼土粒・炭化物・土器片を含む暗褐色粘土層（第2層）が堆積している。

遺物（第41図・第13表）は、焼土面の上位に集中し、土師器高台碗（1）、焙烙（2）、石臼（3・上臼）の他、鉄片が出土している。

第4土坑群内土坑（第31図・第32図・第33図・第35図・第12表）

Ⅲ区第3土坑群に西接して第51号～第73号土坑の23基が集中している。

第52号土坑（第32図・第12表）

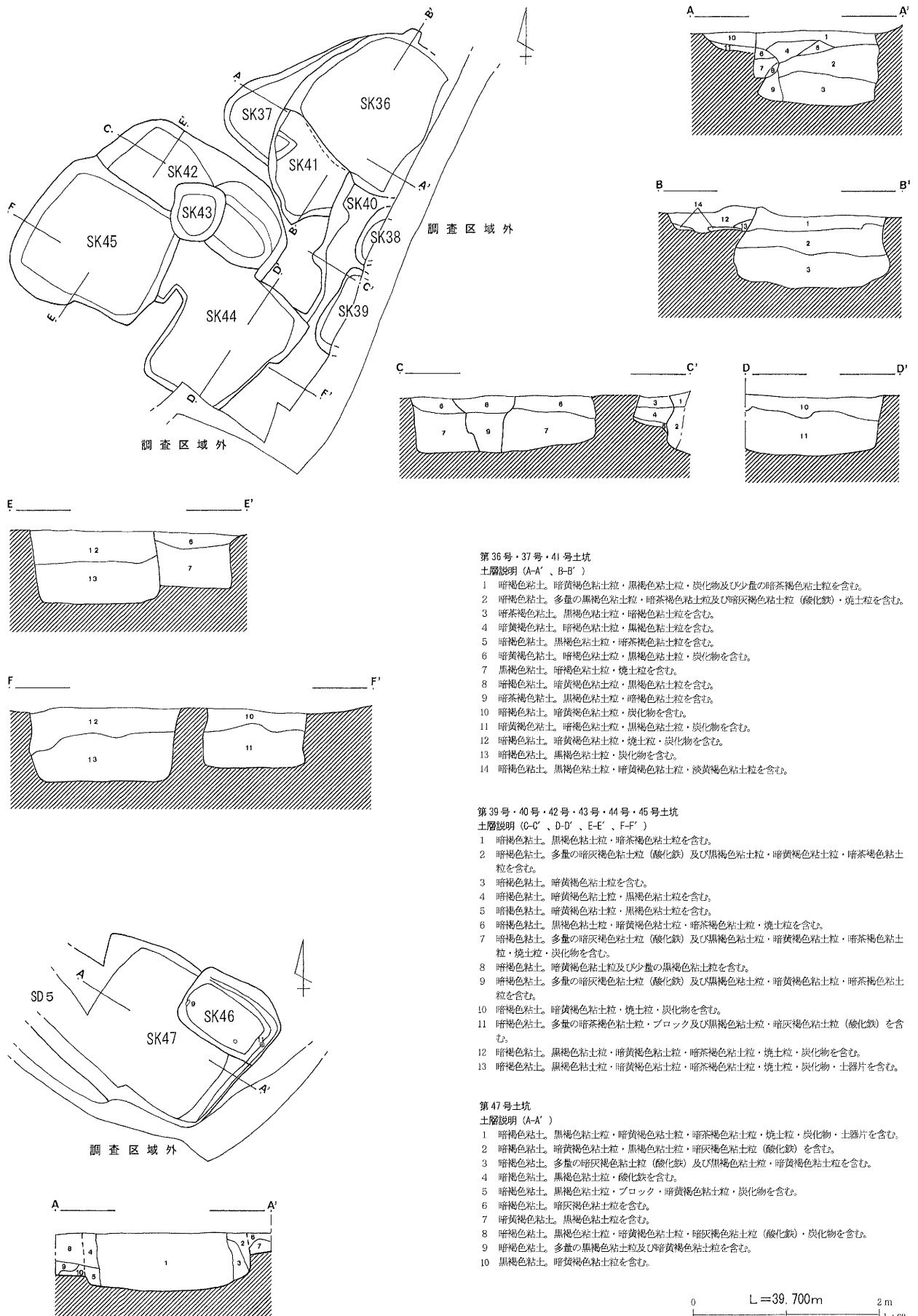
平面方円形、断面は矩形を呈する。1.53×1.52×0.50mの規模を有する、大型であり深い土坑である。底面中央付近に、深さ30cm前後の2ピットをもつ。覆土は、底面に少量の暗黄褐色粘土粒を含む暗褐色粘土層（第5層）、その上面に黒褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒（第2層）、黒褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒（第3層）、黒褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒及び、少量の暗灰褐色粘土粒・焼土粒を含む暗褐色粘土層（第4層）が並立して堆積している。いずれも、人為的な投入土の様相を呈している。

遺物（第41図・第13表）は、轆轤土師器坏（1・2・3）、焙烙（4・煤が付着）が出土している。

第63号土坑（第33図・第12表）

平面長円形、断面はやや丸味をもった矩形を呈する。1.70×1.15×0.42mの規模を有する、大型でありやや深い土坑である。覆土は、黒褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒・焼土粒・炭化物を含む暗褐色粘土層（第3層）が堆積している。

遺物（第41図・第13表）は、須恵器蓋（1）、土師器坏（2・3）、坏形のかわらけ（4）等が、礫と



第36号・37号・41号土坑

土層説明 (A-A'、B-B')

- 1 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・黒褐色粘土粒・炭化物及び少量の暗茶褐色粘土粒を含む。
- 2 暗褐色粘土。多量の黒褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒及び暗灰褐色粘土粒（酸化鉄）・焼土粒を含む。
- 3 暗茶褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗褐色粘土粒を含む。
- 4 暗黄褐色粘土。暗褐色粘土粒・黒褐色粘土粒を含む。
- 5 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒を含む。
- 6 暗黄褐色粘土。暗褐色粘土粒・黒褐色粘土粒・炭化物を含む。
- 7 黒褐色粘土。暗褐色粘土粒・焼土粒を含む。
- 8 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・黒褐色粘土粒を含む。
- 9 暗茶褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗褐色粘土粒を含む。
- 10 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・炭化物を含む。
- 11 暗黄褐色粘土。暗褐色粘土粒・黒褐色粘土粒・炭化物を含む。
- 12 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・焼土粒・炭化物を含む。
- 13 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・炭化物を含む。
- 14 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒・淡黄褐色粘土粒を含む。

第39号・40号・42号・43号・44号・45号土坑

土層説明 (C-C'、D-D'、E-E'、F-F')

- 1 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒を含む。
- 2 暗褐色粘土。多量の暗灰褐色粘土粒（酸化鉄）及び黒褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒を含む。
- 3 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒を含む。
- 4 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・黒褐色粘土粒を含む。
- 5 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・黒褐色粘土粒を含む。
- 6 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒・焼土粒を含む。
- 7 暗褐色粘土。多量の暗灰褐色粘土粒（酸化鉄）及び黒褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒・焼土粒・炭化物を含む。
- 8 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒及び少量の黒褐色粘土粒を含む。
- 9 暗褐色粘土。多量の暗灰褐色粘土粒（酸化鉄）及び黒褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒を含む。
- 10 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・焼土粒・炭化物を含む。
- 11 暗褐色粘土。多量の暗茶褐色粘土粒・ブロック及び黒褐色粘土粒・暗灰褐色粘土粒（酸化鉄）を含む。
- 12 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒・焼土粒・炭化物を含む。
- 13 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒・焼土粒・炭化物・土器片を含む。

第47号土坑

土層説明 (A-A')

- 1 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒・焼土粒・炭化物・土器片を含む。
- 2 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・黒褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒（酸化鉄）を含む。
- 3 暗褐色粘土。多量の暗灰褐色粘土粒（酸化鉄）及び黒褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒を含む。
- 4 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・酸化鉄を含む。
- 5 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・ブロック・暗黄褐色粘土粒・炭化物を含む。
- 6 暗褐色粘土。暗灰褐色粘土粒を含む。
- 7 暗黄褐色粘土。黒褐色粘土粒を含む。
- 8 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒・暗灰褐色粘土粒（酸化鉄）・炭化物を含む。
- 9 暗褐色粘土。多量の黒褐色粘土粒及び暗黄褐色粘土粒を含む。
- 10 黒褐色粘土。暗黄褐色粘土粒を含む。

第30図 土坑（5）第36号～47号土坑



第31図 第4土坑群

共に検出されている。

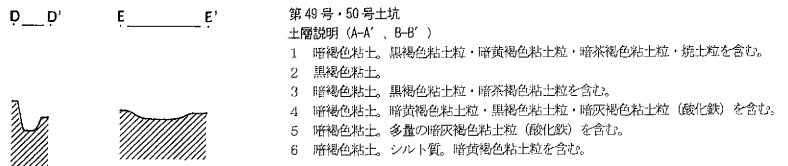
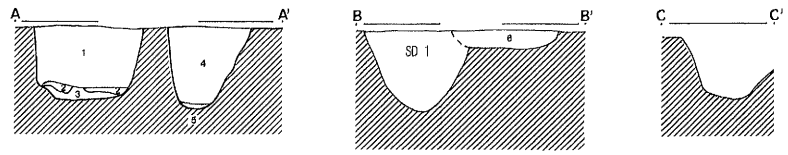
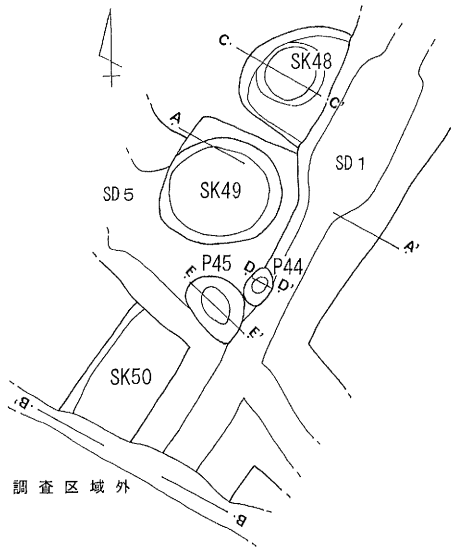
第72号土坑 (第35図・第12表)

平面は不整ではあるが長円形、断面は凹凸が激しいが、直立する壁をもつ部分もみられる。0.90×0.60×0.15mの規模を有する、中型であり浅い土坑である。覆土は、黒褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒を含む暗褐色粘土層（第3層）が堆積している。中央部やや南に函列が検出されている。

第5土坑群内土坑 (第34図・第35図・第36図・第37図・第38図・第12表)

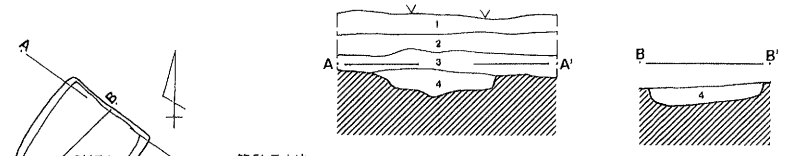
Ⅲ区第4土坑群に西接して第74号～第113号土坑の40基が集中している。ここから西に所在する第114号～第118号土坑は単独である。

第79号土坑 (第35図・第12表)



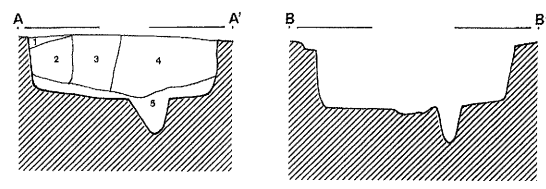
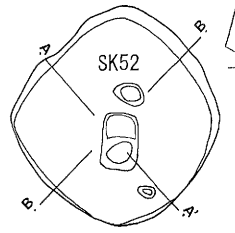
第49号・50号土坑
土層説明 (A-A', B-B')

- 1 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒・焼土粒を含む。
- 2 黒褐色粘土。
- 3 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒を含む。
- 4 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・黒褐色粘土粒・暗灰褐色粘土粒 (酸化鉄) を含む。
- 5 暗褐色粘土。多量の暗灰褐色粘土粒 (酸化鉄) を含む。
- 6 暗褐色粘土。シルト質。暗黄褐色粘土粒を含む。



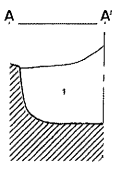
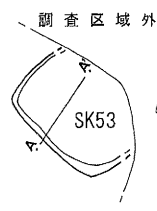
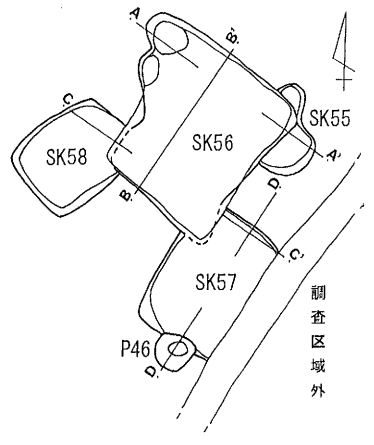
第51号土坑
土層説明 (A-A', B-B')

- 1 暗褐色粘土。火山灰を含む。(耕作土)
- 2 暗褐色粘土。少量の暗黄褐色粘土粒及び火山灰を含む。
- 3 暗黄褐色粘土。多量の暗褐色粘土粒・ブロック及び黒褐色粘土粒・焼土粒・炭化物を含む。
- 4 暗黄褐色粘土。暗褐色粘土粒・ブロック・黒褐色粘土粒・ブロックを含む。



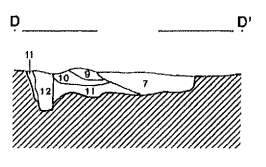
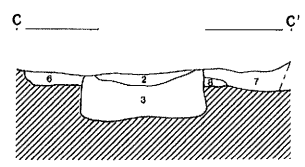
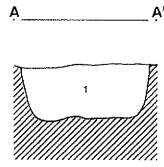
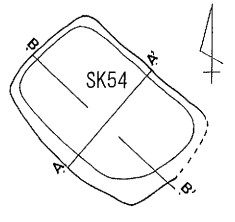
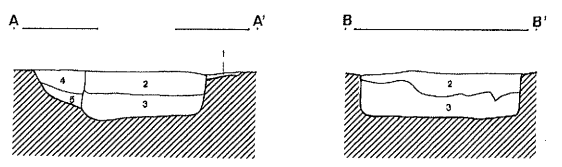
第52号土坑
土層説明 (A-A')

- 1 暗褐色シルト。
- 2 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・ブロック・暗茶褐色粘土粒を含む。
- 3 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒を含む。
- 4 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒及び少量の暗灰褐色粘土粒・焼土粒を含む。
- 5 暗褐色粘土。少量の暗黄褐色粘土粒を含む。



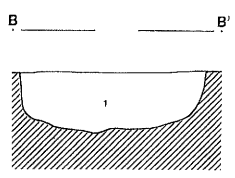
第53号土坑
土層説明 (A-A')

- 1 暗褐色粘土。多量の黒褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒を含む。



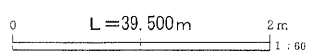
第54号土坑
土層説明 (A-A', B-B')

- 1 暗褐色粘土。多量の黒褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒及び暗灰褐色粘土粒 (酸化鉄)・小礫を含む。

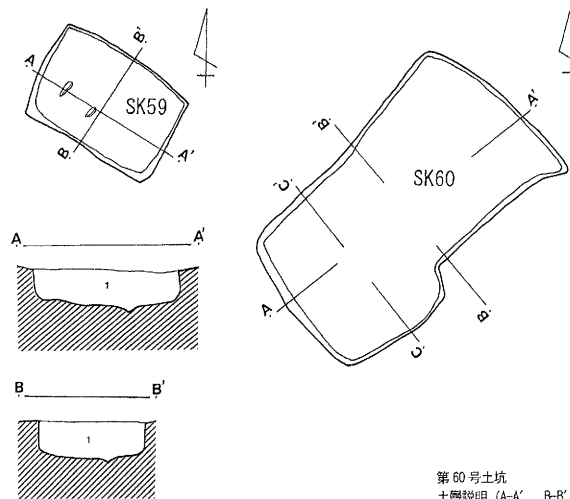


第55号・56号・57号・58号土坑・P46
土層説明 (A-A', B-B', C-C', D-D')

- 1 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒を含む。
- 2 暗褐色粘土。多量の暗黄褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒・黒褐色粘土粒及び焼土粒・炭化物を含む。
- 3 暗褐色粘土。多量の黒褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒及び暗黄褐色粘土粒を含む。
- 4 暗褐色粘土。多量の黒褐色粘土粒・ブロック及び暗黄褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒を含む。
- 5 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・焼土粒を含む。
- 6 暗褐色粘土。多量の黒褐色粘土粒・ブロック及び暗黄褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒を含む。
- 7 暗褐色粘土。暗茶褐色粘土粒・黒褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒・暗灰褐色粘土粒 (酸化鉄)・炭化物を含む。
- 8 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗灰褐色粘土粒 (酸化鉄) を含む。
- 9 暗褐色粘土。少量の暗茶褐色粘土粒・焼土粒・炭化物を含む。
- 10 暗褐色粘土。多量の暗茶褐色粘土粒及び黒褐色粘土粒を含む。
- 11 暗褐色粘土。暗茶褐色粘土粒・黒褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒を含む。
- 12 暗褐色粘土。



第32図 土坑 (6) 第48号~58号土坑、P44~46

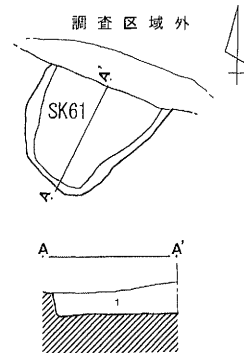
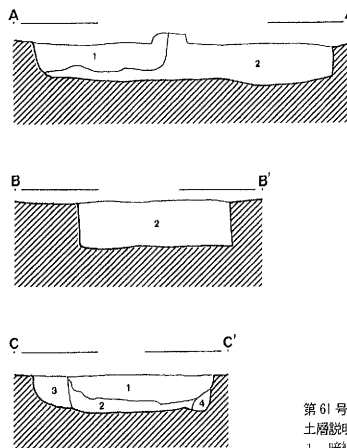


第59号土坑
土層説明 (A-A'、B-B')

1 暗褐色粘土。多量の黒褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒を含む。

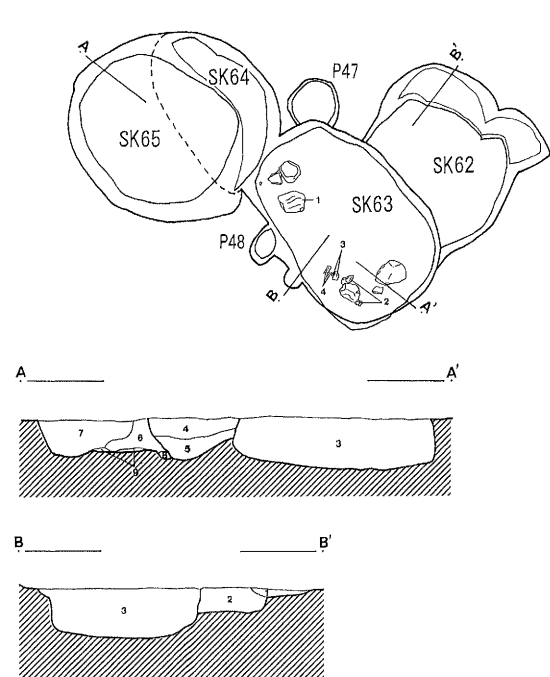
第60号土坑
土層説明 (A-A'、B-B'、C-C')

1 暗褐色粘土。少量の黒褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒及び炭化物・土器片を含む。
2 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・ブロック・暗黄褐色粘土粒・ブロックを含む。
3 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒を含む。
4 暗褐色粘土。少量の黒褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒を含む。



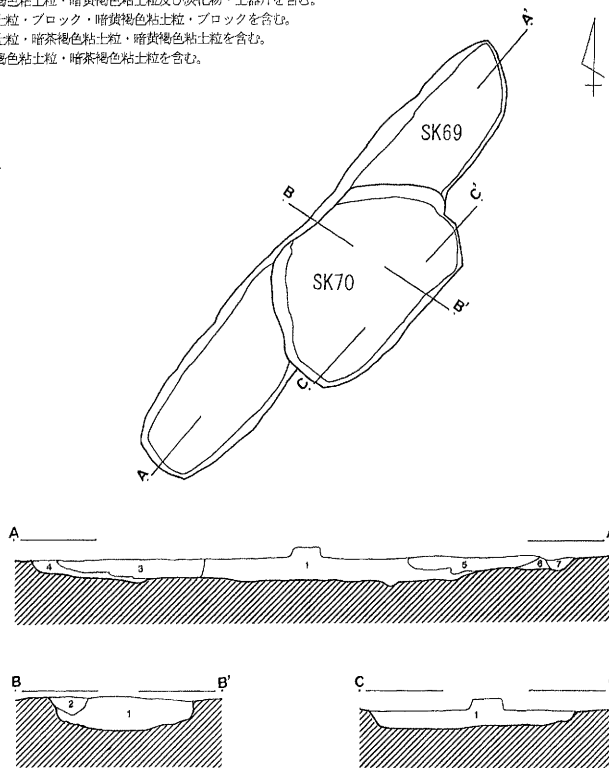
第61号土坑
土層説明 (A-A')

1 暗褐色粘土。多量の黒褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒及び焼土粒・炭化物を含む。



第62号・63号・64号・65号土坑
土層説明 (A-A'、B-B')

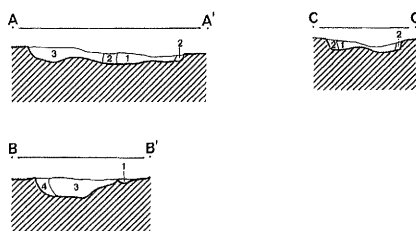
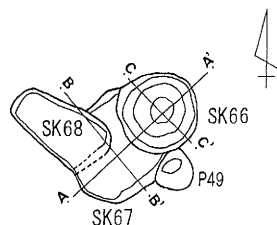
1 暗褐色粘土。暗灰褐色粘土粒 (酸化鉄)、黒褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒、炭化物を含む。
2 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒・焼土粒・炭化物及び少量の暗灰褐色粘土粒 (酸化鉄) を含む。
3 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒・焼土粒・炭化物を含む。
4 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒を含む。
5 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・ブロック・暗茶褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒を含む。
6 暗褐色粘土。多量の黒褐色粘土粒・ブロック及び暗茶褐色粘土粒を含む。
7 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒を含む。
8 暗茶褐色粘土。黒褐色粘土粒を含む。
9 灰白色粘土。



第69号・70号土坑
土層説明 (A-A'、B-B'、C-C')

1 暗褐色粘土。多量の黒褐色粘土粒・ブロック及び暗黄褐色粘土・焼土粒・炭化物を含む。
2 暗褐色粘土。少量の暗黄褐色粘土粒を含む。
3 暗褐色粘土。少量の黒褐色粘土粒及び土器片を含む。
4 暗褐色粘土。多量の黒褐色粘土粒・ブロック及び暗茶褐色粘土粒を含む。
5 暗褐色粘土。少量の暗黄褐色粘土粒を含む。
6 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・ブロック・暗黄褐色粘土粒を含む。
7 暗褐色粘土。多量の黒褐色粘土粒・ブロック及び暗黄褐色粘土粒を含む。

0 L = 39.400m 2m
1:60

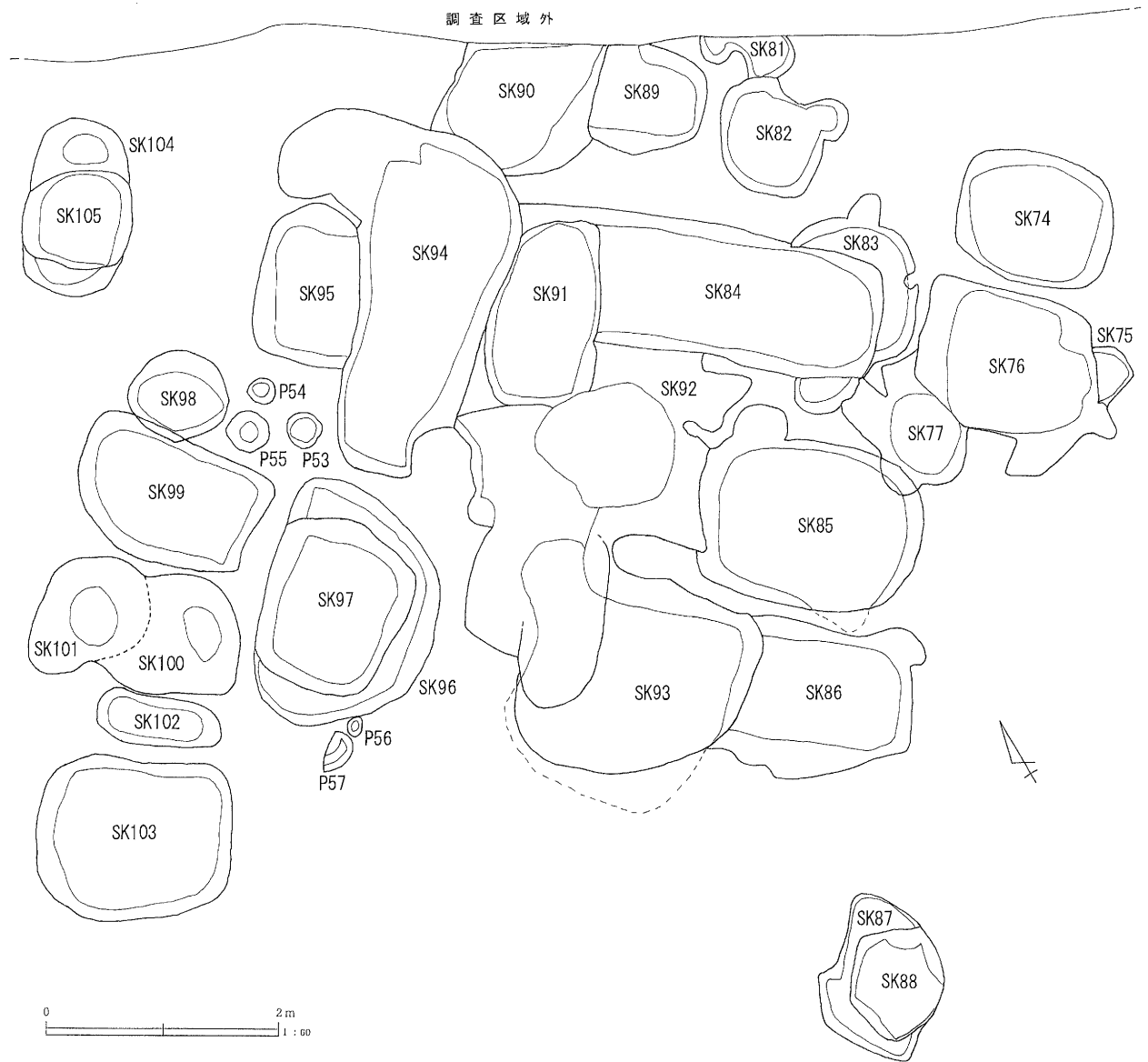


第66号・67号・68号土坑
土層説明 (A-A'、B-B'、C-C')

1 暗茶褐色粘土。焼土物を含む。
2 暗灰褐色粘土。少量の黒褐色粘土粒を含む。
3 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒・焼土粒を含む。
4 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・ブロックを含む。

0 L = 39.900m 2m
1:60

第33図 土坑 (7) 第59号~70号土坑



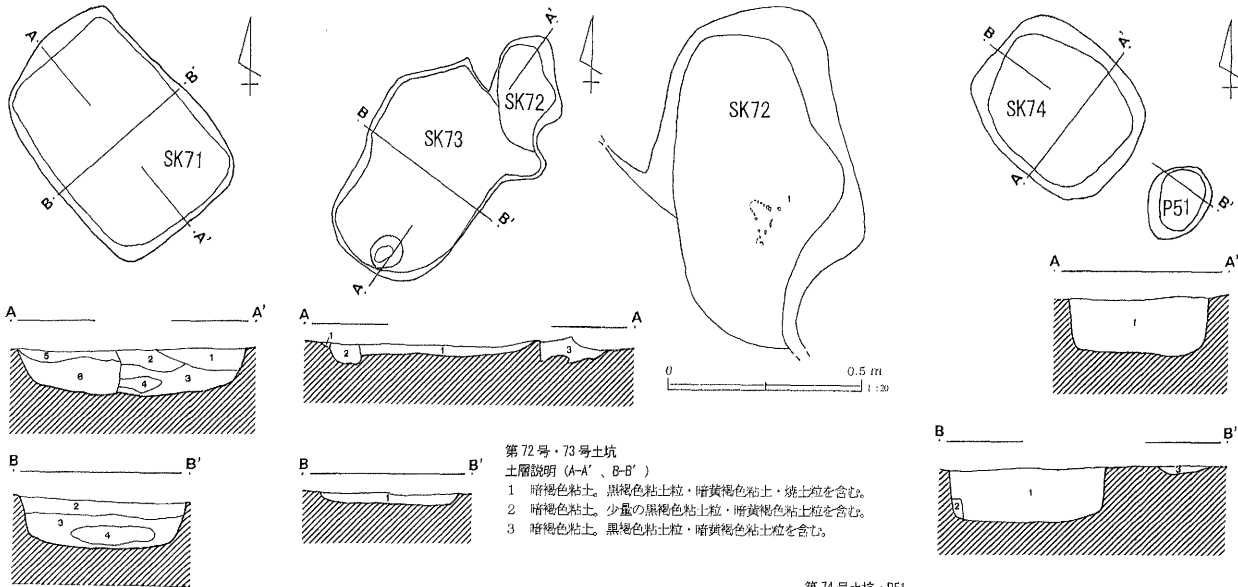
第34図 第5土坑群

平面方円形、断面はやや丸味をもった矩形を呈する。2.20×2.00×0.48mの規模を有する。大型でありやや深目の土坑である。覆土は、暗黄褐色粘土粒を含む暗褐色粘土層（第3層）、暗黄褐色粘土粒・ブロック・黒褐色粘土粒・暗灰褐色粘土粒・焼土粒・炭化物・土器片を含む暗褐色粘土層（第4層）、黒褐色粘土粒・暗褐色粘土粒を含む暗茶褐色粘土層（第5層）を中心にして、含有物がわずかに異なる暗褐色粘土層（第6～11層）が堆積している。特に第4・11層は、人為的な投入土の様相を呈している。

遺物（第41図・第44図・第13表）は、第4層中から焙烙（1・2）、古銭（3・2枚が付着した状況）が検出されている。

第94号土坑（第36図・第12表）

平面は不整ではあるが長方形、断面は凹凸があるもの、直立する壁をもつ部分あるいは、袋状を呈する部分もみられる。3.03×1.30×0.80mの規模を有する。また北西部は幅90cm、長さ80cmの規模で張り出し、全体でL字形を呈することとなる。張り出しの底面は、北西に向けて、段を成して浅くなる。大



第72号・73号土坑
土層説明 (A-A'、B-B')

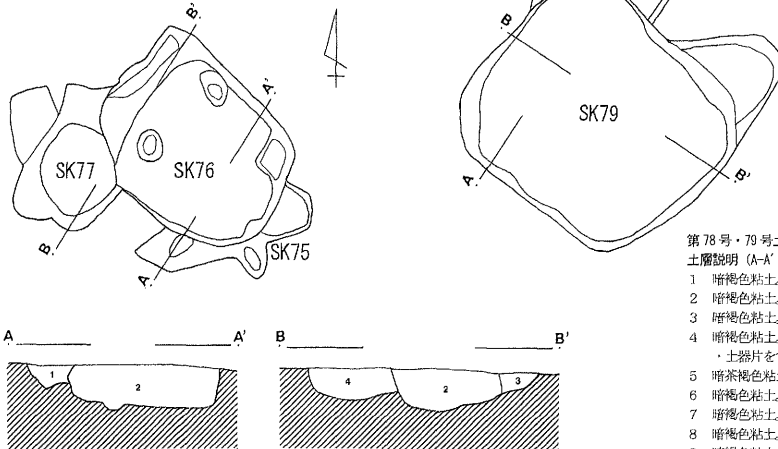
- 1 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒を含む。
- 2 暗褐色粘土。少量の黒褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒を含む。
- 3 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒を含む。

第71号土坑
土層説明 (A-A'、B-B')

- 1 暗褐色シルト。少量の黒褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒を含む。
- 2 暗褐色粘土。多量の黒褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒を含む。
- 3 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・ブロック・暗茶褐色粘土粒・ブロック・暗黄褐色粘土粒を含む。
- 4 暗褐色粘土。少量の黒褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒を含む。
- 5 暗褐色粘土。少量の黒褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒を含む。
- 6 暗褐色粘土。少量の黒褐色粘土粒及び暗黄褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒を含む。

第74号土坑・P51
土層説明 (A-A'、B-B')

- 1 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒・暗灰褐色粘土粒 (酸化鉄)・軽石粒・暗黄褐色粘土粒・小礫・焼土粒・炭化物を含む。
- 2 黒褐色粘土。軽石粒・暗灰褐色粘土粒 (酸化鉄) を含む。
- 3 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒・焼土粒を含む。

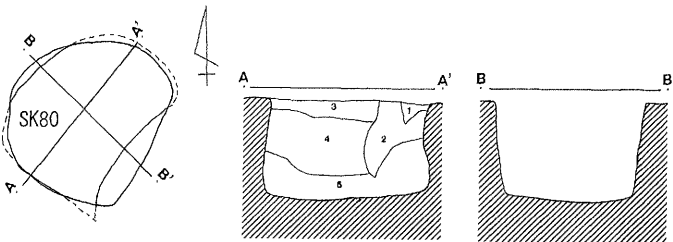


第78号・79号土坑
土層説明 (A-A'、B-B')

- 1 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・黒褐色粘土粒・暗灰褐色粘土粒 (酸化鉄)・焼土粒を含む。
- 2 暗褐色粘土。暗茶褐色粘土粒を含む。
- 3 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒を含む。
- 4 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・ブロック・黒褐色粘土粒・暗灰褐色粘土粒・焼土粒・炭化物・土器片を含む。
- 5 暗茶褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗褐色粘土粒を含む。
- 6 暗褐色粘土。暗灰褐色粘土粒・黒褐色粘土粒・焼土粒を含む。
- 7 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒・焼土粒を含む。
- 8 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・黒褐色粘土粒・炭化物を含む。
- 9 暗褐色粘土。多量の暗黄褐色粘土粒及び黒褐色粘土粒を含む。
- 10 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒を含む。
- 11 暗褐色粘土。多量の黒褐色粘土粒・ブロック・暗茶褐色粘土粒を含む。

第75号・76号・77号土坑
土層説明 (A-A'、B-B')

- 1 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒を含む。
- 2 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・ブロック・暗黄褐色粘土粒・暗灰褐色粘土粒・焼土粒・炭化物を含む。
- 3 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒を含む。
- 4 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒・暗灰褐色粘土粒 (酸化鉄)・焼土粒・炭化物を含む。

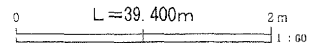


第80号土坑
土層説明 (A-A')

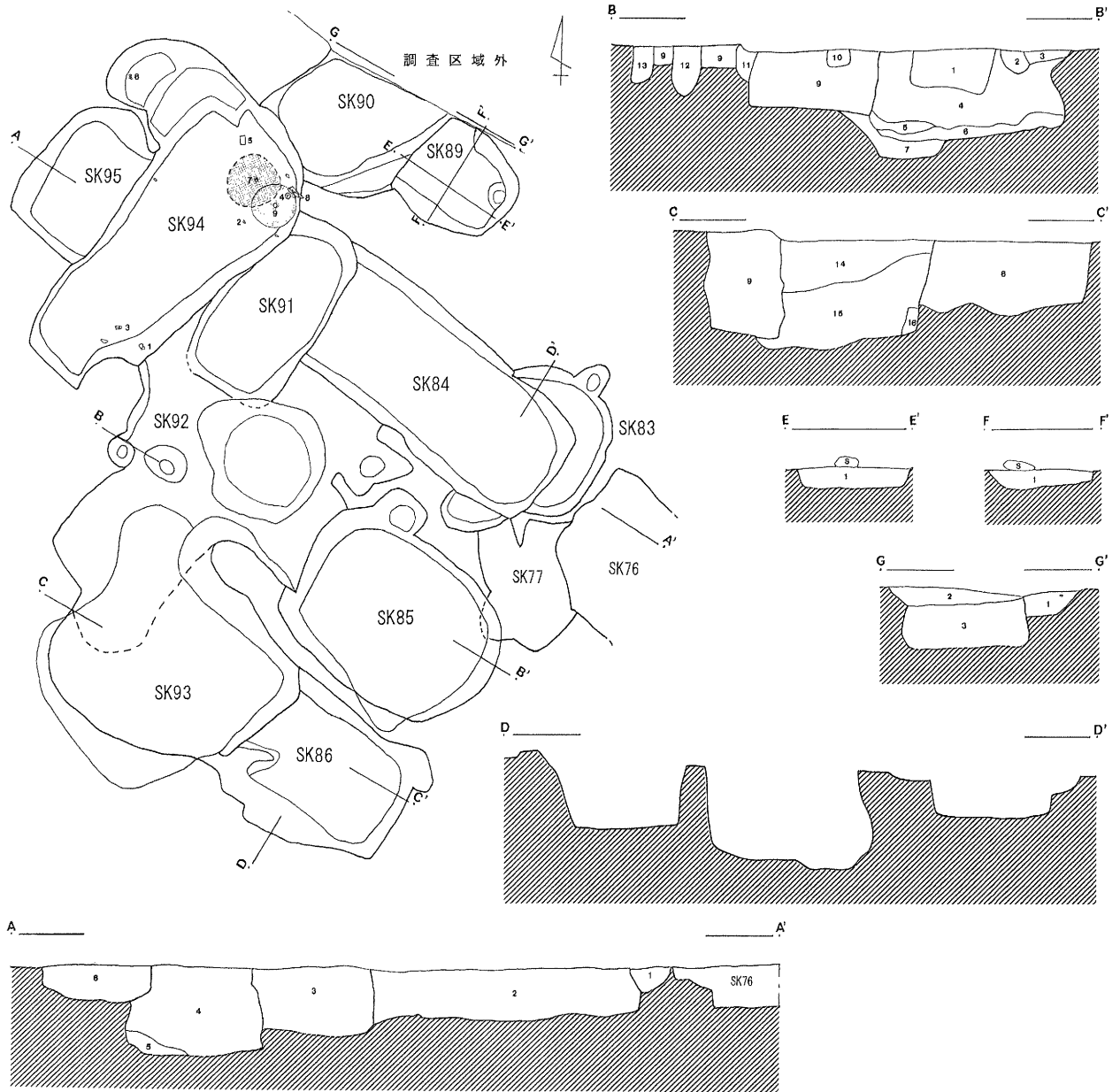
- 1 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒を含む。
- 2 暗褐色粘土。多量の暗茶褐色粘土粒・ブロック・黒褐色粘土粒・ブロック及び暗灰褐色粘土粒 (酸化鉄) を含む。
- 3 暗褐色粘土。少量の黒褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒を含む。
- 4 暗褐色粘土。多量の黒褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒を含む。
- 5 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒・ブロックを含む。

第81号・82号土坑
土層説明 (A-A'、B-B')

- 1 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒を含む。
- 2 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒・暗灰褐色粘土粒・焼土粒を含む。



第35図 土坑 (8) 第71号~82号土坑



第83号・84号・91号・94号・95号土坑

土層説明 (A-A')

- 1 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・暗灰褐色粘土粒 (酸化鉄) を含む。
- 2 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒・暗灰褐色粘土粒 (酸化鉄)・灰白色粒・焼土粒・炭化物を含む。
- 3 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒・暗灰褐色粘土粒 (酸化鉄)・焼土粒・炭化物を含む。
- 4 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒・暗灰褐色粘土粒・灰白色粒・焼土粒・炭化物を含む。
- 5 暗褐色粘土。焼土粒・炭化物・暗茶褐色粘土粒を含む。
- 6 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒・焼土粒・炭化物を含む。

第89号・90号土坑

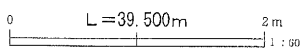
土層説明 (E-E', F-F', G-G')

- 1 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒・炭化物を含む。
- 2 暗褐色粘土。暗茶褐色粘土粒・黒褐色粘土粒・火山灰・焼土粒・炭化物・小礫を含む。
- 3 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒・焼土粒・炭化物・土器片を含む。

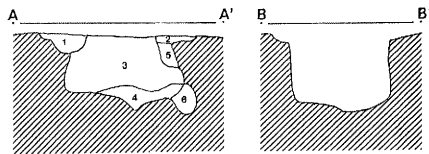
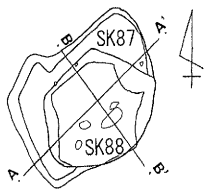
第85号・86号・92号・93号土坑

土層説明 (B-B', C-C')

- 1 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒・暗灰褐色粘土粒 (酸化鉄)・焼土粒・炭化物を含む。
- 2 黒褐色粘土。暗黄褐色粘土粒を含む。
- 3 暗黄褐色粘土。
- 4 黒褐色粘土。暗茶褐色粘土粒・ブロック・暗黄褐色粘土粒・暗灰褐色粘土粒 (酸化鉄) を含む。
- 5 黒褐色粘土。
- 6 暗褐色粘土。暗灰褐色粘土粒 (酸化鉄)・灰白色粒・ブロックを含む。
- 7 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒・暗灰褐色粘土粒 (酸化鉄)・灰白色粒 (酸化鉄)・炭化物を含む。
- 8 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒・暗灰褐色粘土粒を含む。
- 9 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒・暗灰褐色粘土粒 (酸化鉄)・暗黄褐色粘土粒・礫を含む。
- 10 暗褐色粘土。暗茶褐色粘土粒・炭化物を含む。
- 11 黒褐色粘土。多量の灰白色粒 (酸化鉄) を含む。
- 12 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒・暗灰褐色粘土粒 (酸化鉄)・焼土粒・炭化物を含む。
- 13 暗褐色粘土。暗灰褐色粘土粒 (酸化鉄) を含む。
- 14 暗褐色粘土。暗茶褐色粘土粒・ブロック・黒褐色粘土粒・ブロック・暗黄褐色粘土粒・暗灰褐色粘土粒・焼土粒・炭化物を含む。
- 15 暗褐色粘土。多量の暗茶褐色粘土粒及び暗灰褐色粘土粒 (酸化鉄)・黒褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒・焼土粒・炭化物を含む。
- 16 暗茶褐色シルト。



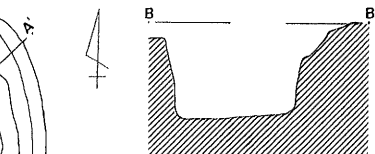
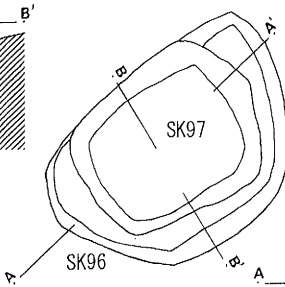
第36図 土坑 (9) 第83号~86号・89号~95号土坑



第87号・88号土坑

土層説明 (A-A')

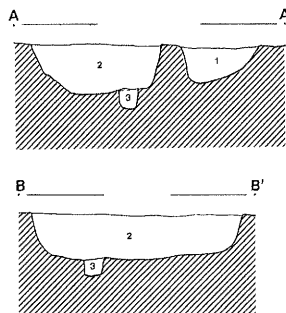
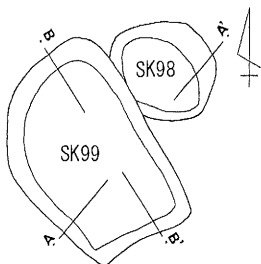
- 1 暗褐色粘土。暗灰褐色粘土粒 (酸化鉄) を含む。
- 2 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒を含む。
- 3 暗褐色粘土。多量の焼土粒・炭化物及び少量の黒褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒・暗灰褐色粘土粒を含む。
- 4 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒・焼土粒を含む。
- 5 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗灰褐色粘土粒・焼土粒・炭化物を含む。
- 6 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒を含む。



第96号・97号土坑

土層説明 (A-A')

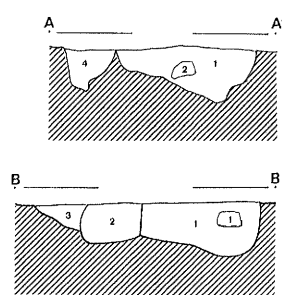
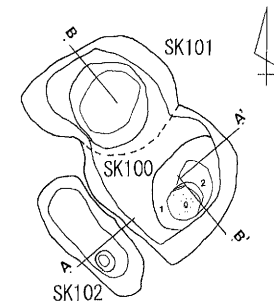
- 1 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・ブロック・暗黄褐色粘土粒を含む。
- 2 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒を含む。
- 3 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒・暗灰褐色粘土粒・焼土粒・炭化物を含む。



第98号・99号土坑

土層説明 (A-A'、B-B')

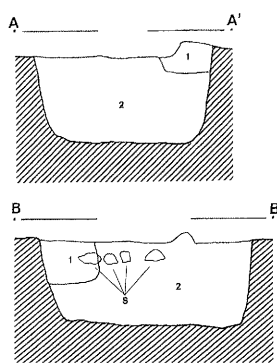
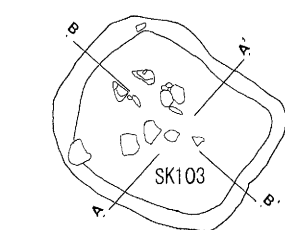
- 1 暗褐色粘土。暗茶褐色粘土粒・暗灰褐色粘土粒・灰白色粒を含む。
- 2 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒・焼土粒を含む。
- 3 暗褐色粘土。暗茶褐色粘土粒を含む。



第100号・101号・102号土坑

土層説明 (A-A'、B-B')

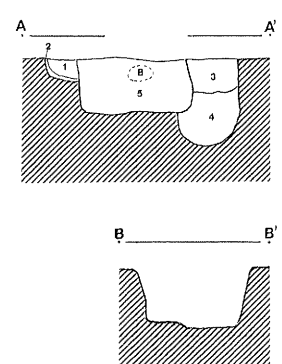
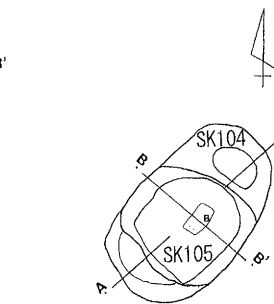
- 1 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒・暗灰褐色粘土粒を含む。
- 2 暗褐色粘土。多量の黒褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒を含む。
- 3 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒を含む。
- 4 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒を含む。



第103号土坑

土層説明 (A-A'、B-B')

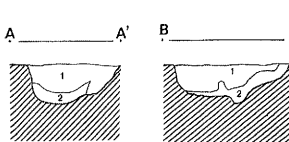
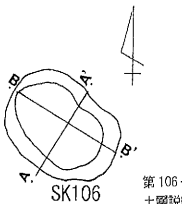
- 1 暗褐色粘土。火山灰を含む。
- 2 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒・礫・焼土粒を含む。



第104号・105号土坑

土層説明 (A-A')

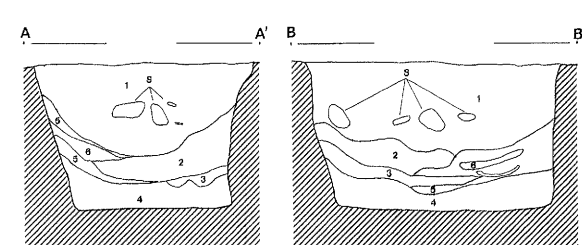
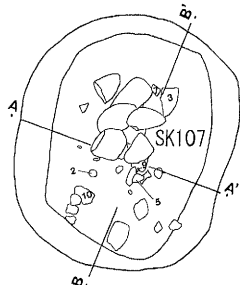
- 1 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒・暗灰褐色粘土粒 (酸化鉄) を含む。
- 2 暗茶褐色粘土。黒褐色粘土粒を含む。
- 3 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・黒褐色粘土粒・火山灰を含む。
- 4 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・ブロック・黒褐色粘土粒・暗灰褐色粘土粒を含む。
- 5 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒・暗灰褐色粘土粒・灰白色粒・暗黄褐色粘土粒・骨片を含む。



第106号土坑

土層説明 (A-A'、B-B')

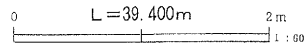
- 1 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗灰褐色粘土粒 (酸化鉄) を含む。
- 2 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・ブロックを含む。



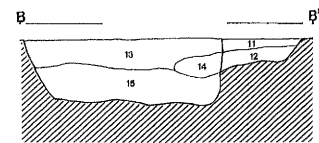
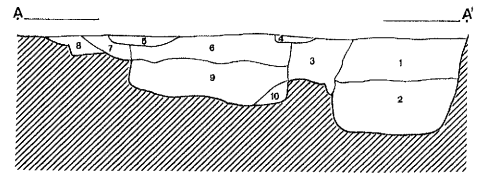
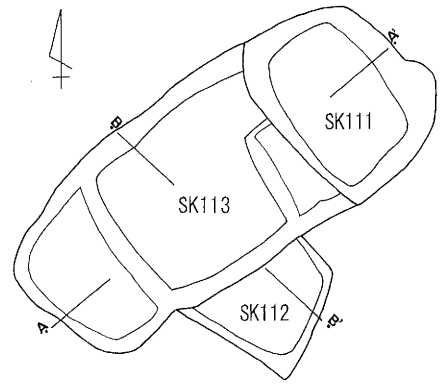
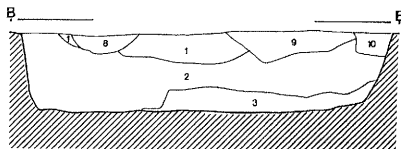
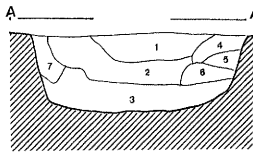
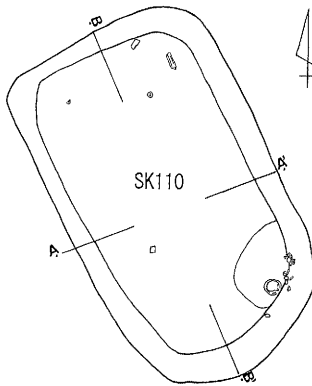
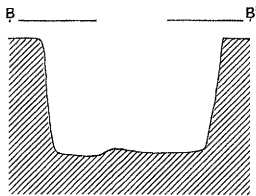
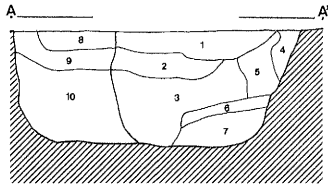
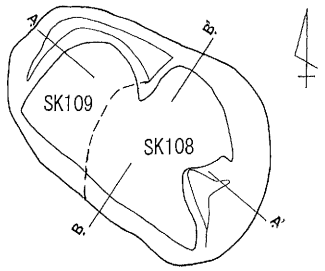
第107号土坑

土層説明 (A-A'、B-B')

- 1 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・黒褐色粘土粒・暗灰褐色粘土粒・焼土粒・炭化物・火山灰・礫・土器片を含む。
- 2 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒を含む。
- 3 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒及び多量の暗黄褐色粘土粒を含む。
- 4 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒・黒褐色粘土粒を含む。
- 5 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・ブロック・暗茶褐色粘土粒・土器片を含む。
- 6 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒を含む。



第37図 土坑 (10) 第87号・88号・96号~107号土坑



第108号・109号土坑

土層説明 (A-A')

- 1 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・黒褐色粘土粒・火山灰を含む。
- 2 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・ブロック・黒褐色粘土粒・火山灰を含む。
- 3 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒・焼土粒・炭化物・小礫を含む。
- 4 黒褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・焼土粒を含む。
- 5 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・黒褐色粘土粒を含む。
- 6 黒褐色粘土。暗黄褐色粘土粒を含む。
- 7 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒を含む。
- 8 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒・黒褐色粘土粒・火山灰・小礫を含む。
- 9 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒・黒褐色粘土粒・焼土粒・炭化物を含む。
- 10 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒及び少量の黒褐色粘土粒を含む。

第110号土坑

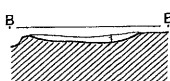
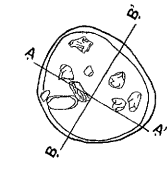
土層説明 (A-A', B-B')

- 1 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・ブロック・暗茶褐色粘土粒・ブロック(火山灰)・小礫を含む。
- 2 暗茶褐色粘土。黒褐色粘土粒・ブロック・暗茶褐色粘土ブロック・暗黄褐色粘土粒・ブロック・暗褐色粘土粒・ブロックを含む。
- 3 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒・暗灰褐色粘土粒を含む。
- 4 暗褐色粘土。暗灰褐色粘土粒(酸化鉄)を含む。
- 5 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒を含む。
- 6 暗褐色粘土。火山灰を含む。
- 7 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒を含む。
- 8 暗褐色粘土。暗茶褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒を含む。
- 9 暗褐色粘土。多量の黒褐色粘土粒・ブロック・暗黄褐色粘土粒及び少量の暗茶褐色粘土粒を含む。
- 10 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒を含む。

第111号・112号・113号土坑

土層説明 (A-A', B-B')

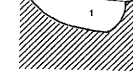
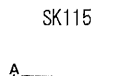
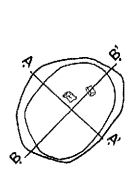
- 1 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒・火山灰・焼土粒・炭化物を含む。
- 2 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒を含む。
- 3 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・黒褐色粘土粒・焼土粒・炭化物を含む。
- 4 暗褐色粘土。火山灰・黒褐色粘土粒を含む。
- 5 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒を含む。
- 6 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・火山灰・小礫・土器片を含む。
- 7 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・ブロック・暗黄褐色粘土粒を含む。
- 8 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒を含む。
- 9 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・黒褐色粘土粒・焼土粒・炭化物を含む。
- 10 暗茶褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・焼土粒を含む。
- 11 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・焼土粒を含む。
- 12 黒褐色粘土。
- 13 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒・炭化物を含む。
- 14 暗褐色粘土(シルト質)。暗黄褐色粘土粒・暗灰褐色粘土粒・炭化物を含む。
- 15 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・ブロック・暗黄褐色粘土粒・焼土粒・炭化物を含む。



第114号土坑

土層説明 (A-A', B-B')

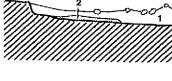
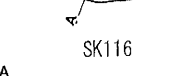
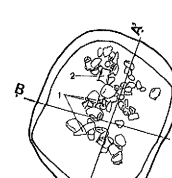
- 1 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗灰褐色粘土粒(酸化鉄)・焼土粒・灰白色粒を含む。



第115号土坑

土層説明 (A-A', B-B')

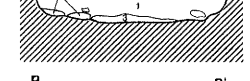
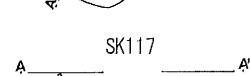
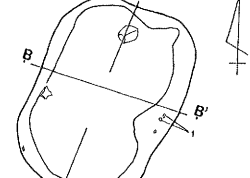
- 1 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒・焼土粒・炭化物を含む。



第116号土坑

土層説明 (A-A')

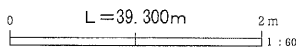
- 1 暗褐色粘土。暗灰褐色粘土粒(酸化鉄)・焼土粒を含む。
- 2 黒褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・暗灰褐色粘土粒(酸化鉄)・焼土粒・炭化物を含む。



第117号土坑

土層説明 (A-A')

- 1 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・焼土粒・礫を含む。
- 2 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒を含む。
- 3 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒・焼土粒を含む。



第38図 土坑(11) 第108号~117号土坑

型であり深い土坑である。覆土は、大半が黒褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒・暗灰褐色粘土粒・灰白色粒・焼土粒・炭化物を含む暗褐色粘土層（第4層）が堆積している。第4層中上位の北東端中央部には、径50cmの円形範囲に焼土面が検出されている。

遺物（第42図・第44図・第13表）は、この焼土面を中心に、わずかな礫と共に検出されている。焼土面の中に古銭（7）、焼土面を囲むように青磁高台椀（2）、かわらけ（4）、焙烙（5）、板碑（8）、石臼（9・下臼）の他、古銭（6）は張り出し部北西端近くから、白磁椀（1）、かわらけ（3）、は土坑南部から出土している。

第100号土坑（第37図・第12表）

平面不整な方円形、断面は東から南側が低く、北から西に向けてやや湾曲しながら浅くなる。1.05×(0.85)×0.43mの規模を有する。中型でありやや深目の土坑である。覆土は、黒褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒・暗灰褐色粘土粒を含む暗褐色粘土層（第1層）が堆積している。調査時は、第2層との変換が縦の分離であったこと、底面の角度変換点とが一致したことから、第101号土坑と別土坑としたが、底面の傾斜が統一したものであるため、同一土坑である可能性も高い。もしそうであるならば、1.85×1.05×0.43mの規模を有することとなり、大型でありやや深目の土坑であるといえる。

遺物（第42図・第13表）は、最深部から石臼（1・2・共に下臼）が検出されている。

第105号土坑（第37図・第12表）

平面やや不整な円形、断面は略矩形を呈する。0.93×0.85×0.48mの規模を有する。中型でありやや深目の土坑である。覆土は、黒褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒・暗灰褐色粘土粒・灰白色粒・暗黄褐色粘土粒・骨片を含む暗褐色粘土層（第1層）が堆積している。土坑中央・上位には15×25cm範囲に骨片の集中がみられる。

第107号土坑（第37図・第12表）

平面長円形、断面は凹凸があるもの、壁が湾曲する部分もみられるが、矩形を呈する。2.05×1.56×1.18mの規模を有する。大型であり深い土坑である。覆土は、下位に黒褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒を含む暗褐色粘土層（第2～6層）、中位から上位には、暗黄褐色粘土粒・黒褐色粘土粒・暗灰褐色粘土粒・焼土粒・炭化物・火山灰・礫・土器片を含む暗褐色粘土層（第1層）が堆積している。

遺物（第42図・第43図・第13表）は、土坑中央第1層中位に組まれた礫中、あるいは周囲から検出されている。器種として、坏形かわらけ（1・2）、焙烙（3～7）の他、土錘（8）、砥石（9・10）等がみられる。

第110号土坑（第38図・第12表）

平面隅円長方形、断面は、壁がやや傾斜する部分もみられるが、矩形を呈する。2.96×1.70×0.65mの規模を有する。大型であり深い土坑である。覆土は、下位に黒褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒・暗茶褐色粘土粒・暗灰褐色粘土粒を含む暗褐色粘土層（第3層）、中位から上位には、黒褐色粘土粒・ブロック・暗茶褐色粘土ブロック・暗黄褐色粘土粒・ブロック・暗褐色粘土粒・ブロックを含む暗茶褐色粘土層（第2層）を中心にして、含有物を違えた暗褐色粘土層（第1層、第4～10層）が堆積している。

遺物（第43図・第44図・第13表）は、土坑南東隅の第3層中から土師器坏（1・2）が、土坑北西部の第2層上位から古銭（3・6枚が付着した状況）の他、骨片が検出されている。

第116号土坑（第38図・第12表）

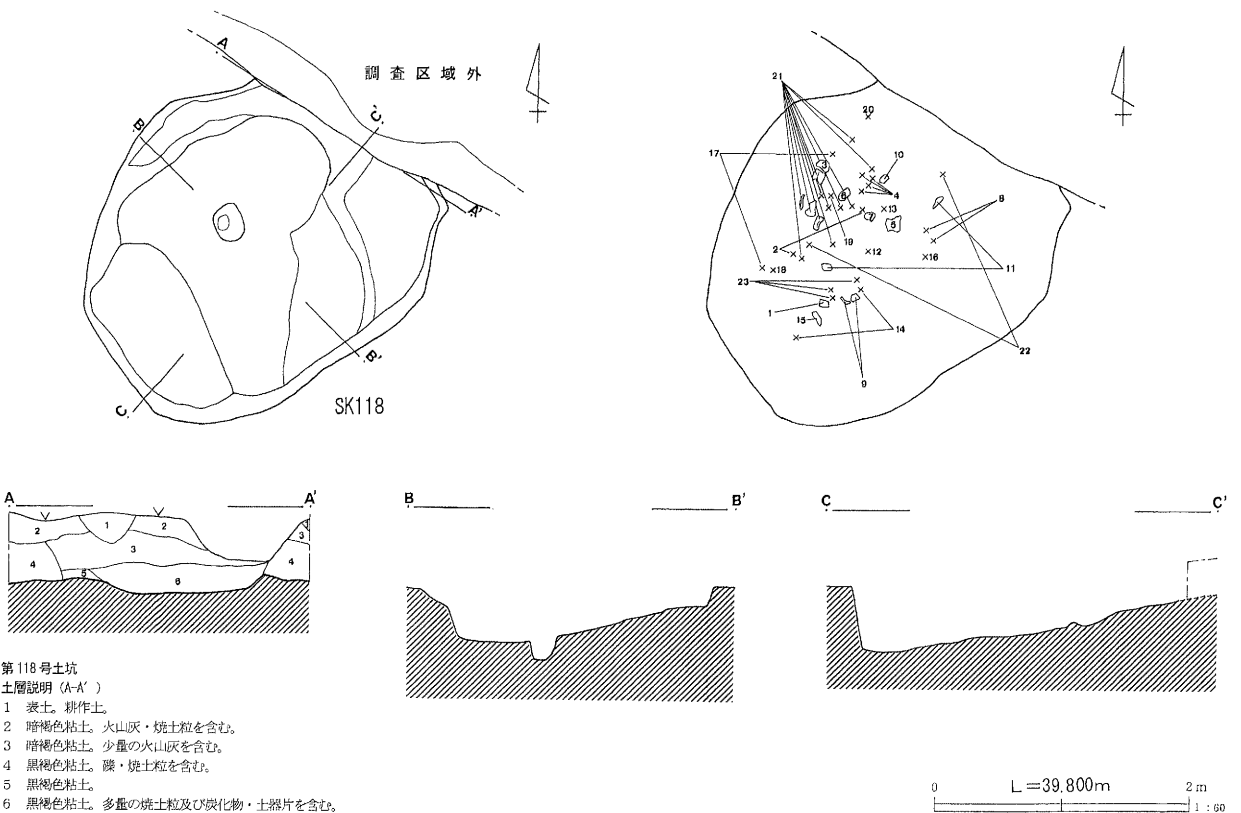
平面隅円長方形、断面は、対面が南から北へ直線的にたちあがるが、略逆台形を呈する。1.31×1.05×0.14mの規模を有する。やや大型であり浅い土坑である。底面の中央から北寄りには、暗黄褐色粘土粒・暗灰褐色粘土粒（酸化鉄）・焼土粒・炭化物を含む黒褐色粘土層（第2層）が円形に広がり、上位には暗灰褐色粘土粒（酸化鉄）・焼土粒物を含む暗褐色粘土層（第1層）が堆積している。

遺物（第43図・第13表）は、土坑中央から北寄りの第2層中の堆積する位置を中心に、第1層上に群材する小礫のあいだから、いずれも煤の付着した焙烙（1）、石臼（2・上臼）の他、骨片が検出されている。

第118号土坑（第39図・第12表）

全土坑の西端に、単独で所在している。北東部の一部が調査区域外に位置するが、底面の上場から、2.90×2.43×0.57mの規模を有し、形状は長円形を呈すると思われる。大型でやや深い土坑であるといえる。第3号住居跡の一部を切断されている。壁はほぼ直立する部分が多い。底面は、西から南にかけて深く、東から北に向けて直線の斜面を成して立ち上がる。底面中央やや北西寄りに、30×23×18cm規模のピットが穿たれている、覆土は、多量の焼土粒及び、炭化物・土器片を含む黒褐色粘土層（第6層）である。

遺物（第43図・第13表）は、大量の土器が焼土粒及び炭化物と混在して、検出されている。器種は、須恵器坏（1・周辺部へラ削り調整）、轆轤土師器坏（2・焼きがさほど甘くない）、土師器坏（3～20）、土師器甕（21～23）等がみられる。

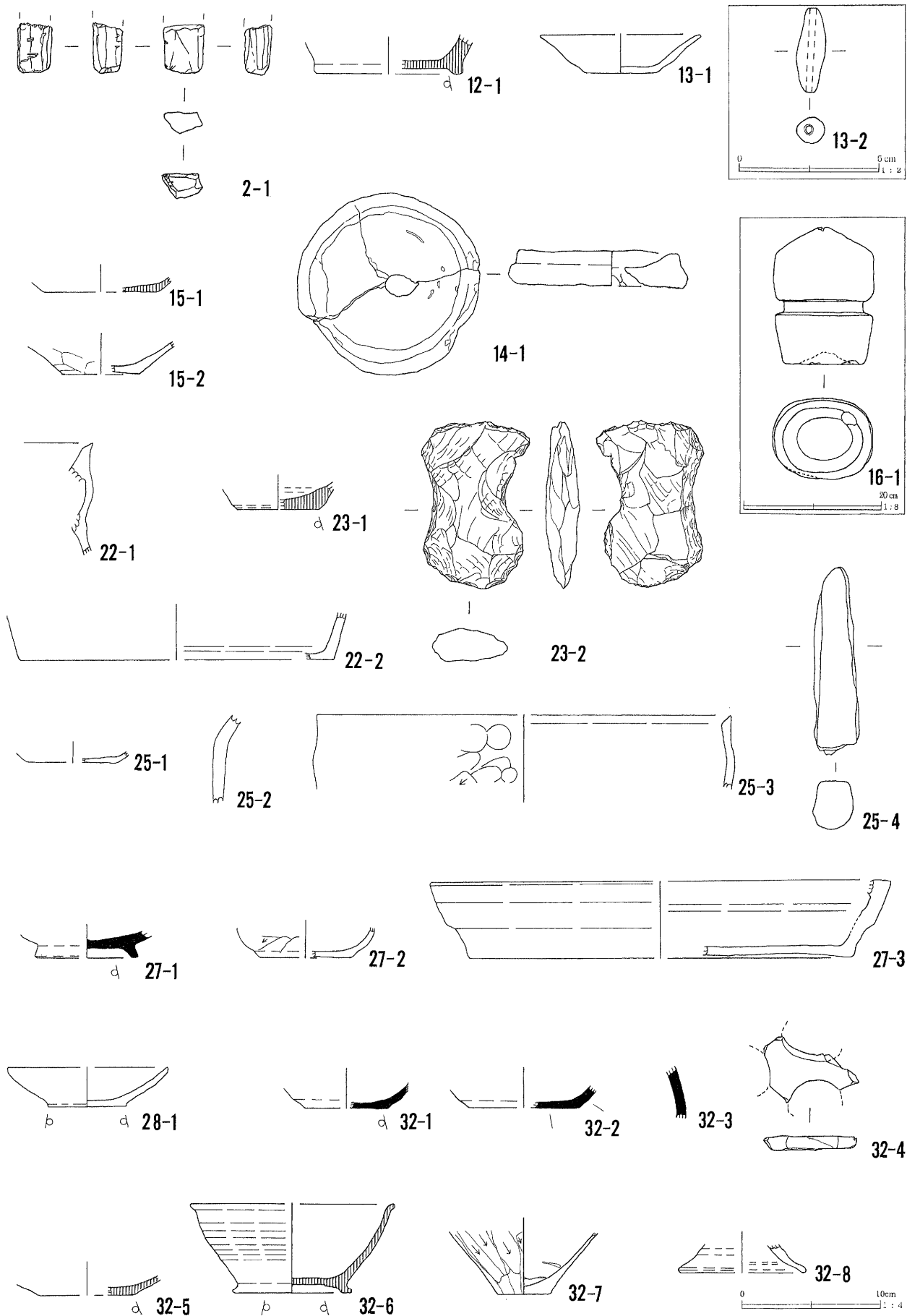


第39図 土坑（12）第118号土坑

第12表 土坑一覽表 (第25図~第39図)

区	No.	位置	平面形	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	特殊遺物	備考	
I	1	A P-59	隅円長方	1.06	—	0.88			
	2	A Q-59	円	0.80	—	0.44	砥石・炭化物付着礫		
	3	A Q-58	隅円長方	1.24	0.52	0.18			
	4	A P-57	隅円長方	1.03	0.60	0.40			
	5	A Q-58	隅円長方	1.40	—	0.76			
	6	A R-58	方円	0.76	—	0.33			
	7	A R-58	隅円長方	1.07	—	0.28			
	8	A R-58	方円	1.00	0.78	0.28			
	9	A R-58	隅円長方	1.45	—	0.60			
	10	A R-58	不整	1.14	0.76	0.31			
	11	A R-57	円	0.81	0.66	0.12			
	12	A S-57	不整	1.20	0.80	0.23	骨・鉄片	S K-13と接	
	13	A S-57	長方	1.80	1.66	0.61	骨・スラッグ・土錘・鉄片	S K-12と接、14より新	
	14	A S-57	長円	0.78	0.41	0.08	骨・板碑・礫	S K-13より古	
	15	A S-57	長円	2.12	0.92	0.24	骨・函・古銭・鉄片		
	16	A N-53	隅円長方	1.12	0.63	0.48	五輪塔		
	17	A N-53	隅円長方	1.28	—	0.29			
区	18	A N-53	隅円長方	—	0.58	0.38			
	19	A M-53	隅円長方	1.12	0.78	0.50		2号集石・S K-20より古、21より新、22と接	
	20	A M-53	方円	1.30	1.06	0.66		2号集石より古、S K-19・21より新	
	21	A M-53	円	1.18	1.14	0.30		S K-19・20より古、22と接	
	22	A M-53	方円	1.26	1.14	1.28	古銭	袋状土坑。S K-19・21と接	
	23	A M-53	隅円長方	1.42	0.88	0.86		袋状土坑。2号集石より古、S K-24と接	
	24	A M-52	隅円長方	1.23	0.98	0.30		S K-23と接	
	25	A M-52	方円	1.00	0.88	0.88	不明石製品・砥石・礫	袋状土坑	
	26	A M-52	隅円長方	1.96	—	1.44			
	27	A K-50	長円	2.20	1.76	0.72	古銭・礫		
II	28	A K-49	円	1.28	1.26	0.62			
	29	A K-49	長円	1.06	0.80	0.53		S K-30より古	
	30	A K-49	長方	2.05	1.06	1.01		S K-29より新	
区	31	A J-49	不整	1.34	0.75	0.60		S J-1より新	
	32	A H-44	不整	3.05	—	0.60		S J-3・S D-8より古	
III	33	A W-52	不整	1.94	—	0.90		S K-34より新	
	34	A W-52	不整	2.30	—	0.20		S K-33より古	
	35	A W-52	長方	—	1.08	0.16	上臼・鉄製品	S D-1より古	
	36	A X-52	方円	1.67	—	0.80		袋状土坑。S K-37・40・41より新	
	37	A X-52	不整	1.80	—	0.24		S K-36・41より古	
	38	A X-52	長円	0.70	—	0.28		S K-40より新	
	39	A X-52	長円	1.00	—	0.60		S K-40より新	
	40	A X-52	不整	—	—	0.42		S K-36・38・39・44より古、41より新	
	41	A X-52	不整	1.30	—	0.23		S K-36・37・40より古	
	42	A X-52	長円	2.20	0.93	0.62		S K-43・45より古	
	43	A X-52	方円	0.64	—	0.42		S K-42・44・45より新	
	44	A X-52	不整	1.63	1.13	0.63		S K-40より新、43より古	
	45	A X-51	方	1.56	—	0.80		S K-42より新、43より古	
	46	A X-51	隅円長方	1.07	0.78	—		S K-47より新	
	47	A X-51	不整	1.72	—	0.64		S D-5・S K-46より古	
	48	A W-51	円	1.00	—	0.50		S D-1・2より古	
	49	A X-51	円	1.00	—	0.58		S D-5より古	
	50	A X-51	長方	(0.95)	(0.60)	0.15		S D-5より古、1より新	
	区	51	A V-51	隅円長方	1.14	0.85	0.15		
		52	A W-50	方円	1.53	1.52	0.50		
53		A T-51	方円	1.03	—	0.45	スラッグ		
54		A U-51	隅円長方	1.50	1.02	0.45			
55		A U-51	不整	(0.74)	(0.30)	0.04		S K-56より古	
56		A U-51	方	1.40	1.30	0.36		S K-55・57・58より新	
57		A U-51	隅円長方	1.12	—	0.24		S K-56より古	
58		A U-51	隅円長方	0.90	0.72	0.10		S K-56より古	
59		A U-51	長方	1.20	0.80	0.32			

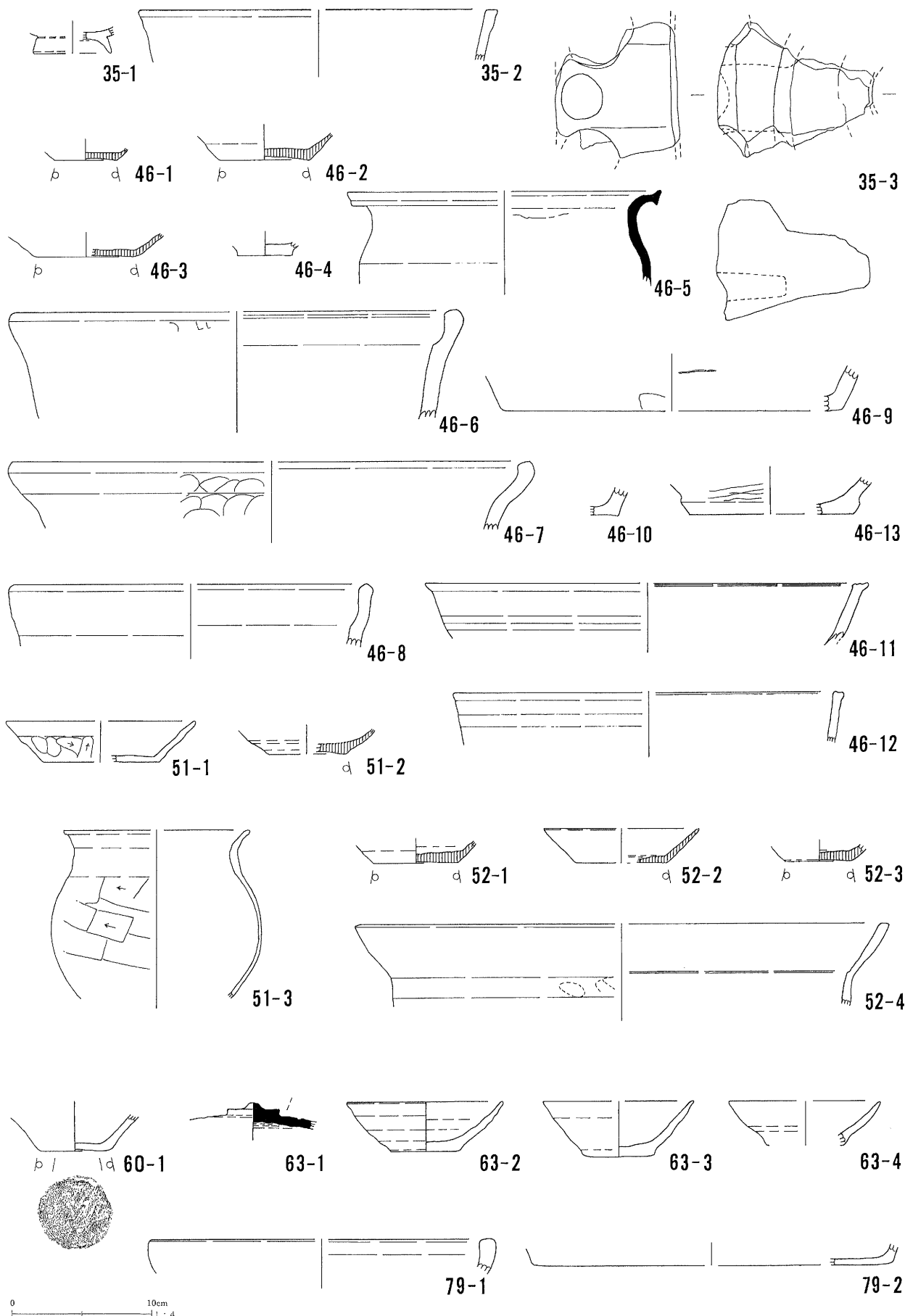
区	No.	位置	平面形	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	特殊遺物	備考
III	60	A U-50	不整	2.42	1.20	0.36		本来2土坑か
	61	A T-51	長円	—	1.00	0.25		
	62	A T-51	不整	1.20	(1.00)	0.20		本来2土坑か。S K-63より古
	63	A T-50	長円	1.70	1.15	0.42	礫	S K-62・P-47・48より新、S K-64より古
	64	A T-50	長円	0.85	(0.80)	0.33		S K-63・65より新
	65	A T-50	円	1.55	—	0.28		S K-64より古
	66	A U-50	円	0.65	—	0.10		S K-67より新
	67	A U-50	方円	0.78	—	0.12		S K-66より古、68より新
	68	A U-50	長円	0.82	0.44	0.15		S K-67より古
	69	A U-50	長円	4.25	0.75	0.20		S K-70より古
	70	A U-50	長円	1.70	1.15	0.26		S K-69より新
	71	A T-50	隅円長方	1.85	1.30	0.37		
	72	A T-49	長円	0.90	0.60	0.15	函	S K-73より新
	73	A T-49	長円	1.88	1.14	0.80		S K-72より古
	74	A T-49	隅円長方	1.36	1.12	0.46		
	75	A T-49	不整	1.48	—	0.18		S K-76より古
	76	A T-49	長円	1.64	1.25	0.34		S K-75・77より新
	77	A T-49	不整	1.17	1.15	0.25		S K-76より古
	78	A T-49	隅円長方	—	1.00	0.28		S K-79より古
	79	A T-49	方	2.20	2.00	0.42	古銭	S K-78より新
	80	A U-49	円	1.30	1.18	0.78		
	81	A S-49	不整	0.86	—	0.08		S K-82より古
	82	A S-49	不整	1.13	1.01	0.30		S K-81より新
	83	A S-49	不整	1.30	—	0.20		S K-84より古
	84	A S-49	隅円長方	—	1.18	0.45		S K-83より新、91より古
	85	A T-49	隅円長方	2.00	1.48	0.95		袋状土坑。S K-92より新
	86	A T-48	長方	—	1.22	0.67		S K-93より古
	87	A T-48	不整	1.52	1.04	0.25		S K-88より古
	88	A U-48	不整	1.00	0.81	0.66	礫	袋状土坑。S K-87より新
	89	A S-49	方円	0.98	—	0.20		S K-90より古
	90	A S-49	矩	—	1.28	0.54	鉄製品	S K-89より新、94より古
	91	A S-48	隅円長方	1.70	0.96	0.64		S K-84より新、94より古
	92	A S-48	不整	—	—	0.52		S K-84・85・91・94より古、93より新
	93	A T-48	不整	—	1.70	0.98		S K-86より新、92より古
	94	A S-48	長方	3.03	1.30	0.80	古銭・板碑・下臼・鉄片	S K-90・91より新、95より古
	95	A S-48	隅円長方	1.40	0.96	0.33		S K-94より新
	96	A S-48	不整	2.20	1.50	0.17		S K-97より古
	97	A S-48	隅円長方	1.50	1.16	0.68		S K-96より新
	98	A S-48	円	0.90	—	0.27		S K-99より古
	99	A S-48	隅円長方	1.70	1.02	0.50		S K-98より新
	100	A S-47	不整	1.05	(0.85)	0.43	下臼×2	S K-101より古、あるいは同一土坑か
	101	A S-47	不整	1.05	(0.95)	0.31		S K-100より新、あるいは同一土坑か
	102	A T-47	長円	1.12	0.42	0.32		
	103	A T-47	隅円長方	1.70	1.41	0.75	礫	
	104	A S-48	長円	1.51	0.93	0.69		S K-105より古
	105	A S-48	円	0.93	0.85	0.48		S K-104より新
	106	A S-47	長円	0.95	0.71	0.32		
	107	A S-47	長円	2.05	1.56	1.18	砥石・土錘・鉄片・礫	
	108	A S-47	不整	(1.48)	1.48	0.92		S K-109より新
	109	A S-47	長円	1.40	(0.82)	0.88		S K-108より古
	110	A S-47	隅円長方	2.96	1.70	0.65	骨・古銭	
	111	A R-47	不整	1.62	1.12	0.75		S K-113より新
	112	A R-47	不整	1.16	(0.60)	0.26		S K-113より古
	113	A R-47	長円	(2.38)	1.54	0.56		S K-111より古、112より新
	114	A R-46	円	0.96	—	0.06	礫	
	115	A R-45	長円	0.95	0.75	0.26		
	116	A S-43	隅円長方	1.31	1.05	0.14	上臼・礫	
	117	A R-43	隅円長方	1.57	1.15	0.22	礫	
	118	A L-37	不整	—	2.43	0.57	焼土	



第40图 土坑出土遺物(1) 第2号~32号土坑

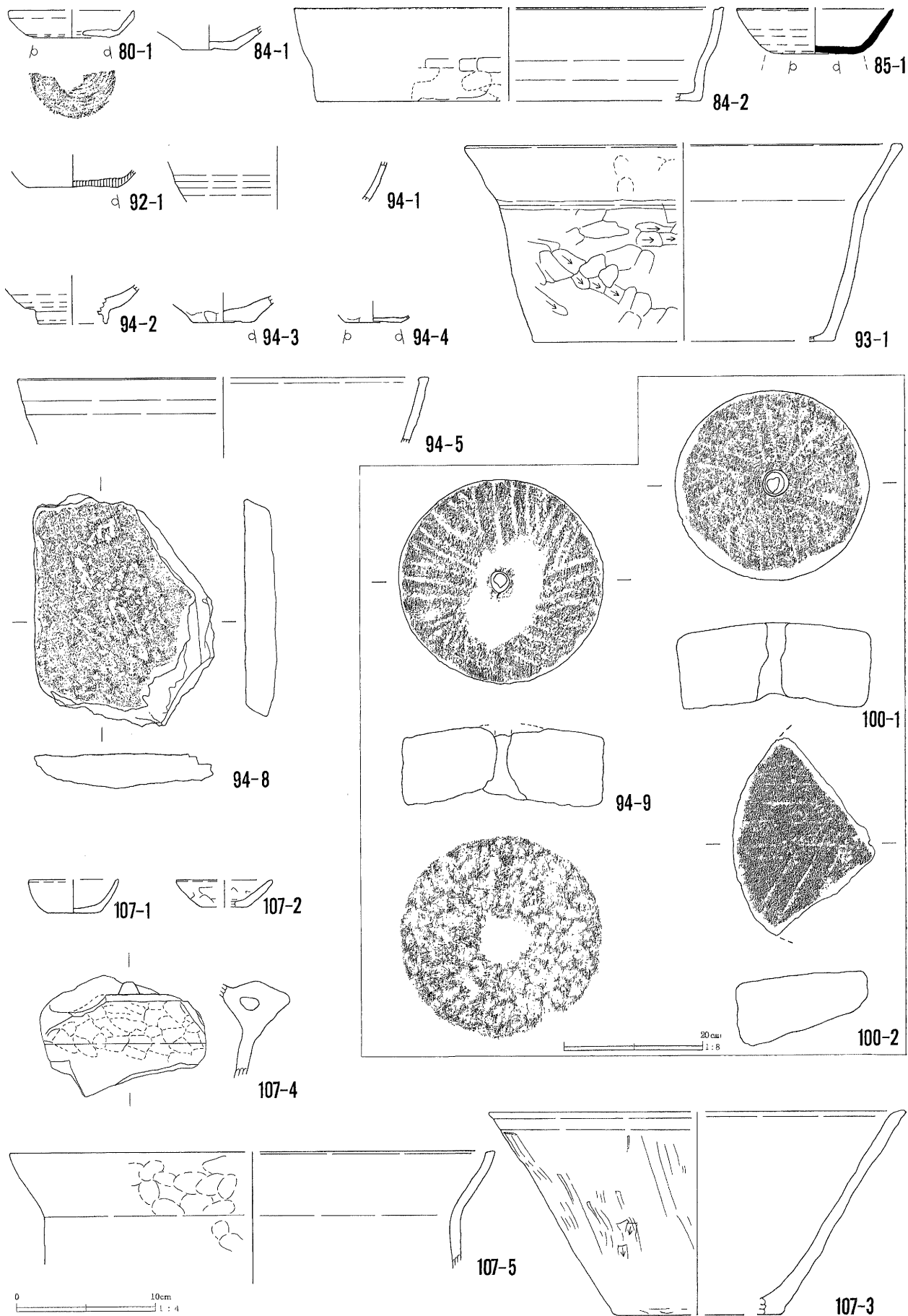
第13表 土坑出土遺物観察表 (第40~44区)

No	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1集-1	かわらけ・杯	12.2	2.9	7.4	B・A・J・E・K・N・O	B	橙	ほぼ完形	
1集-2	轆轤土師器・杯	—	—	5.8	B・A・I・E	B	橙	底部3/4	
1集-3	焙烙	(30.0)	—	—	M・A・B・E・K・O	B	黒褐	上位1/4	内外面煤付着。
1集-4	焙烙	—	—	(24.2)	A・B・M・G・I・K・E・N	C	黒褐	底部1/10	内外面煤付着。
1集-5	焙烙	—	—	(33.0)	E・M・B・A	C	灰白	底部1/30	
1集-6	石臼	径33.0、周辺部高さ11.2						1/6	上臼。
1集-7	石皿	径40.4						1/8	
1集-8	不明石製品	径16.7、周辺高さ8.3、中心高さ5.4						ほぼ完形	
2集-1	焙烙	(32.5)	(6.5)	(31.6)	B・I・M	B	鈍い黄褐	体部1/12	外面吸炭。
2集-2	天目茶碗	(11.6)	5.4	(6.4)	A	A	灰白	1/5	外面上位内面全面鉄釉。
2-1	砥石	最大幅(3.0)、最小幅(2.8)						—	
12-1	轆轤土師器・高台椀	—	—	(10.6)	M・N・A・G・J・I	C	黄灰	底部1/4	全面吸炭。
13-1	土師質・杯	(11.8)	2.8	5.0	B・E・I	A	鈍い黄橙	1/4	全面吸炭。内面煤付着。外面磨滅。
13-2	土錘	長さ3.1、径1.1、孔径2.5、重さ2.3g						完形	
13-参	スラッグ	重さ16.6g							
14-1	器台	11.56	2.95	13.25	B・A・I	B	橙	ほぼ完形	
15-1	轆轤土師器・杯	—	—	(8.2)	B・M・A	B	橙	下位1/6	
15-2	土師器・甕	—	—	(5.5)	B・M・D・J・K	B	鈍い黄橙	底部1/8	内面吸炭。
15-3-1	古銭	径2.5、最大厚0.12、重量2.3g、「開元通寶」、真書、背上月、							
15-3-2	古銭	径2.45、最大厚0.12、重量2.0g、「開元通寶」、真書、							
15-4-1	古銭	径2.4、最大厚0.1、重量1.7g、「○徳元寶」、私鑄銭か?、文字磨耗、							
15-4-2	古銭	径(2.3)、最大厚0.1、重量1.7g、「元○通○」、文字磨耗、							
15-5-1	古銭	径2.35、最大厚0.15、重量2.1g、「大中通寶」、真書、							
15-5-2	古銭	径一、最大厚0.15、重量0.4g、「○○○○」、一部のみ、							
15-参	菌								
16-1	五輪塔	空輪 長軸14.6、短軸11.6、高さ(10.7)、風輪 長軸上14.2下11.7、短軸上11.3下9.5、高さ7.5、全体 高さ(19.9)							
22-1	焙烙	—	—	—	A・B・M・I・K	B	鈍い黄橙	体部一部	外面煤付着。
22-2	焙烙	—	—	(23.0)	M・A・I・N	B	灰褐	底部一部	外面煤付着。
22-3	古銭	径(2.4)、最大厚0.15、重量1.4g、「政○通寶」、篆書、文字磨耗、							
23-1	轆轤土師器・杯	—	—	6.0	E・I・A・B・M	B	淡橙	底部3/4	内面吸炭。
23-2	打製石斧	最大長12.2、最大幅7.9、最大厚2.4、重さ250g						完形	
25-1	土師器・杯	—	—	(6.5)	M・A・B・I・N	B	橙	1/4	表面磨滅。
25-2	焙烙	—	—	—	I・A・E・M・N・G	B	鈍い褐	体部一部	外面煤付着。
25-3	焙烙	(30.2)	—	—	I・A・B・M・N・G	B	褐	口縁部1/16	外面煤付着。
25-4	砥石	最大長13.65、最大幅3.0、最大厚3.5、重さ210g							煤付着。
27-1	須恵器・高台椀	—	—	(7.4)	B・A・N・I	C	鈍い黄	底部1/2	
27-2	土師器・杯	—	—	(6.8)	E・I・M・A・N・H	B	明赤褐	底部1/4	表面磨滅。
27-3	焙烙	(33.6)	5.7	(28.3)	M・B・J・K・A・O	B	鈍い褐	1/3	二次加熱。煤付着。
27-4	古銭	径(2.55)、最大厚0.1、重量1.7g、「嘉祐通寶」、篆書、							
27-5-1	古銭	径2.5、最大厚0.13、重量3.3g、「皇宋通寶」、真書、							
27-5-2	古銭	径2.45、最大厚0.1、重量2.4g、「○宋通寶」、真書、文字磨耗、							
27-6	古銭	径(2.45)、最大厚0.09、重量1.4g、「元豊通寶」、行書、							
27-7	古銭	径2.5、最大厚0.09、重量1.5g、「祥符元寶」、真書、							
27-8-1	古銭	径2.5、最大厚0.13、重量3.0g、「景德元寶」、真書、							
27-8-2	古銭	径2.25、最大厚0.09、重量1.8g、「淳熙元寶」、真書、背十二、							
27-9	古銭	径2.45、最大厚0.12、重量2.6g、「元豊通寶」、篆書、							
28-1	かわらけ・杯	(11.8)	2.8	5.6	M・B・N・I	B	橙	1/3	表面磨滅。
32-1	須恵器・杯	—	—	(6.0)	M・A・I・N	B	黄灰	底部2/5	
32-2	須恵器・杯	—	—	(8.0)	A・B・M・I	B	鈍い黄褐	底部1/6	
32-3	須恵器・甕	—	—	—	A・B・E・D・N	B	灰	体部一部	外面に自然釉。
32-4	須恵器・甌	—	—	—	A・B・M・H	B	褐灰	底部一部	
32-5	轆轤土師器・皿	—	—	(7.0)	N・B・D・I	B	橙	下位1/4	
32-6	轆轤土師器・高台椀	(15.2)	6.4	7.8	M・N・A・I・E・G	A	橙	1/2	
32-7	土師器・甕	—	—	4.0	B・A・I・O	B	明赤褐	下位1/4	
32-8	土師器・台付甕	—	—	(9.4)	M・B・A・I	B	明赤褐	台部1/3	
35-1	土師器・高台椀	—	—	(5.6)	B・I・E・K	B	橙	下位	
35-2	焙烙	(26.0)	—	—	O・I・A・B	B	灰	口縁部1/24	外面炭化物付着。
35-3	石臼	径(22.0)、周辺部厚8.7						1/8	上臼。
35-参	鉄製品	重さ9.1g						—	

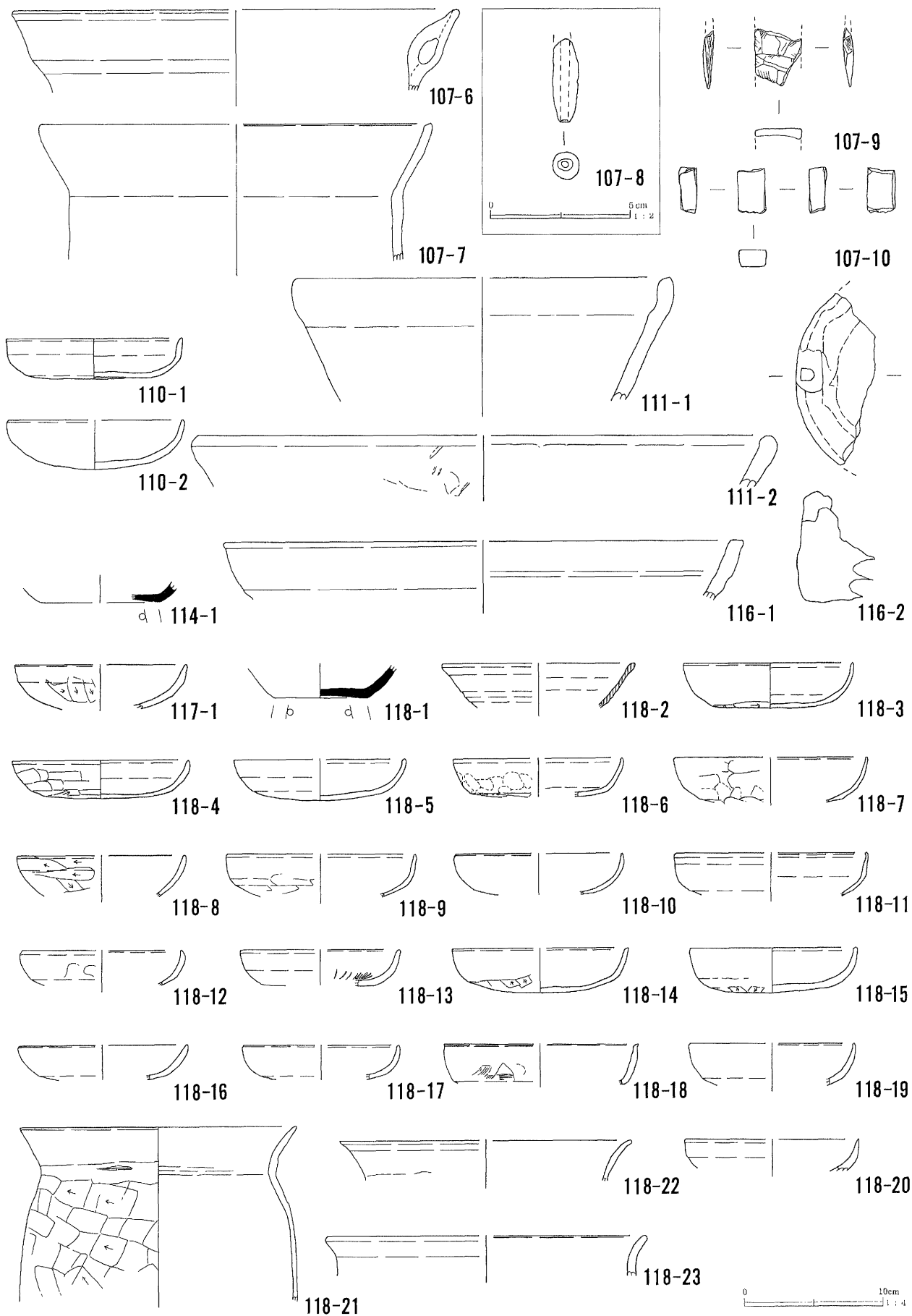


第41图 土坑出土遗物(2) 第35号~79号土坑

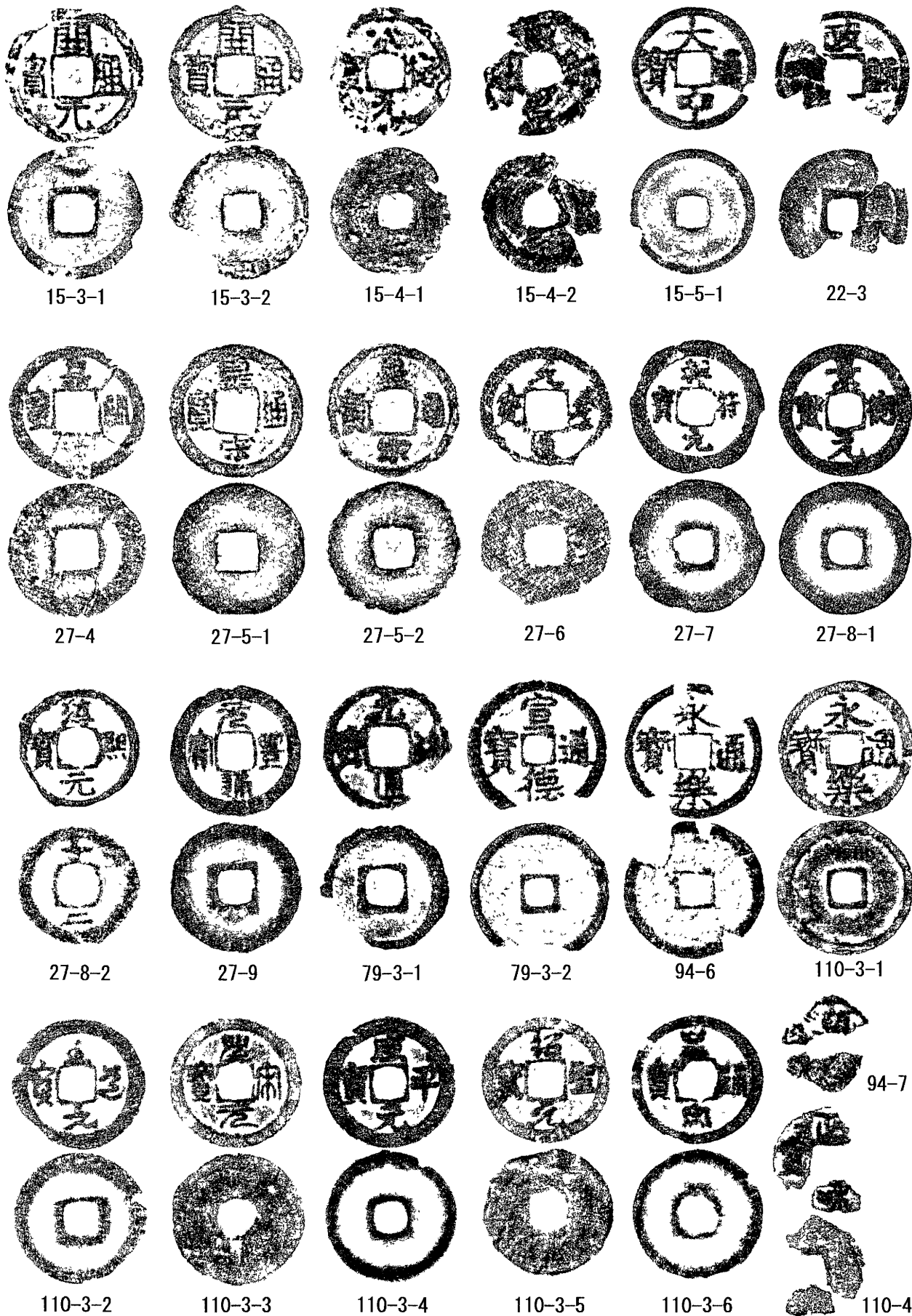
No	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考	
46-1	轆轤土師器・杯	—	(0.8)	4.6	B・A・E・I・J・N・K	B	橙	底部のみ		
46-2	轆轤土師器・杯	—	—	6.6	M・B・D・I・L・N	C	明黄褐	底部		
46-3	轆轤土師器・杯	—	—	7.2	I・A・B・M	B	橙	底部3/4		
46-4	かわらけ	—	—	4.0	B・A・I・D	B	橙	底部3/4		
46-5	須恵器・甕	(22.8)	—	—	B・A・I・N	B	灰黄	口縁部1/6		
46-6	焙烙	(32.9)	—	—	A・N・I	B	灰黄	上位一部		
46-7	焙烙	(37.6)	—	—	M・A・I・N・B・K	B	黄灰	口縁部1/12	外面炭化物付着。	
46-8	焙烙	(26.4)	—	—	B・A・I・E	B	灰	上位一部		
46-9	焙烙	—	—	(24.8)	I・A・E・N	B	鈍い橙	底部一部		
46-10	焙烙	—	—	—	A・B・I・N	B	鈍い橙	底部一部	内外面煤付着。	
46-11	焙烙	(32.4)	—	—	B・O・A・N	B	赤橙	口縁部1/6	二次加熱。	
46-12	焙烙	(28.2)	—	—	M・B・A・I	B	黄灰	1/12		
46-13	須恵質・甕	—	—	(12.0)	N・A・B・L・I	C	灰黄	下位1/8		
51-1	土師器・杯	(17.8)	3.0	(8.5)	E・B・I	A	橙	1/3	口縁内面の一部タール付着。内面剥離多。	
51-2	轆轤土師器・杯	—	—	(6.0)	B・I・D・G・A・M	B	鈍い黄橙	底部1/3		
51-3	土師器・甕	(13.6)	—	—	A・B・D・K	B	明赤褐	底部欠1/4		
52-1	轆轤土師器・杯	—	—	6.2	A・B・D・I・M・K	B	橙	底部のみ		
52-2	轆轤土師器・杯	(11.3)	2.5	(6.2)	E・A・B・I・H・G・M	B	橙	2/5		
52-3	轆轤土師器・杯	—	—	4.9	B・I・D・E・A・K・M	B	浅黄橙	底部3/4		
52-4	焙烙	(39.0)	(6.0)	—	B・I・D・K・M・N	B	鈍い黄橙	口縁部一部	外面煤付着。	
53	スラッグ	重さ16.4g								
60-1	轆轤土師器・杯	—	—	5.4	B・M・K・E・N・O	B	浅黄橙	底部のみ		
63-1	須恵質・蓋	—	—	—	B・A・I・J・M・N	B	灰黄	つまみ部分		
63-2	土師器・杯	11.5	3.6	5.1	B・K・I・G・A・D	B	鈍い橙	4/5		
63-3	土師器・杯	(11.0)	4.0	5.2	M・B・K・E	B	灰白	1/4		
63-4	かわらけ・杯	(11.0)	(3.2)	(5.6)	B・C・I	B	浅黄橙	上位1/4		
79-1	焙烙	(25.2)	—	—	A・B・I・L	B	灰黄	口縁部一部		
79-2	焙烙	—	—	(26.4)	M・N・O・G	B	橙	底部1/10		
79-3-1	古銭	径(2.5)、最大厚0.09、重量2.1g、「元祐通寶」、行書、								
79-3-2	古銭	径(2.55)、最大厚0.13、重量2.0g、「宣徳通寶」、真書、								
80-1	かわらけ	(9.3)	2.0	(5.7)	M・B・D・I・H・K	B	浅黄橙	1/4	底部中央穿孔。	
84-1	かわらけ	—	—	4.0	B・A・D・I	B	浅黄橙	底部一部欠		
84-2	焙烙	(31.4)	6.8	(28.2)	B・A・I・D・E・M	B	鈍い黄橙	1/12	内外面煤付着。吸炭。	
85-1	須恵器・杯	(11.5)	3.5	6.0	B・A	C	灰黄褐	1/2		
92-1	轆轤土師器・杯	—	—	(6.6)	M・B・A・C・J	B	明赤褐	底部3/8	内外面煤付着。	
93-1	焙烙	(32.0)	14.4	(22.0)	A・B・I・E・M・N	B	灰褐	1/4	内外面煤・炭化物付着。二次加熱。	
94-1	白磁・椀	—	—	—	—	A	灰白	一部		
94-2	青磁・高台椀	—	—	(5.2)	—	A	オリーブ灰	1/8		
94-3	かわらけ	—	(1.9)	(4.5)	B・K・D・E・G・M	B	浅黄橙	底部1/4		
94-4	かわらけ	—	—	4.0	B・A・D・I・M	B	橙	底部のみ		
94-5	焙烙	(30.0)	—	—	B・D・A・I・M	B	橙	口縁部一部		
94-6	古銭	径(2.5)、最大厚0.13、重量1.0g「永楽通寶」、真書、								
94-7	古銭	最大厚0.11、重量0.4g「治○○○」、篆書、一部のみ、								
94-8	板碑	厚さ(25.0)							一部	
94-9	石臼	上径29.55、下径27.3、高さ9.8、中央部高さ(11.5)、孔下径5.3、最小径1.55							完形	下白。
100-1	石臼	上径28.3、下径25.6、高さ10.0、中央部高さ12.5、孔上径3.8、下径4.4、最小径1.8							完形	下白。
100-2	石臼	上径(42.0)、下径(39.2)、高さ8.9、中央部高さ10.8、孔上径3.8、下径5.8、最小径2.2							1/4	下白。
107-1	かわらけ	(6.6)	2.4	3.8	M・B・A・K・E	B	橙	1/3		
107-2	かわらけ	(7.0)	2.0	(3.4)	B・D・A・I・K	B	鈍い黄橙	1/6	内外面煤・タール付着。	
107-3	焙烙	(30.6)	14.9	(12.6)	N・B・A・I	B	灰白	1/4		
107-4	焙烙	胴内部最大径(15.0)			I・A・N・D・H・K・M	B	灰	一部		
107-5	焙烙	35.4	—	—	M・O・A・K・N・E	B	鈍い黄褐	口縁部1/10	外面炭化物付着。二次加熱。	
107-6	焙烙	(32.6)	—	—	M・A・D・I・N	B	褐灰	口縁部1/12	内外面煤付着。	
107-7	焙烙	(28.2)	—	—	N・I・B・C・A	B	橙	口縁部1/5		
107-8	土錘	長さ(3.1)、最大幅1.1、重さ3.4g							ほぼ完形	
107-9	砥石	最大長(3.7)、最大幅(3.5)、最大厚(0.7)、重さ102g							—	三面使用。
107-10	砥石	最大長(3.7)、最大幅(2.0)、最大厚(1.3)、重さ14.1g							—	
110-1	土師器・杯	12.8	2.95	9.0	A・B・C・D・N・I	B	橙	ほぼ完形		
110-2	土師器・杯	(13.0)	3.7	—	B・I・J	B	橙	2/3		
110-3-1	古銭	径2.5、最大厚0.13、重量3.4g「永楽○寶」、真書、文字磨耗、								
110-3-2	古銭	径2.45、最大厚0.1、重量2.0g「至道元寶」、草書、								



第42图 土坑出土遗物(3) 第80号~107号土坑



第43图 土坑出土遗物(4) 第107号~118号土坑



第44图 土坑出土遺物(5)古錢

No.	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考	
110-3-3	古銭	径2.5、最大厚0.1、重量2.9g、「聖宋元寶」、篆書、								
110-3-4	古銭	径2.45、最大厚0.1、重量2.6g「かん平元寶」、真書、								
110-3-5	古銭	径2.45、最大厚0.1、重量2.7g「紹聖元寶」、行書、								
110-3-6	古銭	径2.4、最大厚0.08、重量1.9g、「皇宋通寶」、篆書、								
110-4	古銭	径、最大厚0.11、重量0.6g、「政和〇寶」、篆書、縁無し、文字磨耗、								
111-1	焙烙	(28.0)	—	—	N・B・I・A	B	灰オリーブ	上位一部		
111-2	焙烙	45.4	—	—	A・B・I・J・N	B	灰黄褐	口縁部1/24		
114-1	須恵器・杯	—	—	(9.0)	B・A・I	B	灰黄	底部一部		
116-1	焙烙	(38.0)	—	—	B・I・A	B	鈍い黄橙	体部1/6	外面煤付着。	
116-2	石臼	下径(7.5)、高さ(28.0)、							1/5	外面炭化物付着。
117-1	土師器・杯	(12.8)	—	—	M・B・G・N・I	B	明赤褐	口縁部1/4	内外面吸炭。	
118-1	須恵器・杯	—	—	7.0	A・B・I・L	B	灰黄	底部のみ		
118-2	轆轤土師器・杯	(14.2)	—	—	M・D・B・A	B	橙	口縁部1/4		
118-3	土師器・杯	12.5	3.3	8.7	M・B・J・K	B	橙	3/4		
118-4	土師器・杯	13.0	2.8	10.2	I・B	B	鈍い橙	3/5		
118-5	土師器・杯	(12.6)	3.0	(10.4)	M・B・K・J・I・O	B	橙	1/2		
118-6	土師器・杯	(12.4)	—	(10.0)	B・I・K・H・A・N	B	鈍い橙	2/5		
118-7	土師器・杯	(14.2)	—	(10.6)	B・I・D・H・A・K	B	明赤褐	1/5		
118-8	土師器・杯	(12.4)	—	—	B・A・K・J・O・N	B	橙	口縁部1/4	内外面煤付着。	
118-9	土師器・杯	(14.0)	—	(12.6)	I・B・K・A・M	B	橙	口縁部1/4		
118-10	土師器・杯	(12.3)	—	—	M・E・A・I	B	橙	1/6		
118-11	土師器・杯	(13.9)	—	—	A・D・I・J・N	B	橙	1/10		
118-12	土師器・杯	(12.0)	—	(10.4)	A・D・O・J・E	C	鈍い橙	体部1/8	内外面吸炭。	
118-13	土師器・杯	(11.8)	(2.5)	(8.5)	M・A・E・B・J・N・O	B	橙	1/8		
118-14	土師器・杯	(12.8)	3.3	(10.8)	B・A・M・I・J・K・E	B	橙	口縁部1/4		
118-15	土師器・杯	12.4	3.3	—	G・I・J・N・A・B	B	橙	2/3		
118-16	土師器・杯	(12.4)	—	(9.2)	M・A	B	橙	1/8		
118-17	土師器・杯	(11.2)	(2.45)	(9.0)	A・B・D・I・J・N	B	橙	口縁部1/3		
118-18	土師器・杯	14.3	—	—	A・B・C・I・J・N・K	B	橙	口縁部1/4		
118-19	土師器・杯	(12.1)	—	(10.4)	B・A・J	B	橙	口縁部1/4		
118-20	土師器・杯	(12.8)	—	—	M・A・D・I	B	橙	1/8		
118-21	土師器・甕	20.2	—	—	A・B・M・I・K・N	B	明赤褐	口縁部4/5	内外面一部吸炭。	
118-22	土師器・甕	(21.2)	—	—	A・B・I・J・D・N	B	橙	口縁部1/8		
118-23	土師器・甕	(23.1)	—	—	A・B・I・J・D・N	B	明赤褐	口縁部1/6		

5 ピット

ピットは、Ⅰ区42基、Ⅱ区1基、Ⅲ区23基、計66基が確認されている（第45図・第46図・第14表）。

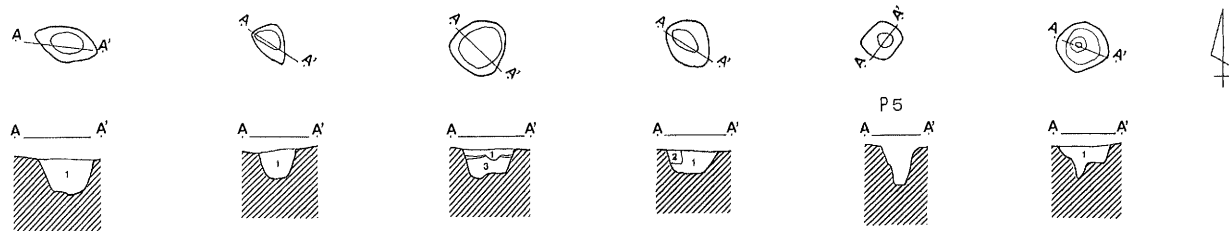
しかし、住居跡、土坑、溝跡など、各遺構の覆土中に平面プランは確認できなかったものの、ピット状の掘り込みが断面でみられる箇所もあり、その実数は確認できた数を上回することは確実である。

ピットの所在は、各調査区で特徴的である。Ⅰ区では、確認された42基の内、41基が15基の土坑と集中して所在し、第1土坑・ピット群を形成している（第23図）。うちP21～P38では、ある程度まとまりをみせるものの、他ピットとの直接的な関連性は確認されず、列を成すものではなく、全て単独であると判断された。

しかしながらP9では、平面プランで単独ピットと判断されたものの、断面の観察によって2基が重なっていたことが判明したものである。旧ピットの覆土は、暗黄褐色粘土粒・土器片を含む暗褐色粘土層（第2層）、新ピットの覆土は、暗黄褐色粘土粒を含む暗褐色粘土層（第1層）であり、第2層から須恵器椀（1）、第1層から坏形かわらけ（2）がそれぞれ出土している（第45図・第15表）。

Ⅱ区、Ⅲ区では、一部近在するものもあるが、所在自体単独が多い。

P9以外小片が多く、実測可能な遺物は、検出されていない。



P1 土層説明 (A-A')

- 1 暗褐色粘土。暗灰褐色粘土粒・酸化鉄・暗黄褐色粘土粒・焼土粒を含む。

P2 土層説明 (A-A')

- 1 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒を含む。

P3 土層説明 (A-A')

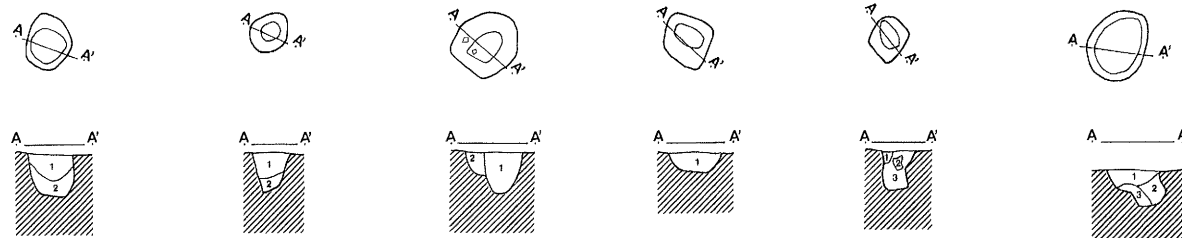
- 1 暗褐色粘土。
- 2 暗褐色粘土。酸化鉄を含む。
- 3 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒・焼土粒・炭化物を含む。

P4 土層説明 (A-A')

- 1 暗褐色粘土。焼土粒・炭化物を含む。
- 2 暗褐色粘土 (第1層より褐色味が強い)。

P6 土層説明 (A-A')

- 1 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・焼土粒・炭化物を含む。



P7 土層説明 (A-A')

- 1 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・炭化物を含む。
- 2 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒・焼土粒・炭化物を含む。

P8 土層説明 (A-A')

- 1 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・暗灰褐色粘土粒・炭化物を含む。
- 2 暗褐色粘土。焼土粒・炭化物を含む。

P9 土層説明 (A-A')

- 1 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒を含む。
- 2 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・土器片を含む。

P10 土層説明 (A-A')

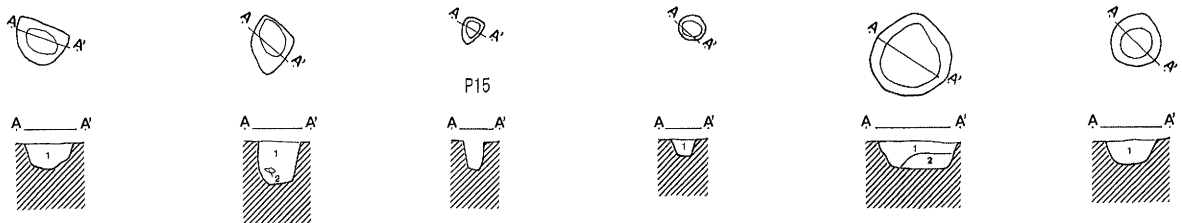
- 1 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・酸化鉄を含む。

P11 土層説明 (A-A')

- 1 暗褐色粘土。
- 2 暗褐色粘土。多量の炭化物を含む。
- 3 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒・酸化鉄・炭化物を含む。

P12 土層説明 (A-A')

- 1 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗黄褐色粘土粒・焼土粒・炭化物を含む。
- 2 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・炭化物を含む。
- 3 暗褐色粘土。多量の黒褐色粘土粒及び土器片を含む。



P13 土層説明 (A-A')

- 1 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・焼土粒・炭化物・土器片を含む。

P14 土層説明 (A-A')

- 1 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・暗灰褐色粘土粒・酸化鉄・黒褐色粘土粒・焼土粒・炭化物・土器片を含む。
- 2 灰白色粘土ブロック。

P16 土層説明 (A-A')

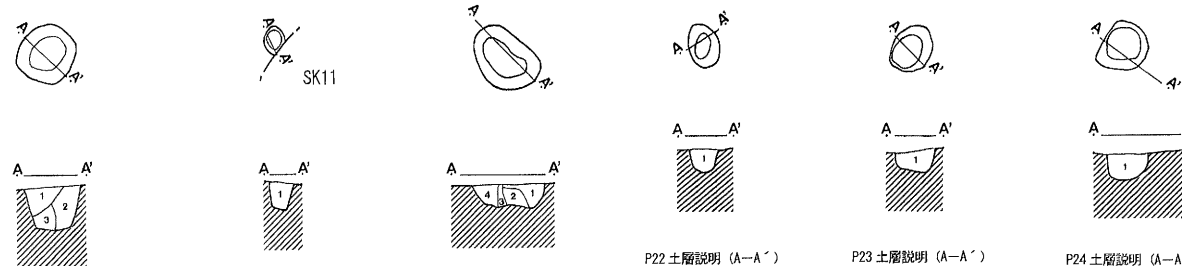
- 1 暗褐色粘土。少量の焼土粒・炭化物を含む。

P17 土層説明 (A-A')

- 1 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・焼土粒・炭化物を含む。
- 2 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・黒褐色粘土粒を含む。

P18 土層説明 (A-A')

- 1 暗褐色粘土。少量の炭化物を含む。



P19 土層説明 (A-A')

- 1 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒物を含む。
- 2 暗褐色粘土。多量の黒褐色粘土粒を含む。
- 3 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・焼土粒・炭化物を含む。

P20 土層説明 (A-A')

- 1 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒を含む。

P21 土層説明 (A-A')

- 1 暗褐色粘土。炭化物・暗灰褐色粘土粒・酸化鉄を含む。
- 2 暗褐色粘土。多量の暗灰褐色粘土粒・酸化鉄及び炭化物・暗黄褐色粘土粒を含む。
- 3 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒を含む。
- 4 暗褐色粘土。炭化物・暗黄褐色粘土粒を含む。

P22 土層説明 (A-A')

- 1 暗褐色粘土。暗黄褐色粘土粒・暗灰褐色粘土粒・酸化鉄・黒褐色粘土粒を含む。

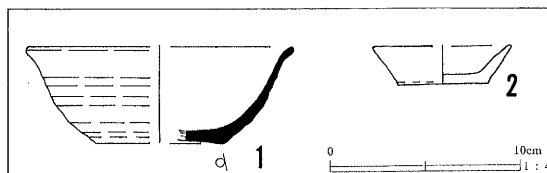
P23 土層説明 (A-A')

- 1 暗褐色粘土。炭化物を含む。

P24 土層説明 (A-A')

- 1 暗褐色粘土。黒褐色粘土粒・暗灰褐色粘土粒・酸化鉄を含む。

0 L=39.40m 2m 1:60



第45図 ピット (1) P1 ~ P24・P9 出土遺物



第46図 ピット (2) P 25~ P 41・ P 47~ P 50・ P 52~ P 66

第14表 ピット一覧表 (第45・46図)

区	No.	位置	平面形	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	区	No.	位置	平面形	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	
I	1	AQ-59	長円	0.52	0.28	0.28	I	34	AS-57	長円	0.46	0.29	0.31	
	2	AQ-59	不整	0.34	0.24	0.30		35	AR-57	長円	0.32	0.28	0.17	
	3	AQ-58	円	0.44	—	0.30		36	AS-57	不整	0.22	0.17	0.04	
	4	AQ-58	長円	0.41	0.33	0.19		37	AS-57	長円	0.34	0.23	0.13	
	5	AR-58	方	0.29	0.26	0.40		38	AS-57	方円	0.50	0.35	0.23	
	6	AQ-58	円	0.38	—	0.25		39	AO-57	不整	0.50	0.37	0.22	
	7	AQ-58	方円	0.42	0.36	0.33		II区	40	AO-57	円	0.27	—	0.21
	8	AQ-58	円	0.28	—	0.31			41	AO-57	円	0.41	—	0.33
	9	AQ-58	方円	0.53	0.49	0.33		42	AM-53	不整	(0.24)	(0.19)	0.57	
	10	AQ-58	矩形	0.37	0.38	0.16		III	43	AK-49	円	0.22	—	0.41
11	AQ-58	方	0.30	—	0.30	44	AX-51		長円	0.31	0.20	0.22		
12	AQ-57	長円	0.58	0.47	0.28	45	AX-51		長円	0.57	0.40	0.50		
13	AR-58	不整	0.42	0.31	0.20	46	AU-51		方円	0.30	—	0.30		
14	AR-58	矩形	0.36	0.33	0.33	47	AT-50		不整	(0.32)	0.30	0.30		
15	AR-58	不整	0.21	0.16	0.22	48	AU-50		長円	(0.21)	(0.16)	0.13		
16	AR-58	円	0.21	—	0.13	49	AU-50		不整	(0.25)	0.23	0.08		
17	AR-58	円	0.63	—	0.22	50	AV-49		方円	0.47	0.41	0.47		
18	AR-57	円	0.43	—	0.20	51	AT-49		長円	0.65	0.49	0.07		
19	AR-57	円	0.47	—	0.35	52	AU-48		長円	0.36	0.22	0.32		
II区	20	AR-57	方円	—	0.18	0.21	53	AS-48	円	0.30	—	0.07		
	21	AS-58	長円	0.59	0.41	0.19	54	AS-48	円	0.23	—	0.29		
	22	AS-58	長円	0.35	0.25	0.19	55	AS-48	円	0.38	—	0.25		
	23	AS-58	不整	0.39	0.31	0.19	56	AT-48	長円	0.18	0.13	0.33		
	24	AR-57	不整	0.42	0.35	0.21	57	AT-48	不整	0.38	0.22	0.49		
	25	AR-57	隅円長方	0.41	0.31	0.24	58	AS-46	長円	0.30	0.23	0.54		
	26	AS-57	長円	0.50	0.33	0.23	59	AS-46	不整	0.37	0.20	0.46		
	27	AR-57	長円	0.34	0.26	0.16	60	AS-46	不整	0.50	0.33	0.57		
	28	AR-57	長円	0.35	0.24	0.20	IV区	61	AS-44	不整	0.73	0.44		
	29	AR-57	円	0.40	—	0.22		62	AR-43	不整	0.44	0.40	0.32	
	30	AR-57	円	0.35	—	0.17		63	AR-43	不整	(0.46)	0.39	0.17	
	31	AR-57	長円	0.32	0.24	0.21		64	AR-43	長円	0.45	0.38	0.32	
	32	AR-57	円	0.52	—	0.23		65	AR-43	長円	0.23	0.16	0.11	
	33	AS-57	長円	0.49	0.39	0.24		66	AQ-42	円	0.47	—	0.43	

第15表 ピット跡出土遺物観察表 (第45図)

No.	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
9-1	須恵器・椀	(14.2)	5.1	(6.8)	A・B・L・I	B	黄灰	1/4	
9-2	かわらけ	(7.4)	2.0	4.8	M・B・E・C・I	B	浅黄橙	1/2	

6 遺構外出土遺物

遺構外からは、I区・II区・III区とも、遺構の所在しない空白区域からも、遺物が検出されている(第47図・第48図・第16表・第17表・第18表)。

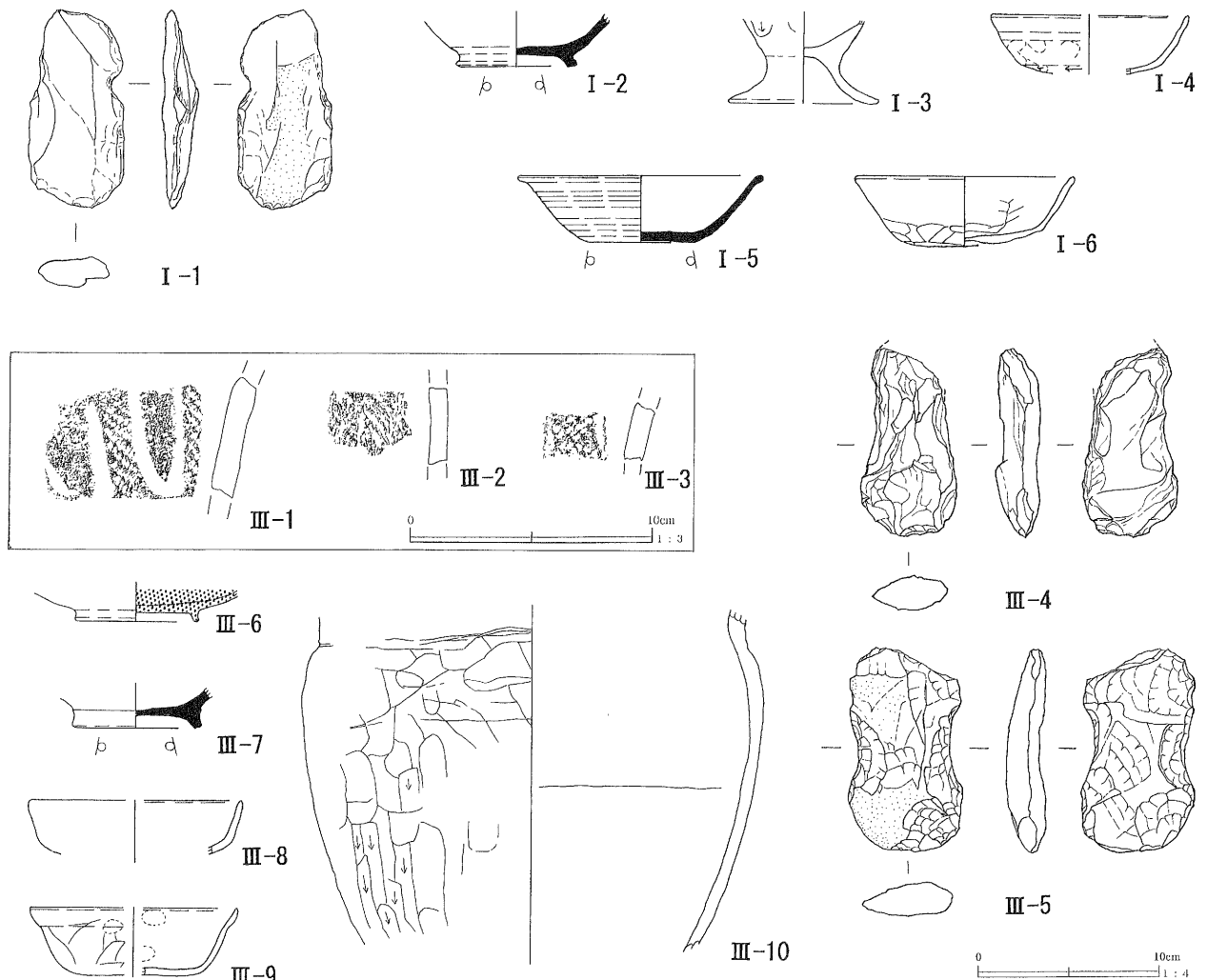
I区から検出された須恵器・土師器(4~6)はAN・AO-39グリッド、II区から検出された須恵器・灰釉(12~21)はAE-40・AF-41グリッド、III区から検出された縄文土器はAR-47グリッド、打製石斧はAN-39グリッドというように、まとまりをみせて検出されている。

第16表 I区遺構外出土遺物観察表 (第47図)

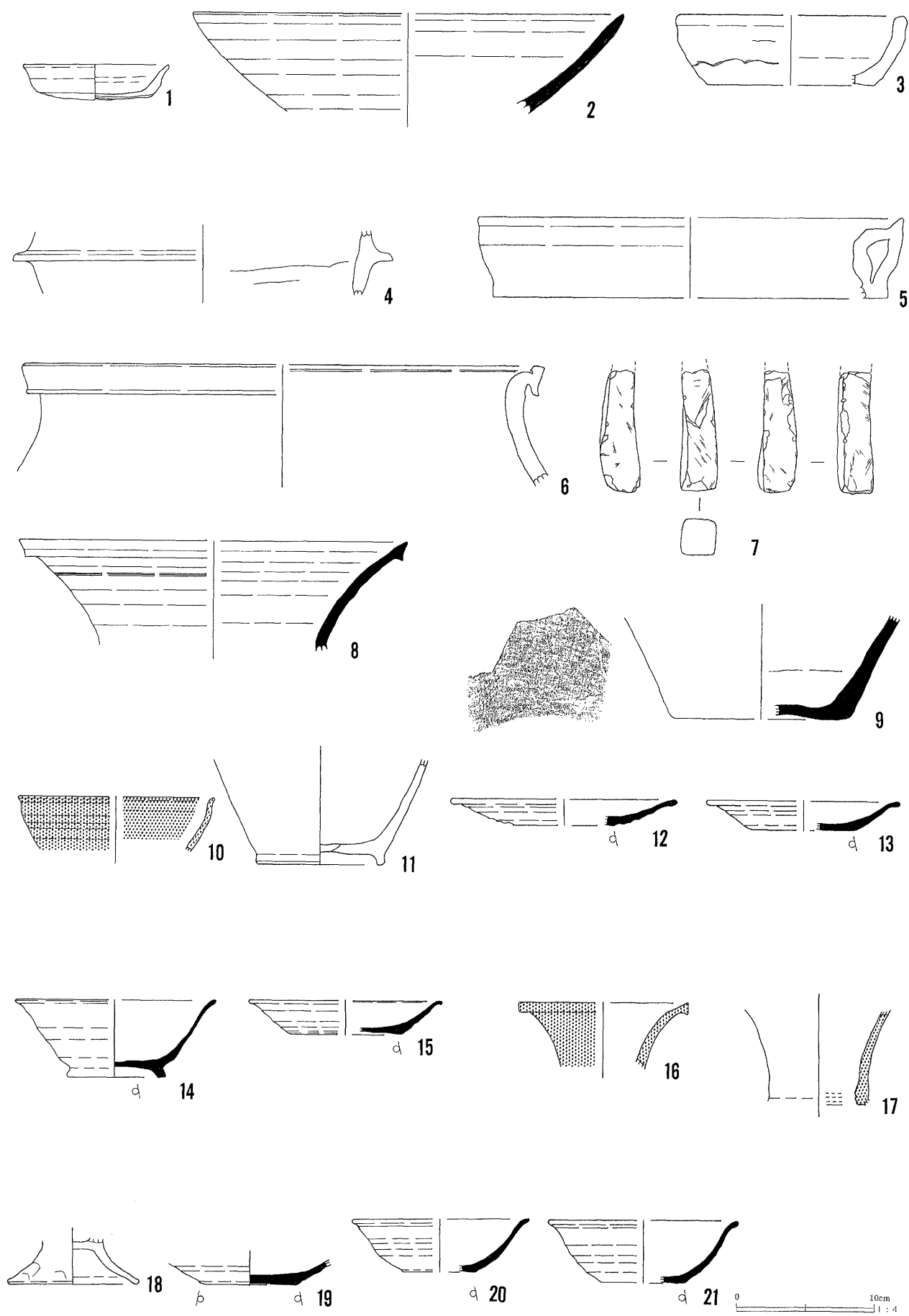
No.	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	打製石斧	最大長11.0、最大幅5.3、最大厚1.9、重さ100g						完形	
2	須恵器・高台椀	—	—	(6.7)	L・A・B・I	B	灰	底部1/3	内面滓付着。
3	土師器・台付甕	—	—	(8.4)	A・B・D・J・I・N	B	橙	底部1/4	
4	土師器・杯	(11.0)	—	(7.6)	B・A・C・I・J	B	明赤褐	上位1/4	A N-55
5	須恵器・杯	13.5	3.7	5.8	A・B・N・L・J	B	灰	4/5	A O-55
6	土師器・杯	12.2	3.9	—	B・K・I・A・D・M	B	鈍い褐	2/3	A O-55

第17表 II区遺構外出土遺物観察表 (第48図)

No.	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	土師器・杯	10.7	2.65	8.5	B・A・N	B	橙	完形	
2	須恵器・鉢	(31.8)	—	—	A・M・L・I・E	B	灰	口縁部1/4	
3	焙烙	(15.4)	5.1	(12.2)	A・B・I・J・G・N	B	橙	1/10	全面吸炭。
4	焙烙・羽釜	—	—	—	A・B・I・J・K・L・D	B	褐灰	—	カク乱。
5	焙烙	(31.1)	5.9	(29.0)	A・B・D・I・J	B	灰黄褐	1/20	
6	常滑甕	(38.6)	—	—	B・A・N	B	灰赤	口縁一部	
7	砥石	最大長9.05、最大幅2.8、最小幅1.8、重さ105g						ほぼ完形	
8	須恵器・甕	(28.4)	—	—	A・B・L・I・E・F・O	C	灰白	口縁部1/6	A I-46
9	須恵器・壺	—	—	(13.1)	A・B・E・L	C	鈍い黄	下位1/2	A I-46
10	灰釉・碗	(14.4)	—	—	—	A	鈍い黄橙	口縁部1/12	内外・全面釉。A G-43
11	須恵器・瓶	—	(7.6)	(9.4)	A・B・I・H・N	C	鈍い黄橙	底部4/5	底部中央穿孔。A G-42
12	須恵器・皿	(16.0)	(1.9)	(7.4)	L・A・D・I	B	黄灰	1/5	A F-41
13	須恵器・皿	(13.2)	2.2	(7.4)	L・A・D・G・I	B	鈍い黄	1/5	A F-41
14	須恵器・高台碗	14.7	5.7	7.2	L・A・B・I・J	B	黄灰	1/2	A F-41
15	須恵器・杯	(14.2)	2.5	(7.8)	A・L・M・I・E	B	黄灰	1/6	A F-41
16	灰釉・長頸瓶	(12.3)	—	—	—	B	浅黄	口縁部1/3	表面灰釉。A F-41
17	灰釉・長頸瓶	—	—	—	M・B・E	B	灰白	口縁部1/4	全面釉。A F-41
18	土師器・高台甕	—	—	(9.6)	A・B・D・I・J・K・N	B	橙	高台部2/3	A F-41
19	須恵器・皿	—	—	7.4	A・B・D・L・I	B	褐灰	底部のみ	A E-40
20	須恵器・杯	(13.0)	3.9	(5.4)	B・A・L・J	B	灰	1/5	A E-40
21	須恵質・碗	(14.0)	4.5	(6.3)	N・B・I・A	C	明黄褐	1/4	A E-40



第47図 I・III区遺構外出土遺物



第48图 II区遺構外出土遺物

第18表 Ⅲ区遺構外出土遺物観察表（第47図）

No.	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	縄文土器・深鉢	—	—	—	N・M・I・J・K	B	赤褐	胴部一部	縄文中期・加曾利EⅢ期。AR-47
2	縄文土器・深鉢	—	—	—	M・A・I	B	黒	胴部一部	縄文前期・黒浜期。AR-47
3	縄文土器・深鉢	—	—	—	N・M・A・I・H	B	明赤褐	胴部一部	縄文中期・加曾利EⅢ期。AR-47
4	石斧	最大長10.4、最大幅5.3、最大厚2.3、重さ140g						ほぼ完形	AN-39
5	石斧	最大長11.2、最大幅6.3、最大厚2.1、重さ170g						ほぼ完形	AN-39
6	灰釉・高台椀	—	—	(6.8)	B・M・A・E	A	灰白	底部1/3	全面灰釉。AV-50
7	須恵器・高台椀	—	—	7.2	A・B・L・I	B	灰	底部のみ	AU-48
8	土師器・杯	(11.8)	—	—	A・B・I・J	B	橙	口縁部1/6	AQ-43
9	土師器・甕	—	—	—	A・B・E・I・N	B	明赤褐	胴部1/4	AW-49
10	土師器・杯	(11.6)	3.8	—	E・M・B	B	橙	1/3	AR-42

V 調査のまとめ

今回報告した調査区（B区）で検出された遺構は、住居跡8軒、溝跡11条、集石土坑2基、土坑118基、ピット66基である。これらのうち、帰属時期が判明したものは、奈良時代が住居跡1軒、土坑4基、平安時代が住居6軒、溝跡4条、土坑12基、中・近世が溝跡7条、集石土坑2基、土坑17基他は時期不明といわざるを得ない。なお土坑・溝跡については、遺物の出土状況から流入可能性も高く、実数はこれより少なく、各数値は最大値である。

奈良時代に属する住居跡1軒、土坑4基は、本集落の開始時期を告げるものであるだけに、重要な意味合いをもとう。出土土器の内、土師器杯は、口縁が内湾するものはなくほぼ直立し、体部の下端の稜が顕著になり、丸底から平底化したものが多くなる。須恵器杯は、糸切りのままのものはなく、底部周囲をヘラ削りにより調整を加えている。土師器甕の口縁は大きく外反し、コの字状の兆しも窺えない。以上の点から、これら遺物群は、8世紀の半ば以前のものともみられるが、第117号土坑、第118号土坑が先行する要素が多く、第8号住居跡、第85号土坑、第114号土坑が後続している。このうち帰属時期が確実であるのは、第118号土坑と第8号住居跡のみであるが、両遺構の所在位置が隣接し、調査区の西端であることは、A区の東端検出の7号土坑の存在と考え合わせ、本集落の開始場所を示唆しているものと思われる。また、流入の可能性が高いとはいえ、遺物の出土位置も西に偏り、このことを裏付けていよう。

その後、8世紀の後半から9世紀の間、本集落は中断（A区では9世紀半まで存続）している。

本集落が再開するのは、10世紀の前半に至ってからである。本期に属する遺構として明確なのは、第1号・2号・3号・4号・6号・7号の6軒の住居跡である。いずれも体部の開きの大きな、酸化焰焼成による、轆轤土師器とよばれる一群の台付椀（坏）形土器が主体を占めている。このうち第1号・3号・7号の3軒の住居跡では、羽釜及び灰釉土器を伴出している。逆に羽釜を伴出していない第2号・4号・6号の3軒の住居跡では、灰釉もしていない。これらのことを勘案すると、本集落では、羽釜と灰釉の出現時期が一致するか能性が高いといえる。

第2号住居跡に切断された第7号溝跡のように、同期に属すると思われる溝跡が他（第2・3・4・5号）にも存在するが、明確ではない。

中・近世に属する土坑には、墓坑であったものが多く、礫を主体に、渡来銭を供えるもの、石臼・板碑等を同時埋葬するもの等数種がみられ、今後の分類が可能になると予想される。

写真図版



調査区 (B区) 全景 (真上から)



第1号住居跡・第31号土坑・P43



第2号住居跡



第1号住居跡 遺物出土状況 (1)



第3号住居跡



第1号住居跡 遺物出土状況 (2)



第3号住居跡カマド



第1号住居跡 遺物出土状況 (3)



第3号住居跡 遺物出土状況



第 4 号住居跡



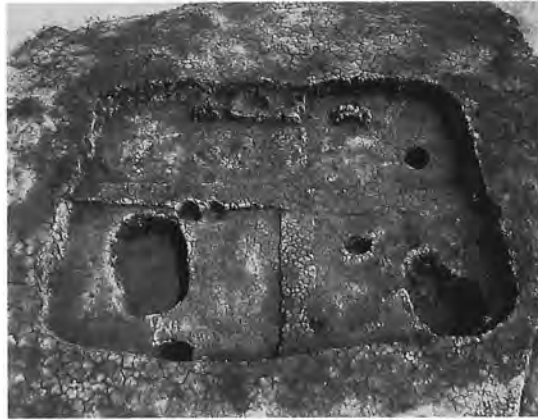
第 7 号住居跡



第 4 号住居跡カマド



第 7 号住居跡 遺物出土状況



第 6 号住居跡



第 7 号住居跡 カマド



第 6 号住居跡カマド 遺物出土状況



第 7 号住居跡 カマド遺物出土状況



第8号住居跡



第1号集石土坑 検出状況



第8号住居跡カマド



第1号集石土坑



第2・3・4・5号溝跡



第1号集石土坑 遺物出土状況(1)



第8号溝跡



第1号集石土坑 骨出土状況



第1号集石土坑 遺物出土状況(2)



第14号土坑



第2号集石土坑 検出状況



第14号土坑 遺物出土状況



第2号集石土坑



第15号土坑



第13号土坑



第15号土坑 歯検出状況



第15号土坑 遺物出土状况 (1)



第22号土坑



第15号土坑 遺物出土状况 (2)



第23号土坑



第2土坑群



第25号土坑



第16号土坑 遺物出土状况



第27号土坑



第27号土坑 遗物出土状况 (1)



第30号土坑



第27号土坑 遗物出土状况 (2)



第3土坑群北部



第27号土坑 遗物出土状况 (3)



第3土坑群南东部



第28号土坑



第3土坑群南部·第1·3号沟迹



第35号土坑·第1号沟迹



第63号土坑 遺物出土状况



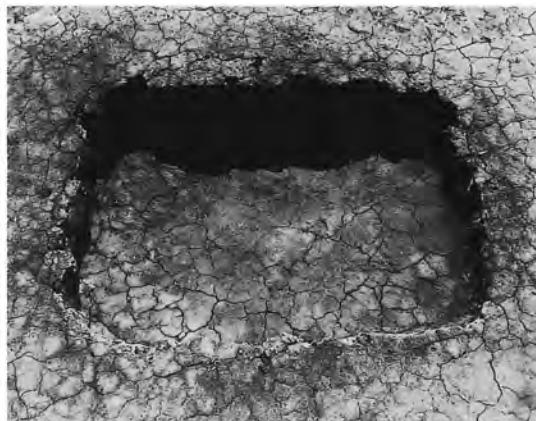
第4土坑群北部



第5土坑群



第4土坑群南部



第71号土坑



第52号土坑



第72·73号土坑



第72号土坑 齿出土状况



第106~109号土坑



第94号土坑 遗物出土状况



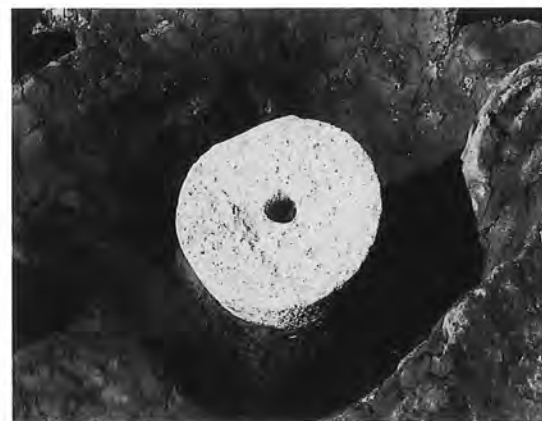
第107号土坑



第96~103号土坑



第107号土坑 遗物出土状况



第100号土坑 遗物出土状况



第110号土坑 骨出土状况



第110号土坑 遺物出土状況 (1)



第116・117号土坑



第110号土坑 遺物出土状況 (2)



第118号土坑



第111~113号土坑



第118号土坑 遺物出土状況



第116号土坑



作業風景



第1号住居跡 第5図1



I区遺構外 第47図I-5



第3号住居跡 第8図1



II区遺構外 第48図II-14



第7号住居跡 第14図1



第3号住居跡 第8図8



第1号住居跡 第5図2



第7号住居跡 第14図10



第85号土坑 第42図85-1



第32号土坑 第40図32-6



第8号住居跡 第15图3



第118号土坑 第42图118-5



第51号土坑 第41图51-1



第118号土坑 第42图118-15



第110号土坑 第42图110-1



I区遺構外 第47图I-6



第118号土坑 第42图118-3



II区遺構外 第48图II-1



第118号土坑 第42图118-4



III区遺構外 第47图III-10



第1号集石土坑 第40图1集-1



第107号土坑 第42图107-2



第63号土坑 第41图63-2



第14号土坑 第40图14-1



第63号土坑 第41图63-3



第1号住居跡 第5图8



第80号土坑 第42图80-1



第107号土坑 第42图107-1



第3号住居跡 第8图20



第3号住居跡 第8图19



第118号土坑 第42图118-21



第7号住居跡 第14图13



第15号土坑 参考品9



第7号住居跡 第14图14



第1号住居跡 第5图10
II区遺構外 第48图II-7
第13号土坑 第40图13-2
第107号土坑 第43图107-8



第1号集石土坑 第21图8



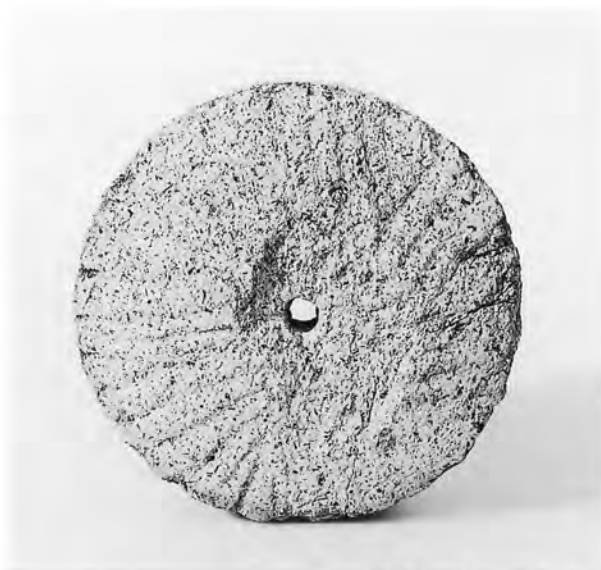
第16号土坑 第40图16-1



第94号土坑 第42图94-8



第1号集石土坑 第21图7



第94号土坑 第42图94-9



第1号集石土坑 第21图6



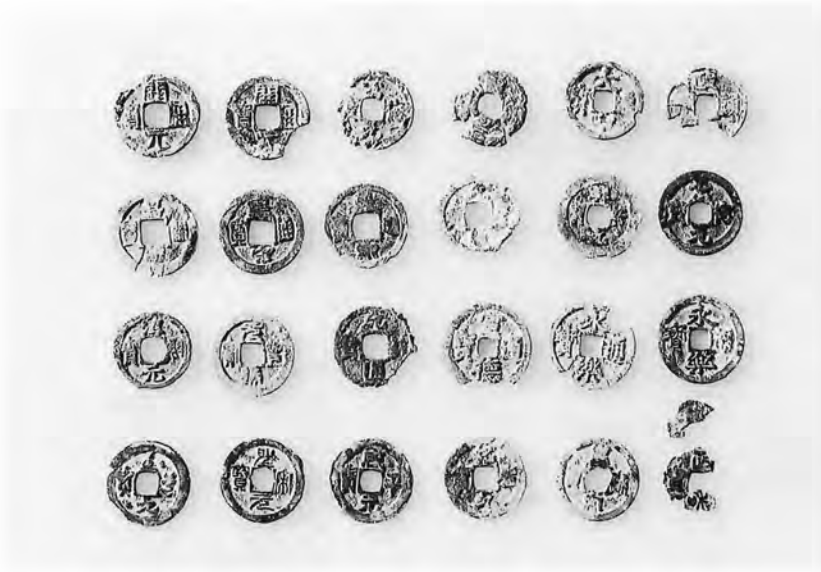
第100号土坑 第42图100-1



第35号土坑 第41图35-3



第100号土坑 第42图100-2



第44图

第15号土坑 3-1·2、
4-1·2、
5-1·2

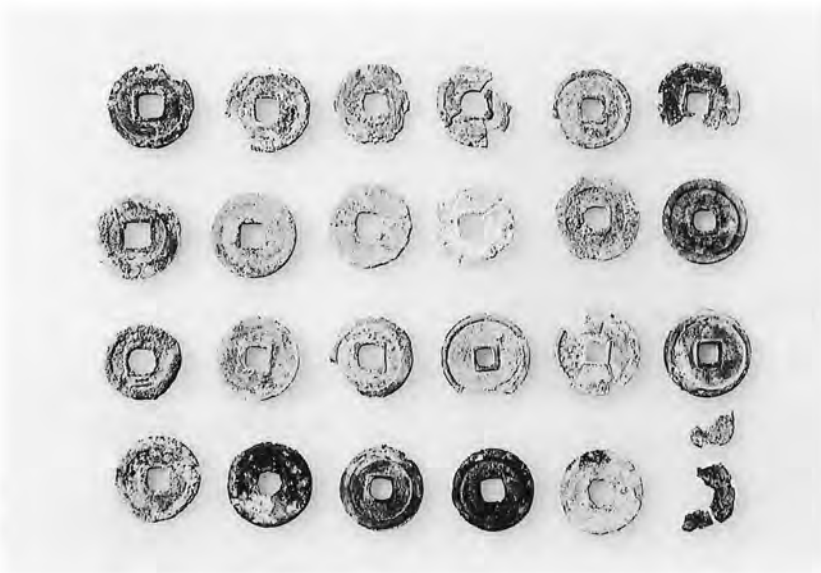
第22号土坑 3

第27号土坑 4、5-1·2、
6、7、
8-1·2、9

第79号土坑 3-1·2

第94号土坑 6、7

第110号土坑 3-1·2·3·
4·5·6、4



第1号住居跡 第5图9

第4号住居跡 第9图5

第5号住居跡 第10图2

第6号住居跡 第12图18·19

第35号土坑 参考品



第1号住居跡 2点
 第2号住居跡 4点
 第7号住居跡 5点
 第1号溝跡 1点
 第13号土坑 1点
 第53号土坑 1点



第6号住居跡 第12图12~17
 第5号溝跡 第19图5-6·
 7
 Ⅲ区遺構外 第47图Ⅲ-1·
 2·3



第5号溝跡 第19图5-8
 第23号土坑 第40图23-2
 I区遺構外 第47图I-1
 Ⅲ区遺構外 第47图Ⅲ-4·
 5

報告書抄録

ふりがな	じゅうろっけんうしろいせきⅡ							
書名	拾六間後遺跡Ⅱ							
副書名	平成18年度熊谷市埋蔵文化財調査報告書							
巻次	—							
シリーズ名	—							
シリーズ番号	—							
編集者名	寺社下 博							
編集機関	埼玉県熊谷市教育委員会							
所在地	〒360-8601 熊谷市宮町2-47-1 TEL 048-524-1111							
発行年月日	西暦2007（平成19）年3月30日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 (° ' ")	東緯 (° ' ")	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
じゅうろっけんうしろいせき 拾六間後遺跡	くまがやしにいぼりしんでん 熊谷市新堀新田 あざどうにし ほか 字堂西306他	11202	059	36°	139°	19891106	4,000	区画整理 街路築造 工事
				9′	19′	～		
				59″	45″	19900331		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
拾六間後遺跡	集落跡	縄文時代	—		土器・石器			
		奈良時代	住居跡	1軒	土師器・須恵器			
			土坑	4基	灰釉・轆轤土師器			
		平安時代	住居跡	6軒	土製品・鉄製品			
			土坑	12基	鉄滓・石製品			
			溝跡	5条				
		中・近世	集石土坑	2基	陶磁器・かわらけ			
			土坑	17基	鉄製品・銅製品			
			溝跡	6条	古銭・石製品			
		時期不明	住居跡	1軒				
土坑	85基							
			ピット群					

平成18年度熊谷市埋蔵文化財調査報告書

一熊谷都市計画事業籠原中央第二土地区画整理事業地内遺跡発掘調査報告書一

拾 六 間 後 遺 跡 Ⅱ

平成19年 3月30日発行

発行／埼玉県熊谷市教育委員会

印刷／巧和工芸印刷株式会社